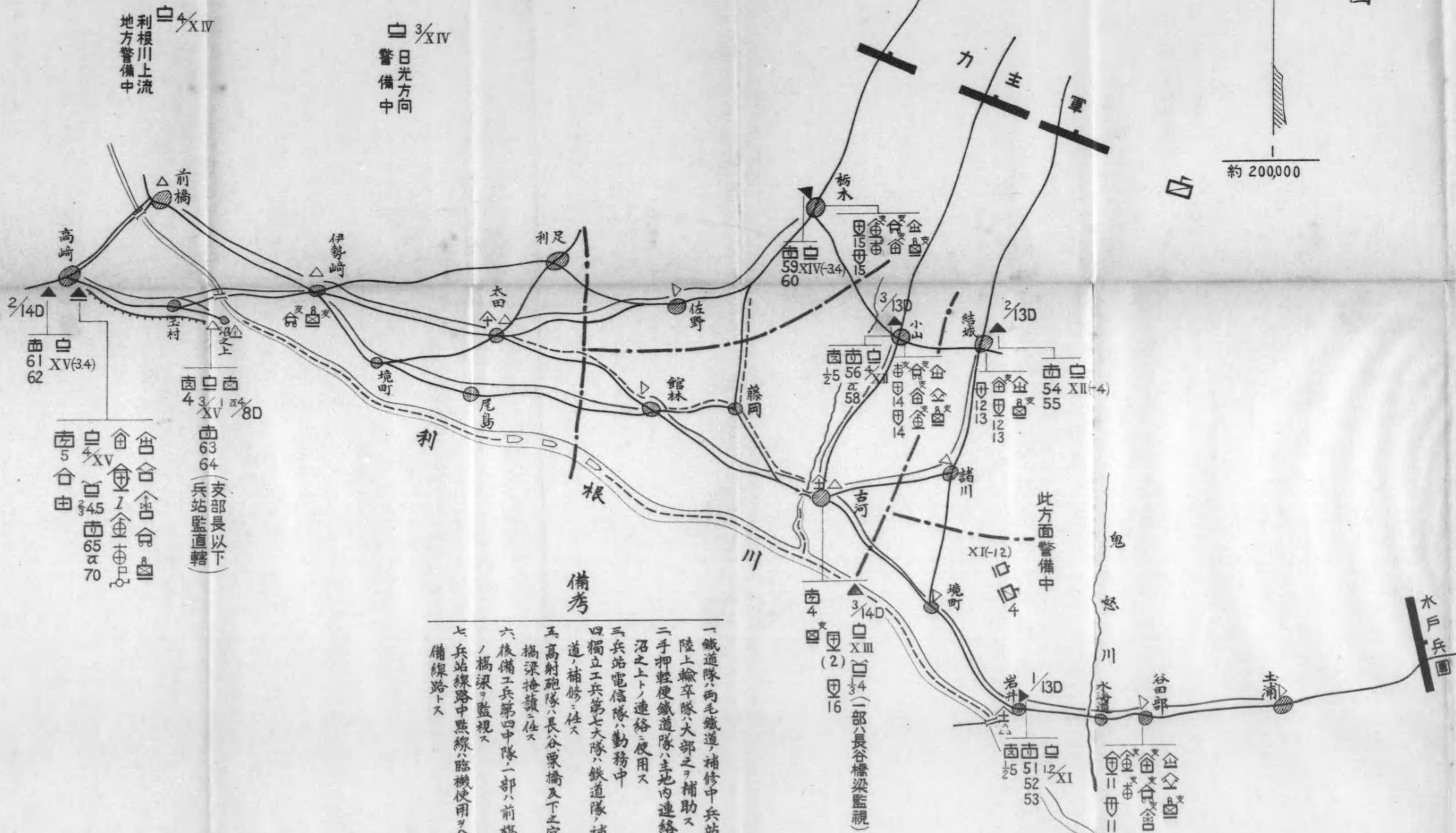






# 兵站諸部隊配置要圖

別圖



一 鐵道隊、向毛鐵道、補修中兵站監直轄、陸上輸卒隊、大部之ヲ補助ス

二 手押輕便鐵道隊、主地内連絡及主地ト沼之上トノ連絡ニ使用ス

三 兵站電信隊、勤務中

四 獨立工兵第七大隊、鐵道隊、補助自動車道、補修ニ任ス

五 高射砲隊、長谷栗橋及下之宮並前橋橋梁掩護ニ任ス

六 後備工兵第四中隊一部、前橋及下之宮ノ橋梁ヲ監視ス

七 兵站線路中點線、臨機使用ヲ企圖スル予備線路トス



糧秣補給區分表

備考	左兵站線	中兵站線		右兵站線	兵站線		補給日次及地點	補給擔任官
		被補給部隊	給養兵額 師團單位		左	右		
一、騎兵第一旅團ハ十三日ハ谷田部十四日以後結城ニ於テ補給ス又航空隊ニハ太田兵站地ヨリ補給ス 二、情況變化ナケレハ十五日以後ノ補給地點ハ十四日ニ同シ 三、給養兵額一師團ハ(人二〇、〇〇〇)(馬四、二〇〇〇)ヲ單位トシテ缺損及兵站部隊用ヲ見込マス	第十四師團 第一百二師團〔歩兵第四百旅團及野砲兵 第一百二聯隊(一大隊欠)〕 獨立山砲兵第一聯隊(第一、第二大隊欠) 野戰重砲兵第一聯隊第二大隊	軍司令部 第十三師團 野戰重砲兵第一旅團(第一聯隊欠) 獨立野戰重砲兵第一聯隊(第二大隊欠) 獨立工兵第八大隊 第七、第八野戰高射砲隊 野戰照明隊 第十三、第十四師團架橋材料中隊	第一百一師團 歩兵第四百旅團 騎兵第一旅團 野砲兵第一百二聯隊(一大隊欠) 獨立山砲兵第一聯隊第二大隊 野戰重砲兵第一聯隊(第二大隊欠) 第六師團架橋材料中隊	第六師團 第十二師團 獨立山砲兵第一聯隊第一大隊 飛行一中隊 第十二師團架橋材料中隊	給養兵額 師團單位 平均	十三日 十四日	▲ 1/14D	
	一・九	一・四	一・八	二・二	人	馬	平均	▲
	二・九	二・四	三・一	三・〇				▲
	二・四	計 四・四	二・五	二・六				▲
	佐野	一・九	諸川	谷田部				▲
	野	古河	結城	谷田部				▲
	栃木	小山	▲	▲				▲
	▲	▲	▲				▲	
	3/13D	2/13D	1/13D					



中兵站線輸送機關運行計畫表

小山	古河	館林	尾島	伊勢崎	高崎	0里
20	16	12	8	4		自(6) 十二月十二日
						自(6) 十三日
				軍口(4)(2)		十四日
				糧軍(3)		十五日
				糧軍(5)	同上	十六日

- 備考一 ○ハ携帶口糧ヲ ○○ハ彈藥等糧秣外軍需品ヲ示ス  
 二 自ハ自動車中隊ヘハ兵站輜重兵中隊ヲ示ス  
 三 自(6)ハ自動車中隊六ヲ軍(4)ハ糧秣外軍需品ヲ糧(3)ハ尋常糧秣ヲ又口(2)ハ携帶口糧ヲ輸送スル中隊數ヲ示ス  
 四 途中エリ運行シアルモノハ新編成モノヲ示ス  
 五 他表モ本備考ニ依ル

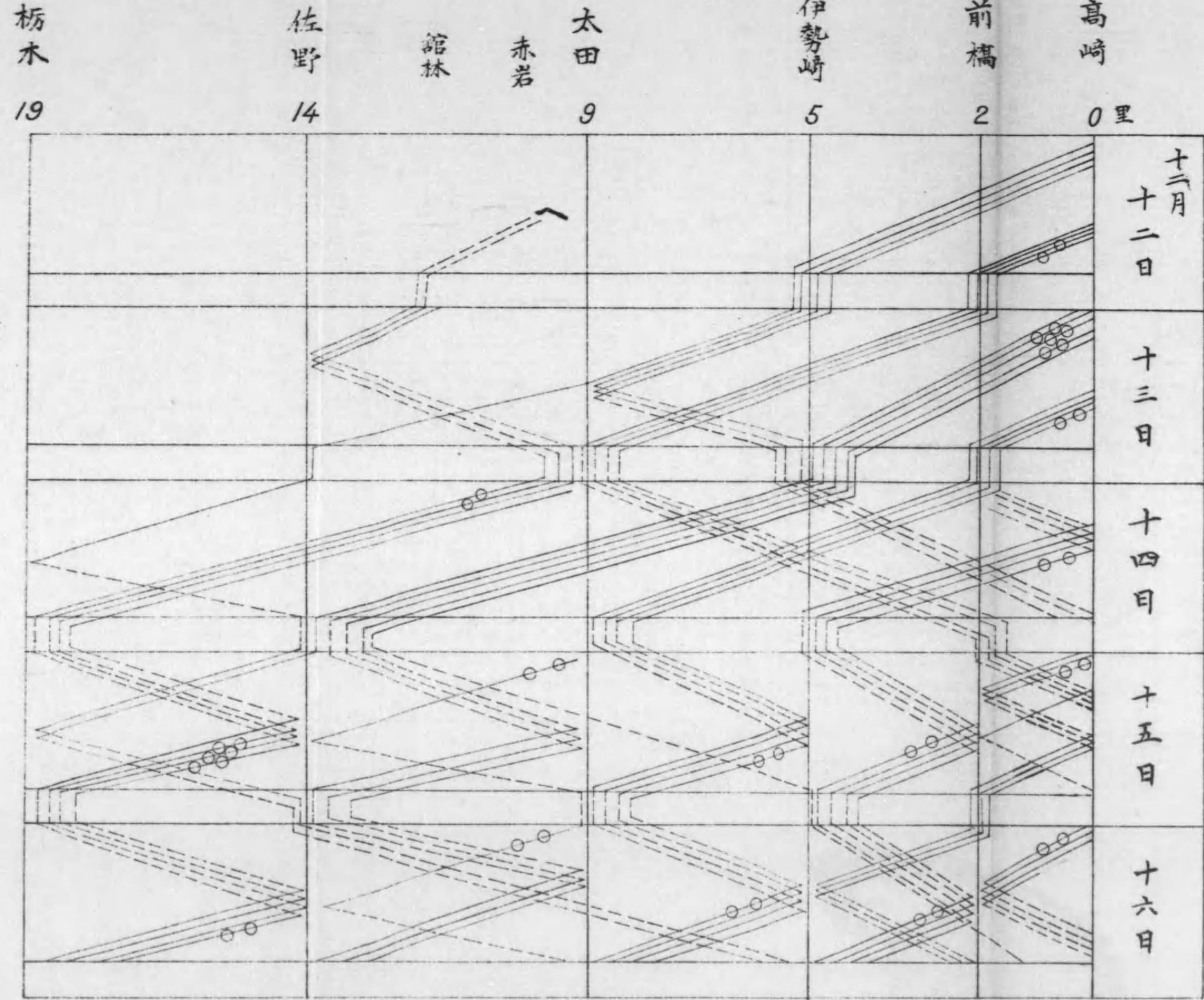






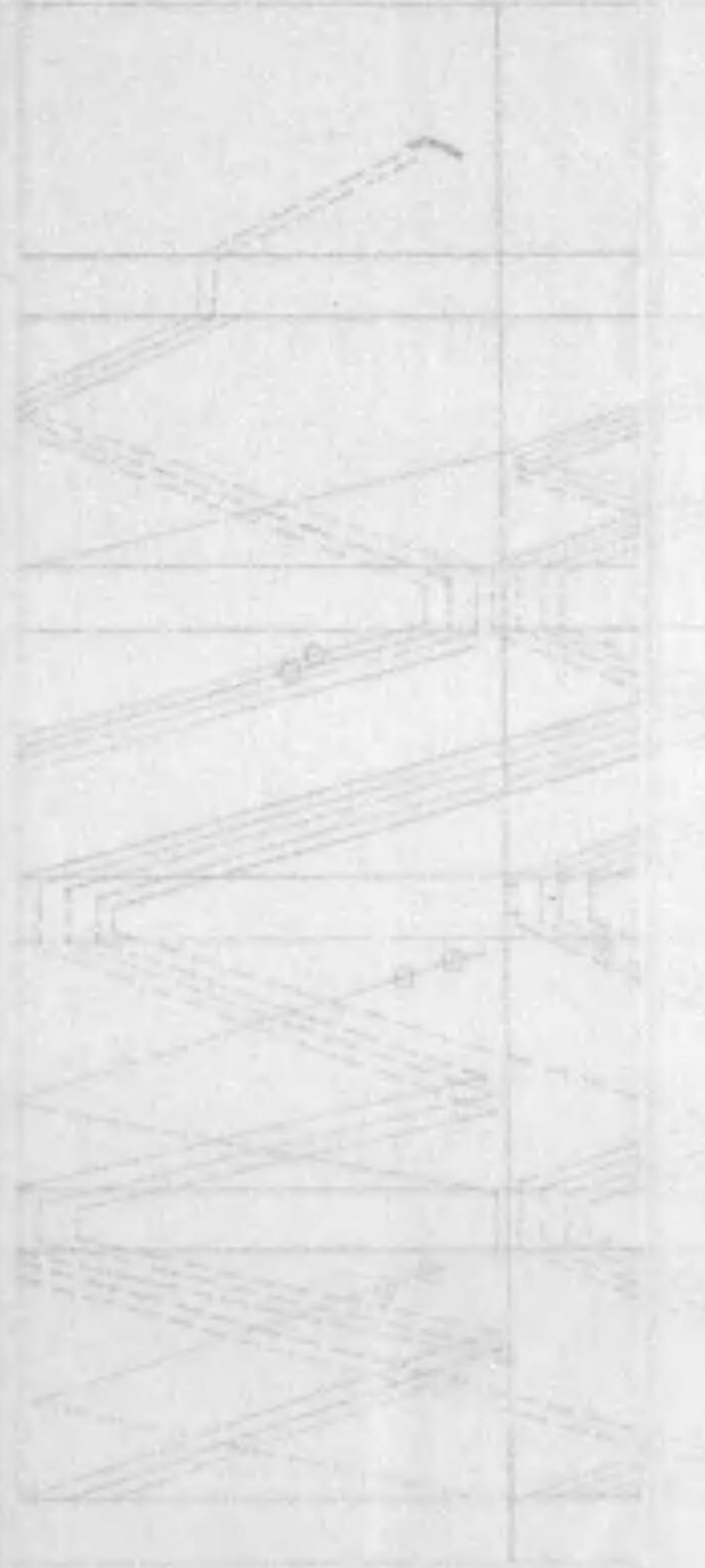
別紙第二三

左兵站線輸送機關運行計畫表





太田  
赤岩  
沼林



別紙第三

輸送機關配屬區分

考 備	第十四師團 第一兵站司令官	第十三師團 第二兵站司令官	第十三師團 第二兵站司令官	第十四師團 第二兵站司令官	被配屬者			
					配	屬	機	關
一、右兵站線ノモノハ之ヲ省略ス 二、自動車及水運材料並兵站司令部官區ニ跨リ使用スル縦列ハ兵站監ノ直轄ト 三、配屬縦列中ニハ兵站司令官ヲシテ編成セシムヘキモノヲモ含ム	兵站輻重兵二中 隊地方縦列一縦 列ヲ赤岩及館林 ニ於テ	兵站輻重兵六中 隊ヲ栗橋ニ於テ 地方縦列三縦列 ヲ古河ニ於テ	地方縦列四縦列 ヲ諸川ニ於テ	地方縦列六縦列 ヲ高崎ニ於テ	十二月十二日 地方縦列十一縦 列ヲ高崎ニ於テ	十二月十三日 地方縦列四縦列 ヲ高崎ニ於テ	十二月十四日 地方縦列四縦列 ヲ前橋ニ於テ同 一縦列ヲ太田ニ 於テ	十二月十五日 地方縦列四縦列 ヲ古河ニ於テ
	地方縦列三縦列 ヲ佐野ニ於テ同 一縦列ヲ栃木ニ 於テ	地方縦列ニ縦列 ヲ古河ニ於テ	地方縦列四縦列 ヲ諸川ニ於テ	地方縦列四縦列 ヲ前橋ニ於テ同 一縦列ヲ太田ニ 於テ				
		地方縦列四縦列 ヲ古河ニ於テ	地方縦列四縦列 ヲ諸川ニ於テ	地方縦列四縦列 ヲ前橋ニ於テ同 一縦列ヲ太田ニ 於テ				
		地方縦列四縦列 ヲ古河ニ於テ						



兵站監直屬部隊行軍計畫

部 區	隊 分	十二月十二日		十二月十三日		十二月十四日		摘 要	備 考
		出發時刻	出發地	出發時刻	出發地	出發時刻	出發地		
結城ニ位置スヘキ直屬部	午後一時	栗橋	古河	古河	古河	古河	結城	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ結城到着迄ハ第十三師團第三兵站司令官ノ擔任トス 三、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス	一、伊勢崎ニ位置スヘキ衣糧支廠、自動車廠支廠ハ十三日午前十時高崎出發任地ニ至ル 二、高射砲隊ノ移動等ハ之ヲ略ス
		栗橋	古河	古河	古河	古河	結城	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ結城到着後ハ第十三師團第三兵站司令官ノ擔任トス	
小山ニ位置スヘキ直屬部	午後二時	栗橋	古河	古河	古河	古河	小山	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ第十三師團第三兵站司令官ノ擔任トス	
		栗橋	古河	古河	古河	古河	小山	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ第十三師團第三兵站司令官ノ擔任トス	
古河ニ位置スヘキ直屬部	午後三時	栗橋	古河					一、後備歩兵第十三大隊長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ第十三師團第三兵站司令官ノ擔任トス	
		栗橋	古河					一、後備工兵小隊長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ太田迄ハ第十四師團第三兵站司令官ノ擔任トス 三、古河到着後ハ第十三師團第三兵站司令官ノ擔任トス	
古河ニ位置スヘキ直屬部	午前七時	高崎	太田	太田	太田	太田	古河	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ十三日迄ハ第十四師團第二兵站司令官ノ擔任トス	
		高崎	太田	太田	太田	太田	古河	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ十三日迄ハ第十四師團第二兵站司令官ノ擔任トス	
朽木ニ位置スヘキ直屬部	午前八時	境町	佐野	佐野	佐野	佐野	朽木	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ十三日迄ハ第十四師團第二兵站司令官ノ擔任トス	
		境町	佐野	佐野	佐野	佐野	朽木	一、野戰砲兵廠支廠長行軍ヲ區處ス 二、給養ハ十三日迄ハ第十四師團第二兵站司令官ノ擔任トス	



日	時	場所	事項	備考
十一月	二日	山崎	出陣	
十一月	三日	山崎	出陣	
十一月	四日	山崎	出陣	
十一月	五日	山崎	出陣	
十一月	六日	山崎	出陣	
十一月	七日	山崎	出陣	
十一月	八日	山崎	出陣	
十一月	九日	山崎	出陣	
十一月	十日	山崎	出陣	
十一月	十一日	山崎	出陣	
十一月	十二日	山崎	出陣	
十一月	十三日	山崎	出陣	
十一月	十四日	山崎	出陣	
十一月	十五日	山崎	出陣	
十一月	十六日	山崎	出陣	
十一月	十七日	山崎	出陣	
十一月	十八日	山崎	出陣	
十一月	十九日	山崎	出陣	
十一月	二十日	山崎	出陣	
十一月	二十一日	山崎	出陣	
十一月	二十二日	山崎	出陣	
十一月	二十三日	山崎	出陣	
十一月	二十四日	山崎	出陣	
十一月	二十五日	山崎	出陣	
十一月	二十六日	山崎	出陣	
十一月	二十七日	山崎	出陣	
十一月	二十八日	山崎	出陣	
十一月	二十九日	山崎	出陣	
十一月	三十日	山崎	出陣	

### 第三十二問題

#### 第十三師團第三兵站司令部部員トシテ小山兵站地偵察要圖

(注意)

(午後二時小山町統裁官宿舍ニ提出)

- 一、軍司令部等ハ小山ニ位置シアラサルモノトス
- 二、野戦豫備病院ハ特ニ開設スルモノト想定ス
- 三、兵站地防禦ハ研究外トス

右終テ現地偵察ヲ爲サシメ此間中食ヲナシ午後二時小山停車場構内ニ集合第三十一問題ノ研究ヲナス

### 第三十一問題研究

本問題ハ簡單ナル師團ノ前進命令ニシテ研究スルキ點ハ左ノ諸件ニ歸ス

#### 一、前進目標

軍主力方面ノ情況ハ明瞭ナラサルノミナラス根小屋、谷田貝ノ線ニハ敵ノ騎兵旅團アリテ其ノ背後ノ情況不明ナリ故ニ此際ニ於テハ能ク將來ヲ豫察シ一般ノ關係特ニ地形ニ鑑ミ爾後ノ行動ヲ拘束セラルルカ如キコトナキ地ニ向テ前進シ動作ノ自由ヲ保有シ置クコト肝要ナリ直ニ目標ヲ大道泉或ハ鬼怒川ノ線ニ選定スル如キハ此ノ趣旨ニ合セス今後發生スヘキ情況ノ變化ニ依リテハ大ナル困難ニ

演習第八日(十二月十三日)



遭遇スルコトアルヘシ谷田貝ハ一般ノ關係位置及道路網ノ状態ニ考フルモ能ク上述ノ趣旨ニ合ス故ニ師團ハ先ツ同地ニ向テ前進シ而シテ後更ニ爾後ノ行動ヲ決定スル如クスルヲ尤モ適當トスヘシ

二、行進路

師團カ以上ノ目的ヲ以テ谷田貝ニ向ヒ前進スル爲ニ道路ノ關係上眞壁―門井―小栗―谷田貝道及眞壁―下館―谷田貝道ノ二道ヲ利用シ二縦隊トナルヲ可トス而シテ兩道何レニ主力ヲ前進セシムヘキヤハ聊カ研究ヲ要ス

將來ノ攻撃ヲ豫期セハ戰略上師團ノ重點ヲ右方ニ有スルヲ可トス是レ敵翼包圍ノ威力ヲ大ナラシメシカ爲ナリ然レトモ敵若シ根小屋ノ高地線ヲ領有シアリトセンカ之ヲ攻撃スル爲ニハ師團ハ主力ヲ以テ左方谷田貝方面ヨリ迫ルヲ有利トス而シテ情況尙不明ニシテ師團ハ將來何レニ主力ヲ用フルヘキヤ不明ナリ

然リ而シテ更ニ仔細ニ地圖ヲ研究スルトキハ道路ノ關係上右ノ道路ヨリ左ノ道路方面ニ轉移スルハ困難ナルモ左方ヨリ右方ニ轉進スルハ極メテ容易ナリ故ニ此ノ際師團ハ主力ヲ以テ左方ノ道路ヲ前進スルヲ適當トス

三、細部ノ注意

- a. 此ノ不明ノ情況ニ於テ多數ニ縦隊ヲ分チ且廣正面ニ兵力ヲ分散シテ前進セントスルモノアルモ適當ナラス情況ノ變化ニ應シ適時軍隊ヲ區處スル事困難ナラン
- b. 行軍序列決定ノ原則ハ諸官既ニ十分承知ノ事ナルヲ以テ茲ニ説明セスト雖諸官ノ案中此ノ原

則ニ反スルモノ往々アリ例ヘハ野砲兵ノ前ニ山砲兵ヲ行進セシムルカ如キ本隊ノ先頭ニ前衛ト系統ヲ異ニセル聯隊ヲ行進セシムルカ如キ即チ是ナリ

- c. 此ノ命令ニ於テ特ニ本隊ノ集合ニ關スル規定ヲ細密ニ示シタルモノアリ然レモ本情況ニ於テハ諸隊ハ大部分開進中ニシテ一部ハ猶行軍ニアリ從テ更ニ集合命令ヲ要セサルナリ是本命令ト宿營中ノ部隊ヲ出發セシムル命令トノ異ナル所ナリ命令ヲ作爲スルニ際シテハ能ク情況ヲ顧ミサルヘカラス

- d. 本情況ニ於ケル如ク主要ナル行進路ヨリ他ニ轉進スルコトヲ豫期スルコト多キ場合ニ於テハ本隊砲兵ノ行進援助ノ爲メ必ス工兵ノ一部ヲ本隊ニ屬スルコト必要ナリ

第三十一問題原案

第六師團命令 於十二月十三日午前五時三十分 眞壁

軍隊區分

右縦隊

- 長 步兵第十二旅團長 少將 某
- 步兵第十二旅團(步兵第二十三聯隊及第二十四聯隊第一大隊欠)
- 騎兵一小隊
- 野砲兵第一大隊

演習第八日(十二月十三日)



山砲兵一中隊  
 工兵第二中隊(一小隊欠)  
 衛生隊第一中隊  
 左縱隊前衛  
 長 歩兵第十一旅團長 少將 某  
 歩兵第十一旅團(第二十一聯隊第一大隊及歩兵第二十二聯隊欠)  
 騎兵一小隊  
 野砲兵第二大隊  
 工兵第六大隊(第二中隊欠)  
 衛生隊第二中隊  
 左縱隊本隊(同行軍序列)  
 通信隊  
 無線電信一小隊  
 師團司令部  
 歩兵第二十二聯隊  
 工兵一小隊  
 野砲兵第六聯隊(第一、第二大隊欠)

山砲兵第一大隊(一中隊欠)

歩兵第二十三聯隊

野(山)砲兵聯隊段隊

衛生隊(第一、第二中隊欠)

- 一、斥候ノ報告ニ依レハ大道泉附近ニハ敵ノ一部アルモノノ如ク其ノ他敵情ニ就テ新報ヲ得ス  
 我右側支隊ハ第十二師團ノ部隊ト協力シテ笠間ノ敵ヲ驅逐シ同地ヲ占領シ後同方面ヲ第十二師團ノ部隊ニ譲リ午前一時同地ヲ發シ岩瀬方向ニ前進中ナリ
- 二、師團ハ軍ニ對スル敵ノ左翼ヲ求メテ之ヲ攻撃スル爲今ヨリ二縱隊トナリ先ツ谷田貝ニ向ヒ前進セルトス
- 三、右縱隊ハ午前六時三十分原方西方約千米道路集合點出發門井、小栗ヲ經テ谷田貝ニ向ヒ前進スヘシ
- 四、左縱隊前衛ハ午前六時三十分源法寺北方十字路出發下館ヲ經テ谷田貝ニ向ヒ前進スヘシ  
 特ニ谷田貝以西ノ前進路及鬼怒川ノ徒涉場ヲ偵察スルヲ要ス
- 五、左縱隊本隊タル諸隊ハ行軍序列ニ從ヒ前衛ノ後方千五百米ヲ前進スヘシ  
 但シ通信隊及無線電信一小隊ハ前衛本隊ノ直後ヲ跟隨スヘシ
- 六、大行李ハ眞壁ニ到着セハ開進シテ後命ヲ待ツヘシ

演習第八日(十二月十三日)



- 七、輜重ハ海老ヶ島ニ向ヒ前進スヘシ
- 八、予ハ本隊ノ先頭ニアリテ行進ス

傳達法

師團長 中 將 某

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

右終テ第三十二問題研究ニ入ル

### 第三十二問題研究

- 一、諸廠ノ支廠ハ補給ノ頻繁ナルト否トヲ顧慮シ補給ノ頻繁ナルモノハ前方ヨリ來ル縦列ニ交付スルニ便ナル位置ヲ選定セサルヘカラス  
即チ衣糧廠ノ如キハ成ルヘク前方ヲ可トス
- 二、砲兵廠ハ進入進出ノ便固ヨリ必要ナルモ尙管理保管ノ便ヲモ顧慮シテ決定セサルヘカラス從テ小山南端ノ如キハ適當ナラス
- 三、衛生材料廠支廠ハ病院ノ附近ヲ業務上便トス即チ病院ニ補充スルニ便ナレハナリ又前方ニ對シテハ補給量比較的少キヲ以テ進入進出ニ大ナル不便ナケレハ可ナリ
- 四、原蚕紙會社ヲ支廠ノ爲利用シタルモノアルモ他ニ地積アラハ管理及警戒上不便ナルヲ以テ利用セサルヲ可トス

ルヲ可トス

- 五、豫備馬廠及兵站病馬廠ヲ附近ニ水流ナキ地ニ位置セシメタルモノアルモ治療ノ爲ニ水ヲ要スルコト多キヲ以テ努メテ水流ノアル地ヲ選定スルヲ要ス又兩者ヲ遠隔シテ配置セシモノアルモ成ルヘク近傍ニ位置セシメ以テ互ニ協力セシムルヲ便トス又病院附近ハ不可ナリ
- 六、蚕糸製造場ニ砲兵廠、工兵廠及衣糧廠ノ支廠ヲ集結位置セシメタルモノタルモノアルモ補給ノ事ヲ顧慮セハ其ノ不便ナルヲ知ルヘシ
- 七、豫備病院ハ閑靜ナル所ヲ可トス故ニ之ヲ縦列ノ通過頻繁ナル地ニ設クルハ適當ナラス又製糸場ニ病院ヲ開設シタルモノアルモ家屋之ニ適セス蓋シ同所ハ倉庫多キニ過キサレハナリ又設定位置可ナルモ病院トシテ充當シタル家屋貧弱ニシテ收容力不足スルモノアリ
- 八、兵站司令部ヲ警察署ニ位置セシメタルモノアルモ適當ナラス地方行政官署ハ成ル可ク使用セサルヲ可トス但シ警察署員ヲ他ニ移シ依然勤務ニ服セシムルノ處置アレハ不可ナキモ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トス
- 九、兵站部隊ト通過軍隊トノ宿營地混淆セルモノアリ判然區別スルヲ要ス
- 十、本情況ニ於テハ捕虜收容場ヲ豫定シ置クヲ可トス
- 十一、小山迄思川ノ水路ヲ利用セシモノアルモ此ノ輸送力ハ情況ニ示セシ如ク貧弱ナリ又之ヲ利用スルトスルモ水上輸卒隊ヲ全部小山ニ使用スルハ不可ナリ宜シク古河ニ大部ヲ位置セシムルノ要アリ

演習第八日(十二月十三日)



第三十二問題原案

別紙要圖ノ如シ

續テ左ノ問題ヲ研究ス

第三十三問題

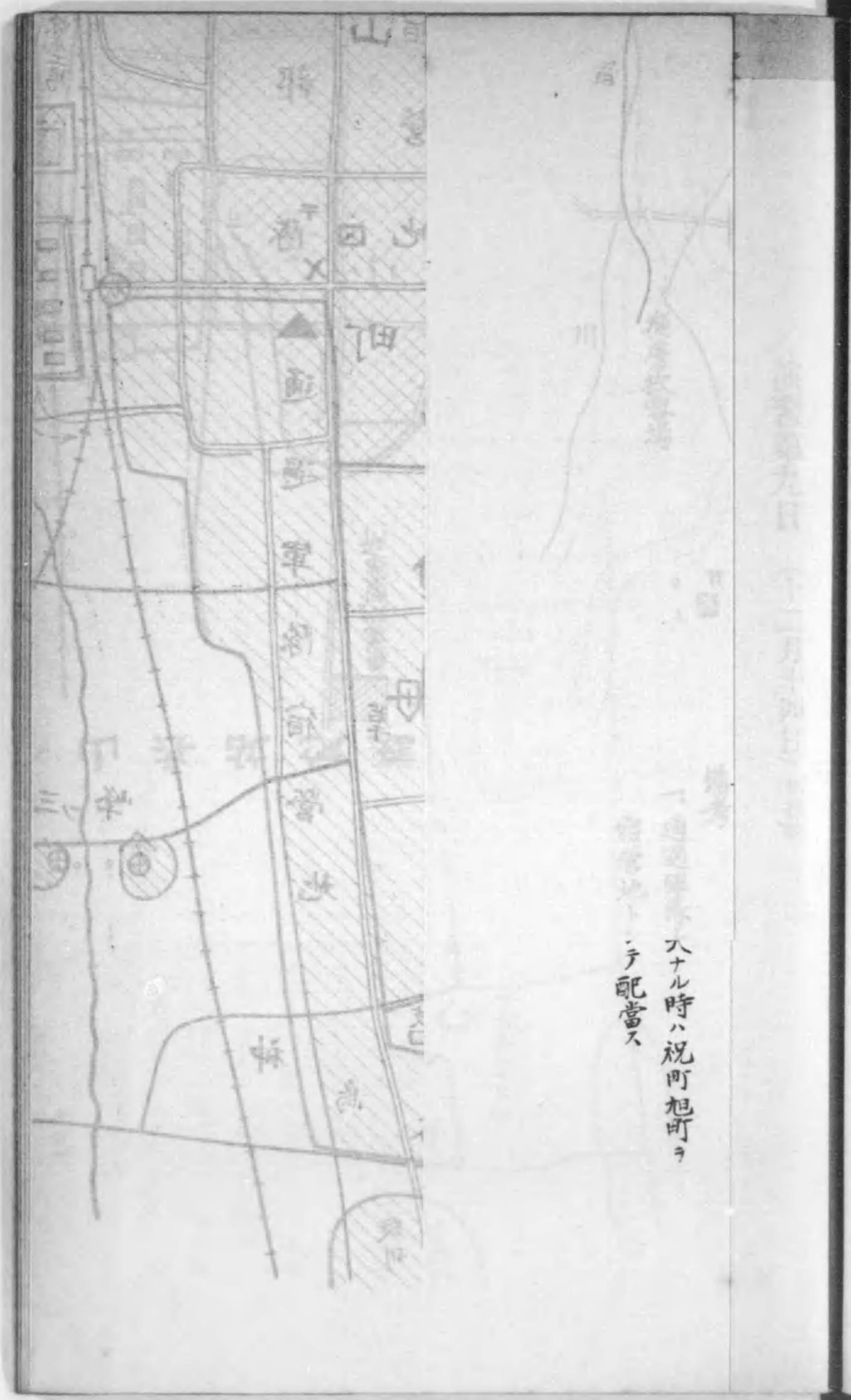
第六師團右縱隊ノ行軍區署

(原案ハ後ノ情況ニ示スカ如シ)

第三十三情況 (第六師團方面)

作戰十二月十三日

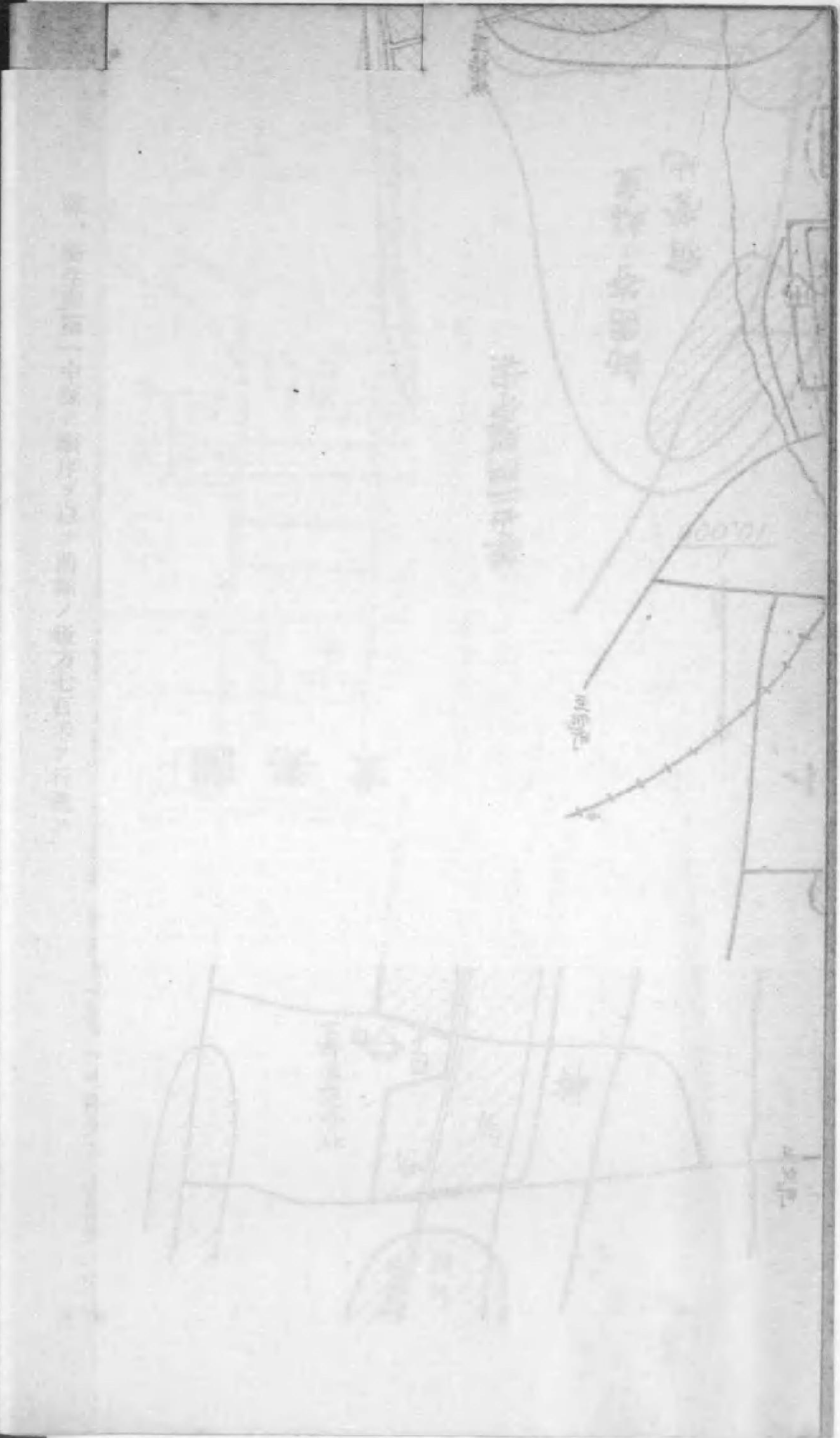
右縱隊ハ步兵第三大隊ノ一中隊ニ傳騎ヲ附シ右側衛トシテ午前六時三十分東飯田ヲ發シ大國玉、蓬田新田、宮本ヲ經テ谷田貝北側ニ向ハシメ前衛トシテ步兵第二大隊(二中隊欠)、騎兵小隊ノ主力、野砲兵一中隊、工兵一中隊(一小隊欠)ヲ所定ノ右縱隊進路ヲ前進セシメ本隊ハ騎兵一分隊、旅團司令部、聯隊本部、步兵第二大隊ノ二中隊、步兵第三大隊(一中隊欠)歩兵砲隊、野砲兵大隊(一中隊欠)、山砲兵一中隊、衛生隊第一中隊ノ順序ヲ以テ前衛ノ後方七百米ヲ行進ス











### 演習第九日 (十二月十四日) 雨後晴

午前七時三十七分小山停車場發汽車ニシテ新治驛ニ至ル此ノ日總務部隊岸本少將視察セラル午前八時十分新治停車場ニテ研究開始

#### 第三十四情況 (第六師團方面)

十二月十三日(續キ)

右縱隊長ハ朝來前方ニ銃砲聲ヲ又岩瀬方面ニ銃聲ヲ聞キツツ前進シ途中騎兵旅團ト連絡シテ左ノ事ヲ知ル

- 一、岩瀬ノ敵ニ對シアリシ騎兵旅團ノ二中隊ハ師團ノ右側支隊ト協力シテ天明後ヨリ岩瀬ノ敵ヲ攻撃中ナリ同地ノ敵ハ騎兵約二中隊及今泉ヨリ退却シタル歩兵一中隊ナルモノノ如シ
- 二、騎兵旅團ハ支援歩兵大隊ノ到着後同大隊ヲシテ根小屋附近ノ敵ヲ攻撃セシメ騎兵旅團ノ主力ハ谷田貝附近ノ敵ヲ攻撃中ニシテ其ノ騎砲中隊ハ大關附近ニ在リテ右兩部隊ノ攻撃ヲ援助シツツアリ
- 三、根小屋附近ニアル敵ハ從來騎兵約二中隊ナリシカ今朝更ニ騎兵一、二中隊ヲ増加シタルカ如ク徒歩ニテ若干工事セル根小屋高地ヲ占領シテ極力抵抗シツツアリ又其ノ騎砲兵一中隊ハ南鹿附近ニ在

演習第九日(十二月十四日)



リ

午前七時五十分右縦隊長ハ右縦隊本隊ノ先頭ニアリテ金敷東端ニ達スルヤ飛行機ヨリノ報告筒ヲ受領ス  
其内容別紙要圖ノ如シ

第三十四問題

右縦隊長ノ決心及處置



右縦隊長ノ決心及處置

第三十四問題

其内容別紙要圖ノ如シ

午前七時五十分右縦隊長ハ右縦隊本隊ノ先頭ニアリテ金敷東端ニ達スルヤ飛行機ヨリノ報告筒ヲ受領ス

一六六





# 眞岡附近偵察要圖

十月二十三日午前七時三十分

步兵六七大隊アリ  
砲十數門アリ

七井村  
後尾八猶集合中

益子町

此方面部隊アリ

步兵三大隊砲アリ

鶴田

八條

東郷

眞岡町

磯山

小林

繪荷箱 小栗村

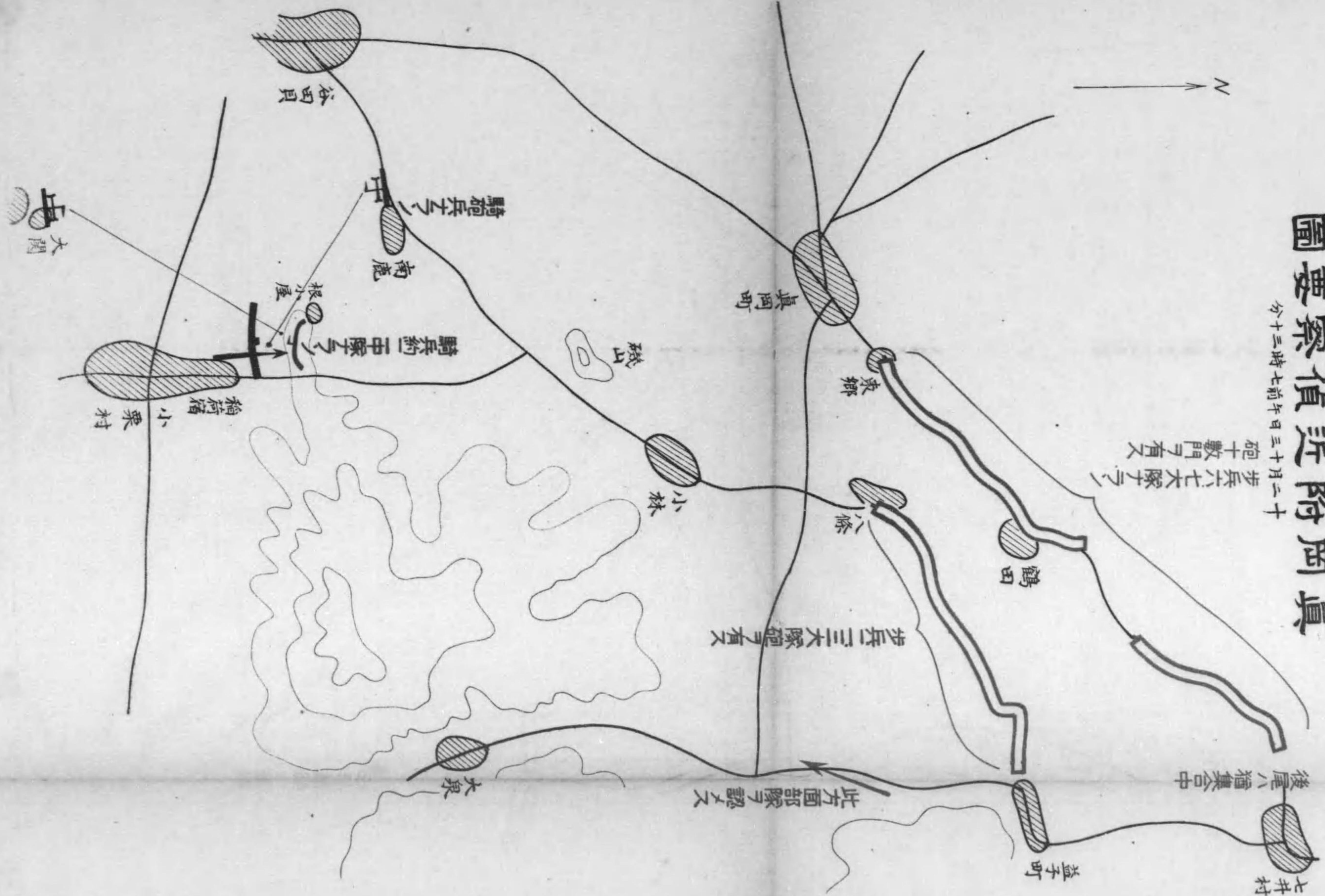
騎兵約中隊アリ

南鹿  
騎砲兵アリ

根小屋

谷田貝

大関





### 第三十四問題研究

情況ハ一變セリ師團元來ノ目標タル敵主力軍左翼方面ノ情況未タ不明ナリト雖本情況ニ於テハ師團ハ先ツ眞岡方向ヨリ前進中ナル微弱師團ノ敵ヲ處分セサルヘカラス而シテ彼我ノ中間ニ横ハル根小屋附近ノ高地ノ領有ハ本遭遇戦ニ於ケル勝敗ヲ定ムヘキ天王山ニシテ目下敵ノ騎兵之ヲ占有シアリト雖我歩騎兵之カ攻撃中ニシテ而モ距離上右縦隊ハ眞岡方向ヨリ前進中ノ敵ニ先シテ之ニ到著シ得ルノ關係ニ在リ故ニ右縦隊ハ假令單獨戦闘ヲ惹起スルトモ斷然之カ獲得ヲ敢行セサルヘカラス

諸官ノ中ニハ戰場附近ノ地形ノ觀察ニ不注意ノモノアリ又數日來師團以上ノ作戰ノミ研究セシ爲カ小部隊ノ運用甚タ拙ナルモノアリ此ノ地形ヲ一見スレハ右方ニ森林ヲ以テ蓋ハレアル隱蔽地連リ其ノ左方ニハ一望開濶ナル水田アルヲ知ルヘシ然ラハ即チ前者ノ方向ニハ歩兵ノ大部ヲ行進セシメ後ノ方面ニハ砲兵ノ主力ヲ使用シ直ニ根小屋高地ニ對シテ砲火ヲ注キ以テ速ニ諸部隊ヲ攻撃ヲ援助スルコトニ注目セサルヘカラス

### 第三十四問題原案

決心

演習第九日(十二月十四日)



右縦隊ハ師團爾後ノ戦闘ヲ有利ナラシムル目的ヲ以テ根小屋高地ヲ占領セントス

一六八

處置

- 一、右側衛ハ直ニ蓬田新田方向ニ前進シ騎兵旅團支援歩兵大隊ニ協力シ根小屋高地ニ向ヒ攻撃セシム
- 二、前衛ハ門井ヲ經テ小栗方面ニ前進シ騎兵旅團支援歩兵大隊ニ協力シ根小屋高地ニ向ヒ攻撃セシム
- 三、野砲兵大隊(一中隊欠)ハ門井ニ向ヒ急進セシム
- 四、殘餘ノ本隊タル諸隊ハ臺原ヲ經テ蓬田新田方向ニ轉進セシム
- 五、縦隊長ハ歩兵聯隊長野砲兵大隊長及山砲兵中隊長ヲ伴ヒ門井ニ向ヒ急進ス
- 六、報告筒ト共ニ岩瀬方面ノ情況竝決心ヲ師團長ニ報告ス

### 第三十五情況 (第六師團方面)

作戰十二月十三日(續キ)

午前八時二十分師團長ハ本隊ノ先頭ニアリテ巽内南方31ノ地點ニ達ス此ノ時右縦隊長ヨリ眞岡方面ノ敵情(飛行機ヨリノ報告筒)ト共ニ其ノ決心ニ關スル報告ヲ受領ス

同時亦騎兵旅團ニ派遣シアリシ參謀ノ歸還シ來ルニ會ス其ノ報告ニ曰ク

騎兵旅團ハ本朝來支援歩兵大隊ヲ以テ根小屋高地ニ向ヒ攻撃セシメ騎兵ノ主力ハ折本方向ニ轉進シ谷

田貝ヲ占領セル約四、五中隊ノ敵騎ニ對シ六中隊ヲ以テ攻撃セシカ午前七時三十分頃砲ヲ有スル約一大隊ノ敵歩兵谷田貝西側地區ヨリ同旅團ノ左翼ニ向ヒ攻撃シ來リシヲ以テ遂ニ退却シテ折本附近ヲ占領シ之ヲ拒止シツツアリ小官途中前衛司令官ニ會シ以上ノ情況ヲ通報セシニ同司令官ハ直ニ谷田貝占領ノ目的ヲ以テ同地ニ向ヒ急進スルニ決心シ其ノ報告ヲ依頼セラレタリト

師團長ハ又同參謀ニ依リ騎兵旅團長竝前衛司令官カ眞岡方向ノ敵情ニ就テ未タ之ヲ知ル所ナキヲ判斷ス

### 第三十五問題

師團長ノ決心

### 第三十五問題原案

決心

師團ハ根小屋高地ヲ領有シテ眞岡方向ヨリ南進中ナル敵ヲ攻撃セントス

### 第三十六問題

右決心ニ基ク師團命令

演習第九日(十二月十四日)

一六九



(午前十時二十分門井村ニテ提出)

右ニ依リ逐次門井村ニ移リ午前十時三十分門井北端ニ集合シ研究ヲ開始ス

### 第三十六問題研究

#### 一、戰鬪指導要領

右縦隊長ノ決心カ師團長ノ意圖ニ合スルコトハ議論ノ餘地ナシ左縦隊前衛司令官ハ眞岡方面ノ敵情ヲ知ラスシテ處決セルモノニシテ本情況ノ下ニハ少シク冒險ニ似タルカ如シト雖若シ前衛カ最初ヨリ消極的動作ニ出テンカ敵ノ兩縦隊ハ共ニ根小屋ニ殺到スヘク然ルトキハ右縦隊ノ目的達成困難トナリ師團ノ企圖ニ蹉跌ヲ來スコトナキヲ保セス右縦隊ヲ此窮地ヨリ救出スルタメ左縦隊前衛司令官ノ決心ヲ此ノ際直ニ遂行セシムルヲ最モ適當ナリトス

師團將來ノ攻撃ノ重點ヲ何レノ地區ニ用フヘキヤハ未タ之ヲ嚴格ニ定ムルヲ得ス又此ノ必要モナシ故ニ師團主力ニ關シテハ此ノ際將來ノ使用ヲ不便ナラシメサルコトヲ顧慮シ先ツ適當ノ地區ニ分進セシムルノ措置ヲ執ルニ止ムルヲ可トス之カ爲選定スヘキ地區ハ概シテ根小屋ヨリ谷田貝ニ互ル正面ノ中央後附近ニシテ且甚シク爾後ノ運動ヲ束縛セサル如ク之ト適當ノ距離ヲ存スルヲ要ス

二、右縦隊、左縦隊前衛及騎兵旅團ノ區處 此等ノ兩方面ニハ尤モ速ニ命令スルコト必要ナリ故ニ各一

名ノ幕僚ヲ兩方面ニ派シ所要ノ事項ト共ニ前項ノ趣旨ニ基ク命令ヲ傳フルヲ要ス

騎兵旅團ノ支援歩兵大隊ハ目下別ニ旅團ト別レテ根小屋高地ノ攻撃中ナリ故ニ此ノ大隊ハ右縦隊長ノ指揮下ニ移シ又騎兵旅團ノ主力ハ左縦隊ノ前衛ニ協力スル如ク區處スルヲ適當ナリトス

三、本隊ノ諸隊ノ區處 本隊ハ眞壁―下館道上ヲ行進中ニシテ其ノ後尾ハ未タ出發セス開進姿勢ニアルヘシ然レトモ其ノ命令受領者又ハ隊長ハ恐ラク師團長ノ下ニ集合シアルヘシ故ニ師團長カ攻撃ノ決心ヲ定ムルヤ直ニ是等ノ隊長又ハ命令受領者ニ對シ一々兩方面ノ情況竝師團長ノ意圖ヲ口達スルト共ニ各隊ノ現況ニ應ジ各適當ナル行動ニ出シムル如ク任務ヲ授クルヲ可トス幸目下行進中ナル道路ヨリ右方ニ轉進セントセハ適當ナル多數ノ道路アルヲ以テ此ノ數道ヲ利用シ數縦隊トナリテ所望ノ方向ニ各隊ヲ分進セシムルヲ可トス但シ野砲兵ハ多少迂路ナルモ良道ヲ前進セシムルヲ可トス

諸官ノ案中今ヨリ直ニ展開ヲ命シタルモノ又ハ攻撃ヲ命シタルモノアルモ其ノ處置ハ過早ト謂ハサルヘカラス又轉進ノ爲依然本隊ヲシテ一本縦隊ノ儘前進セシメタルモノアルモ此ノ處置ハ雷ニ轉進動作ヲ遲延セシムルノミナラス爾後ノ展開亦遅クルルニ至ルヘシ他ニ適當ナル通路ナキトキハ已ムルヲ得サルモ目下ノ如ク利用スヘキ多クノ道路アルトキハ數縦隊トナリテ轉進スルヲ可トス

通信隊竝無線電信小隊ニハ今ヨリ通信網構成ニ關スル命令ヲ下スヲ可トス又輜重ニハ所要ノ先進輜重ヲ前進セシムルノ必要アルヘク其ノ目標ハ爾後ノ展開ヲ顧慮シ大體指示スルコト肝要ナリ



四、細部ノ注意

- a. 軍隊區分ニ依リ行動中ナル部隊ノ内部迄立入りテ其ノ部下ノ部隊ニ細部ノ區處ヲ命スルモノアリ此ノ事ハ指揮ノ關係ヲ亂シ統帥ノ道ヲ誤ルモノナルヲ以テ注意スルヲ要ス
- b. 命令傳達法ノ附記ナキモノアリ命令ノ研究ノ價值ヲ縮小スルコト大ナリ
- c. 山砲ヲシテ大道ヲ前進シテ大關ニ向ハシメ野砲ヲ小路ニ依リテ門井方面ニ招致シタルカ如キハ地形ノ觀察十分ナリト謂フヲ得ス
- d. 大行李ニ命令ヲ下シタルモノアルモ目下ハ既ニ眞壁附近ニ停止シテ後命ヲ待ツヘキ任務ヲ與ヘアルヲ以テ其ノ必要ナシ
- e. 右縱隊及左縱隊前衛ノ命令領受者ヲ某地點ニ集メタルモノアリシモ戰鬪中ノ部隊ヨリ副官等ヲ招致スルコトハ不利ナリ將來戒メサルヘカラス

第三十六問題原案

右縱隊ニ與フルモノ

第六師團命令

於 十二月十三日午前八時三十分  
猫 手

- 一、騎兵旅團主力方面ニ於テハ午前七時三十分頃新ニ砲ヲ有スル歩兵約一大隊ノ敵兵増加シ同旅團ハ目下折本附近ニ後退シテ之ヲ拒止シアル筈
- 二、師團ハ根小屋高地ヲ領有シテ眞岡方向ノ敵ヲ攻撃セントス
- 三、右縱隊ハ速ニ根小屋高地ヲ奪取シテ之ヲ確保スヘシ
- 四、予ハ今ヨリ門井ニ至ル

傳達法

師團長 中 將 某

一參謀ヲ派遣シテ口達

左縱隊前衛及騎兵旅團ニ與フルモノ

第六師團命令

於 十二月十三日午時八時三十分  
猫 手

- 一、歩兵八、九大隊、砲二十門内外ノ敵ハ二縱隊トナリ一部ヲ以テ七井―益子―小林道ヲ主力ヲ以テ七井―眞岡―谷田貝道ヲ南進中ニシテ午前七時三十分其ノ先頭八條、東郷ノ線ニ達セリ

演習第九日(十二月十四日)



- 二、師團ハ根小屋高地ヲ領有シテ真岡方向ノ敵ヲ攻撃セントス
- 之カ爲メ右縦隊ハ根小屋高地ニ向ヒ攻撃シ左縦隊本衛ハ門井、海老澤、大關ノ間ニ向ヒ分進ス
- 三、左縦隊前衛ハ谷田貝ニ向ヒ攻撃スヘシ
- 四、騎兵旅團ハ前衛ニ協力シ當面ノ敵ヲ攻撃スヘシ
- 支援歩兵大隊ハ自今右縦隊長ノ指揮ニ入ル
- 五、予ハ今ヨリ門井ニ至ル

師團長 中 將 某

傳達法

一 參謀ヲ派遣シテ口達

左縦隊本隊竝輜重ニ與フルモノ

第六師團命令

十二月十三日午前八時三十分  
於 猫 手

- 一、歩兵八、九大隊砲二十門内外ノ敵ハ二縦隊ト爲リ一部ヲ以テ七井—益子—小林道ヲ主力ヲ以テ七井—真岡—谷田貝道ヲ南進中ニシテ午前七時三十分其ノ先頭八條、東郷ノ線ニ達セリ
- 騎兵旅團主力方面ニ於テハ午前七時三十分頃新ニ砲ヲ有スル歩兵約一大隊ノ敵兵増加シ同旅團ハ目下

折本附近ニ後退シテ之ヲ拒止シアル筈

- 二、師團ハ先ツ根小屋高地ヲ領有シテ真岡方向ノ敵ヲ攻撃セントス
- 之カ爲メ右縦隊ハ根小屋高地ニ向ヒ左縦隊前衛ハ谷田貝ニ向ヒ攻撃ス
- 三、歩兵第二十二聯隊ハ十里ヨリ蓮沼ヲ經テ海老澤ニ向ヒ轉進スヘシ
- 四、野砲兵聯隊ハ下館ヲ經テ大關ニ向ヒ前進スヘシ
- 五、山砲兵第一大隊ハ塙世、東矢貝、知行ヲ經テ海老澤ニ向ヒ前進スヘシ
- 六、歩兵第二十三聯隊及衛生隊ハ右縦隊ノ進路ヲ門井ニ向ヒ前進スヘシ
- 七、通信隊ハ門井ヲ起點トシ右縦隊、左縦隊前衛竝無線通信所間ニ電話線ヲ架設スヘシ
- 八、無線電信小隊ハ十里ニ通信所ヲ開設スヘシ
- 九、輜重ハ歩兵彈藥一小隊、砲兵彈藥一小隊、山砲兵彈藥一小隊野戰病院一個ヲ門井ニ砲兵彈藥二小隊及野戰病院一個ヲ下館ニ向ヒ前進セシムヘシ
- 十、予ハ今ヨリ門井ニ至ル
- 同地ニ命令受領者ヲ出スヘシ

師團長 中 將 某

傳達法

演習第九日(十二月十四日)



同行シアル歩兵第二十二聯隊長、歩兵第二十三聯隊長、野砲兵聯隊長、山砲兵大隊長、通信隊長、無線小隊長及輜重ノ連絡者ニ口達

一七六

### 第二十六情況 (第六師團方面)

作戰十二月十三日(續キ)

右縦隊長ハ午前七時五十分ノ決心ニ基キ所要ノ命令ヲ下シ歩兵聯隊長、野砲兵大隊長、山砲兵中隊長及騎兵一分隊ヲ伴ヒ馬ヲ馳テ午前八時十分門井北端ニ達ス  
前方ヲ眺ムレハ根小屋高地方面ノ戦闘正ニ酣ニシテ大關附近ニ位置セル我騎砲兵並南鹿附近ニアル敵ノ砲兵ノ發射スル砲彈ヲシキモノ根小屋高地ノ前面ニ於テ頻リニ破裂シアリ又前衛歩兵ハ逐次門井ヲ越テ前進中ニシテ其ノ砲兵ハ久地樂北端ニ進入シ正ニ砲火ヲ開カントスル情況ニアリ  
谷田貝方面ニ於テモ亦銃砲聲盛ナリ

此ノ時岩瀨方向ヨリ傳騎來リ午前七時三十分岩瀨發右側支隊ヨリ左ノ通報ヲ齎ス

『右側支隊ハ午前七時過岩瀨附近ノ敵ヲ擊退シ同地ヲ占領ス敵ハ大泉方向ニ退却セリ支隊ハ西方ニ當リ砲聲ヲ聞キ今ヨリ歩兵一中隊ヲ以テ大泉方向ニ追撃セシメ主力ハ新橋ヲ經テ小栗方向ニ前進セントス』ト

### 第二十七問題

右縦隊長ノ處置

#### 第二十七問題研究

一、右側支隊ノ處置 同支隊ハ獨斷ヲ以テ戰場ニ到着シタルモノニシテ未タ右縦隊長ノ指揮下ニ入リシニアラスト雖情況今ヤ切迫シテ師團長ノ意圖ヲ確ムルノ遑ナシ故ニ獨斷之ヲ指揮シ水戸部高地方面ニ進出セシムルヲ可トス蓋シ同戰場ニ於テ同一目的ヲ以テ行動スル部隊ハ協同ノ精神ニ依リ高級故參者ノ區處ヲ以テ行動スルヲ原則トスルノミナラス同隊ハ元來右縦隊長ノ固有隸下部隊ナルヲ以テ此ノ措置ハ師團長ノ意圖ニ合セルモノト信ス

二、砲兵ノ使用法 前衛砲兵ノ一中隊ハ既ニ門井北側ニ陣地ヲ布ケリ此際本隊砲兵ヲ更ニ同地附近ニ使用スヘキヤ或ハ小栗附近ニ出スヘキヤ研究ヲ要ス門井北側ニ陣地ヲ占領セシムルトキハ迅速ニ戦闘ニ加入セシメ得ヘキモ距離稍遠ク火力發揚十分ナラサルノミナラス根小屋高地占領後有利ニ使用スヘカラス小栗附近ニ出スハ全ク之ト相反ス故ニ此ノ際ハ砲兵大隊長ニ前衛砲兵ノ指揮ヲモ執ラシメ砲兵大隊トシテ右ノ兩要求ヲ充ス如ク現況ニ應シ動作セシムルヲ可トス又前衛工兵モ之ヲ野砲兵大隊ノ指

演習第九日(十二月十四日)

一七七



揮下ニ置キテ野砲ノ運用ニ適スル如ク之ヲ指揮セシムルヲ便トス  
山砲兵ハ森林ヲ利用シテ敵ニ近ツキ蓬田新田西南<sup>54,3</sup>附近ニ布陣セシムルヲ適當トシ是亦野砲兵大隊長ノ統一指揮下ニ入ラシムルヲ可トス

### 第三十七問題原案

- 一、右側支隊ヲ自ラ指揮スルニ決シ之ヲシテ山地方面ヨリ水戸部高地ニ向ヒ前進セシム
- 二、砲兵大隊ハ速ニ先ツ門井附近ニ陣地ヲ占領シ根小屋高地ヲ射撃シテ歩兵ノ攻撃ヲ援助スルト共ニ成ルヘク速ニ小栗附近ニ陣地ヲ推進セシム
- 三、前衛砲兵並工兵ハ前衛司令官ノ指揮ヲ脱シ野砲兵大隊長ノ指揮下ニ入ラシム
- 四、山砲兵中隊ハ蓬田新田西南<sup>54,3</sup>附近ニ陣地ヲ占領シテ歩兵ノ攻撃ヲ援助セシメ爾後野砲兵大隊長ノ指揮ニ入ラシム
- 五、自ラ馬ヲ馳セ臺原ヲ經テ蓬田新田ニ向ヒ急進ス
- 六、右側支隊並前面ノ情況及處置ヲ師團長ニ報告ス

### 第三十七情況

午前九時二十分師團長ハ砲兵聯隊長、山砲兵大隊長並歩兵兩聯隊副官ヲ伴ヒ門井北端ニ達ス此ヨリ先キ途中右縱隊長ノ報告ヲ受領シ右側支隊ヲ同隊長ノ指揮下ニ屬スルコトヲ是認ス  
當時根小屋方面ニ在リテハ右縱隊ハ既ニ根小屋高地ヲ占領シタルモ優勢ナル敵ノ歩砲兵ヨリ攻撃ヲ受ケ專ラ防戦シツツアルカ如ク銃砲聲尤モ盛ナリ  
谷田貝方面ニ於テモ銃砲聲ノ盛ナル事根小屋方面ニ劣ラス而モ其ノ砲彈ノ破裂點ハ主トシテ折本附近ナルモノノ如ク本隊ノ諸隊ハ概ネ所望ノ如ク前進シツツアリ

### 第三十八問題

師團長ハ爾後如何ニ戰鬪ヲ指導セントスルヤ

(要圖ヲ以テ答解午後一時三十分宮本ニテ提出)

本問題提出後徒歩ニテ小栗村ヲ經テ宮本ニ移リ同地ニテ晝食シ午後二時根小屋高地上ニ上リ第三十八問題ノ研究ヲ爲ス

### 第三十八問題研究

本問題ハ師團長カ門井北側ニテ情況ヲ一瞥シ玆ニ愈々戰鬪指導ノ決心ヲ定メ愈々戰鬪指導ニ關スル統一

演習第九日(十二月十四日)



命令ヲ下ス際ニ於ケル命令ノ基礎トナルヘキ事項ヲ要圖ヲ以テ示サンコトヲ要求シタルモノニシテ左ニ  
二、三ノ要點ニ付研究セントス

一、主攻撃方面

師團ハ今ヤ軍主力ニ近ク其ノ戰鬪ノ影響ハ直ニ軍ニ及フヘク從テ師團ノ行動ハ管ニ師團ノミノ便否  
ヲ顧慮スルコトナク軍ニ良好ナル影響ヲ及ホス如ク顧慮スルヲ要ス此ノ見地ヨリセハ師團ハ其ノ攻  
撃ノ重點ヲ右外側翼方面ニ置キテ前面ノ敵ノミナラス敵主力軍ノ外側翼ヲモ併セテ包圍スル如ク考  
慮セサルヘカラス之カ爲ニハ右翼方面ニ主力ヲ用フルヲ可トス而シテ今ヤ師團ノ一部ハ根小屋高地  
ヲ占領セリ故ニ此ノ企圖ノ實行可能ナルコト明カトナレリ

谷田貝方面ニ於テハ戰況我ニ稍不利ノ觀アリ爾後ノ經過ハ測リ知リ難シト雖萬一此ノ方面不利ニ  
陥ルモ右方外翼ニ於テ成功セハ毫モ恐ルルヲ要セサルノミナラス却テ收獲ヲ大ナラシムル所以ナル  
ヘシ故ニ主攻ハ此ノ際斷然右方即根小屋高地方面ニ指向スルヲ適當ナリトス

二、砲兵陣地

本戰鬪指導ニ於テ彼我爭奪ノ地點タル根小屋高地ノ北西面ニ對スル敵ノ砲兵ハ石島及石橋附近ニ良  
好ナル陣地アルニ反シ我砲兵ハ有利ニ之ニ對シ得ル陣地ニ乏シク甚タ不利ノ關係ニ在リ故ニ我砲兵  
ノ陣地ヲ選定スルニ當リテハ十分ニ是ヲ顧慮シ此ノ不利ヲ補フノ著意ヲ必要トス諸官ノ案中砲兵ノ

主力ヲ大關附近ニ置キタル案アリシモ大關ニテハ右ノ趣旨ニ合セス少クモ八田附近迄前進セシムル  
ノ必要アリ又山砲兵ハ困難ヲ冒スモ之ヲ根小屋附近一帶ノ高地上ニ布陣セシムルコト必要ナリ

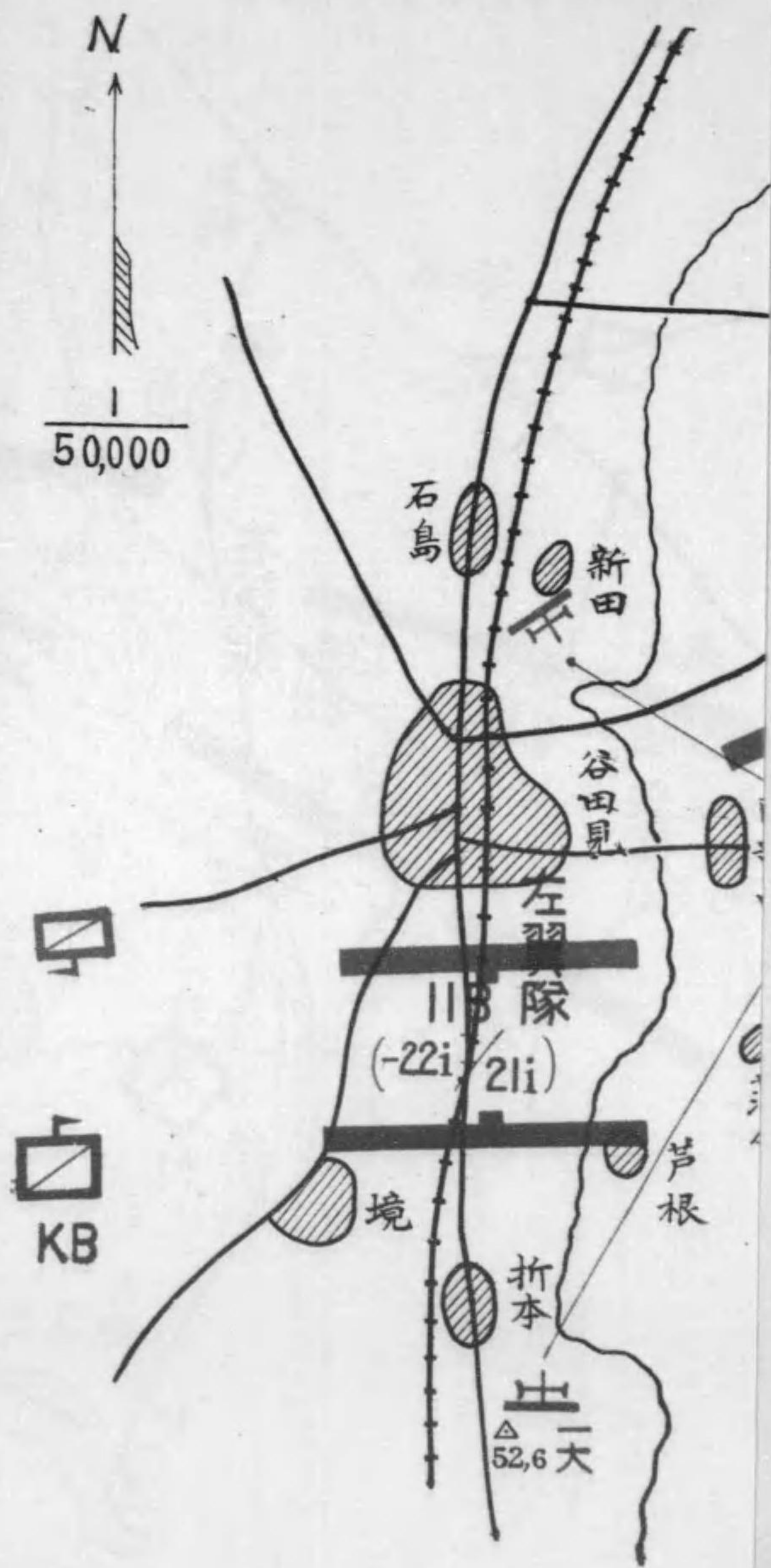
三、騎兵旅團ノ使用方法 諸官ノ案中騎兵旅團ヲ兩翼隊ノ中央ニ使用シタルモノアリ目下ノ位置上ヨリ  
云フモ又此ノ兵種ノ特性ヨリ見ルモ有利ナラス同旅團ハ爾後師團ノ左側即軍主力トノ中間地區ニア  
リテ同方面ヨリ戰鬪ニ協力セシムルヲ可トス

四、第三十一、第二十六問題ノ回顧 第三十一、第三十六ノ兩問題ト本問題トヲ對照研究セハ趣味津々  
タルモノアリ第三十一問題ニ於テ主力ヲ左方ニ持チ第三十六問題ニ於テ中央ニ移シ本問題ニ入りテ  
之ヲ右方ニ指向セリ斯ノ如キハ一見首尾一貫ヲ缺クカ如キモ是即チ戰略戰術上ノ妙味ノ存スル所ニ  
シテ諸官ノ更ニ回顧ヲ要スル所ナリ

第三十一問題ニ於テハ情況猶不明ニシテ主力ノ使用方面決定セサルノミナラス地形上ニ就テ觀察ス  
ルモ主力ヲ以テ右方ノ道路ヲ行進シ若シ根小屋附近敵ノ爲確實ニ領有セラレアランカ該方面ヨリ敵  
陣地ヲ崩スハ多クノ時間ヲ要スル不利アルノミナラス更ニ兵力ヲ左方ニ移サントスルコトハ甚タ困  
難ナリ之ニ反シ左方ノ通路ヲ進マハ敵兵山地ニ立脚點ヲ有スル際ニ於テハ戰略的ノ利ヲ捨ツルモ左  
方ヨリ迅速ナル戰術的突破ヲ企圖スルヲ得ヘク而モ必要ニ際シテハ容易ニ右方ニ移リ得ルノ利アリ  
故ニ主力ヲ以テ行進容易ナル大道タル眞壁―下館道ヲ前進セシナリ而シテ第三十六問題ニ於テハ根



開要圖



右側ヲ引續キ根小屋高地ニテ左ノ状況ヲ示ス

別紙要圖ノ如シ

第三十八問題原案

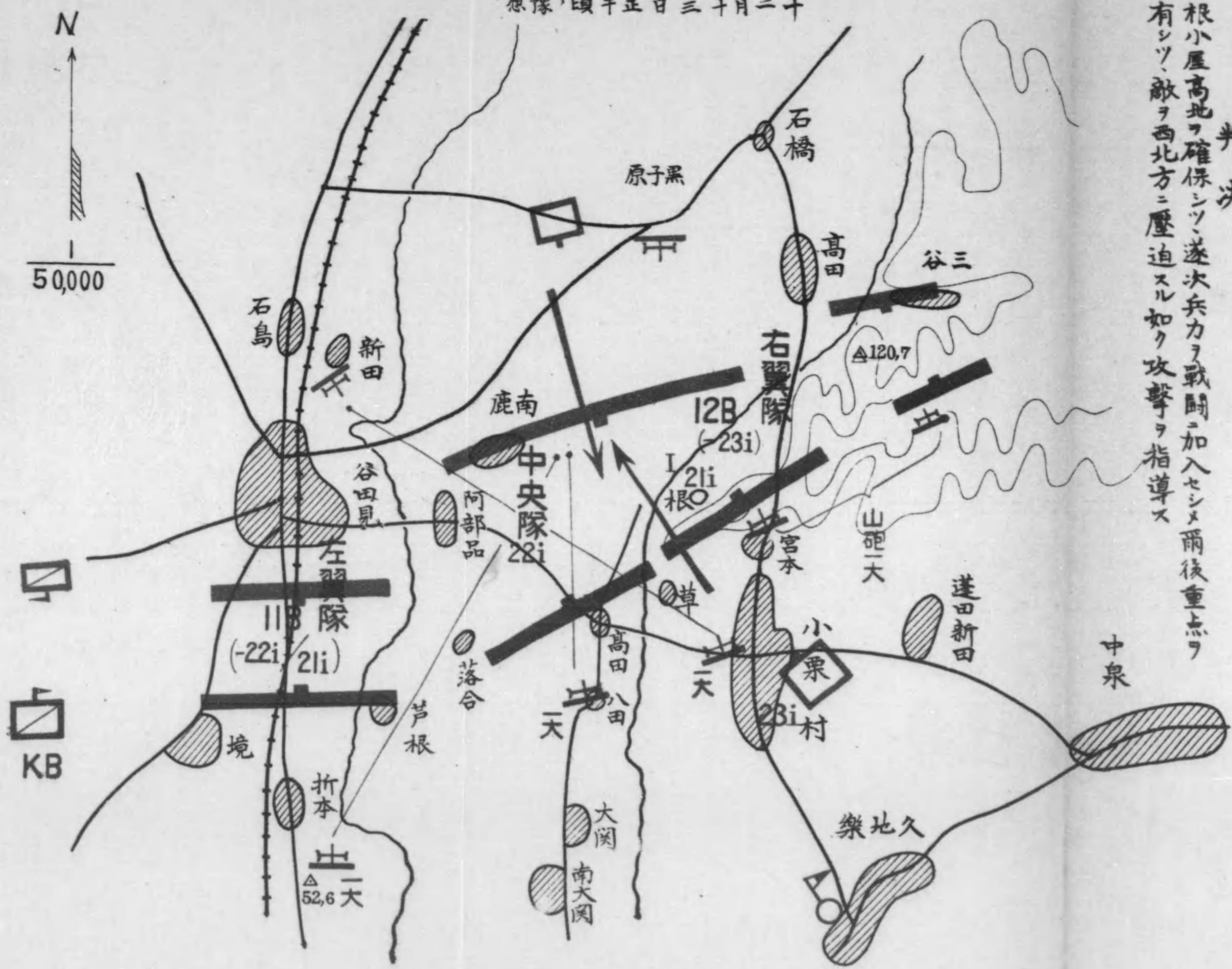
小屋高地ノ領有略之ヲ豫期シ得ルニ至リタルヲ以テ逐次主力ヲ右方ニ移スヘク先ツ中央ニ導キ本問題ニテ根小屋高地領有確實トナリシヲ以テ愈々主力ヲ右方ニ移セシモノナリ換言スレハ本地形ニ於テハ敵根小屋高地ニ確實ナル據點ヲ有スルトキハ戰略ノ利ヲ捨テテ戰術上ノ利ヲ執リ左方谷田見方面ヨリ突破ヲ企圖スルヲ利トスヘク若根小屋高地ニシテ我カ領有確實トナラハ戰略上ノ利ヲ發揮スヘク右方ヨリ攻撃ヲ進捗セシムルヲ可トス換言セハ第三十一問題ニテハ此ノ二者何レヲ執ルヘキヤ決定シ能ハサルニ依リ主力ヲ以テ移動容易ナル方面ヲ行進セシメタルモノナリ

以上ノ研究ニ依リ諸官ハ攻撃方面ノ選定上戰略及戰術兩者ノ要求異ナル場合ニ於ケル際ノ取捨如何ニ關スル原則ヲ了解スルヲ得タルナラン



# 根小屋附近第六師團展開要圖

二十三月三十日正午頃想像



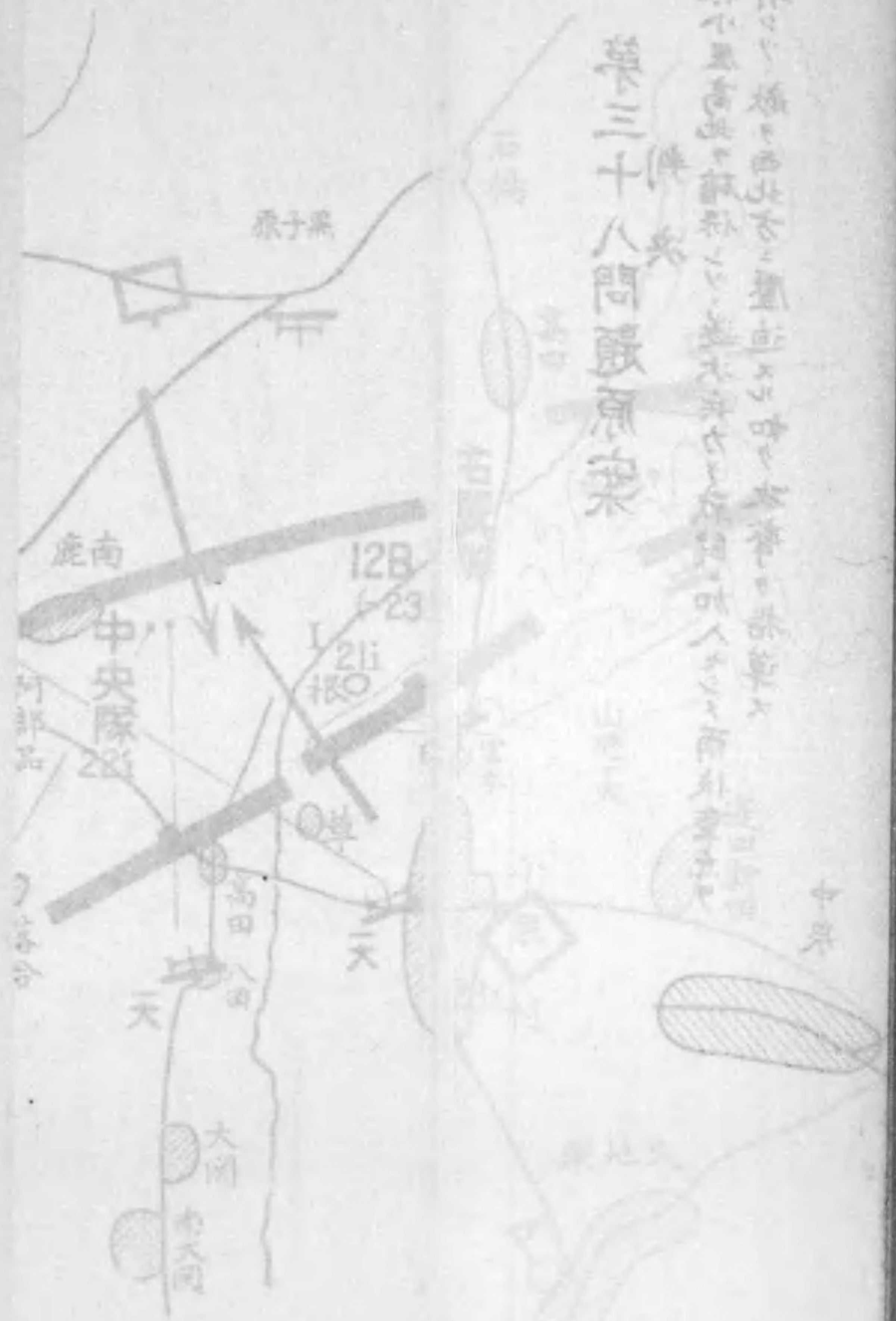
師團、根小屋高地ヲ確保シツ、遂次兵力ヲ戦闘ニ加入セシメ爾後重点ヲ  
右方ニ有シツ、敵ヲ西北方ニ壓迫スル如ク攻撃ヲ指導ス

## 第三十八問題原案 判決



第六師團附近展開圖

根柢・嶺于正日三十月一十



第三十八問敵原案

右終テ引續キ根小屋高地上ニテ左ノ情況ヲ示ス

第三十八情況 (第一師團方面)

作戰十二月十三日(續キ)

第六師團長ハ根小屋高地占領後谷田貝方向ノ情況如何ニ關セズ根小屋高地ヲ據點トシ敵ヲ西北方ニ壓迫スル如ク攻撃スルニ決シ舊右縱隊ヲ右翼隊トナシ依然前任務ヲ續行スルト共ニ特ニ一部ヲ以テ東方山地方面ヨリ敵ノ左側ニ向ヒ攻撃セシメ舊左縱隊前衛ヲ以テ左翼隊トナシ依然前任務ヲ續行セシメ步兵第二十二聯隊ヲ以テ中央隊トナシ右翼隊ニ連繫シ加草ヲ經テ谷中ニ互ル線ニ展開シテ西鹿方面ニ對シ攻撃セシメ步兵第二十三聯隊ヲ豫備トシテ門井ヨリ小栗村ニ向ヒ前進セシメ自ラ門井ニ位置シテ攻撃ヲ督勵ス敵ハ一部ヲ以テ谷田貝方向ヨリ我左翼隊ヲ攻撃シ主力ヲ以テ三谷、高田、南鹿ノ線ニ逐次増加シ其ノ砲兵ヲ石橋及石島東南側ニ布陣シ主トシテ根小屋ニ向ヒ攻撃ヲ執リ茲ニ根小屋、谷田貝ノ間ニ遭遇戰ヲ惹起ス

午前十一時頃師團主力ハ略々戰鬪加入ヲ了リ全線攻撃ニ移リ舊右側支隊ノ步兵大隊ハ蓬田北方山地ヲ越テ五軒屋及水戸部高地端ニ進出シ山砲兵一中隊ハ同西南方高地ニ布陣シテ敵ノ左翼ヲ射撃シ午後一時頃ヨリ戰勢漸次我ニ有利ニ進捗ス

演習第九日(十二月十四日)



第三十九情況 (宇都宮平地方面)

作戰十二月十三日

十三日早朝ヨリ軍主力ハ依然當面ノ敵ニ對シ攻撃ヲ繼續シ敵軍亦攻勢ニ出テ戰勢依然トシテ均勢ヲ保持シ彼我ノ主攻撃ハ鬼怒川ト思川トノ中間地區ニ指向セラレ正午ニ至ル迄彼我互ニ惡戰苦闘紛戰亂闘ヲ繼續ス

然ルニ突然鬼怒川左岸ニ現出セシ兩軍轉用兵力ノ不期戰ハ我第六師團ノ勇戰ト兵力ノ優勢トニ依リ戰況我ニ有利ニ進展シ逐次敵ヲ左翼ヨリ壓迫シ午後一時ヨリ二時ニ互ル間ニ於テ高田、谷田貝ノ線ニ進出シ全線追撃ニ移ル

軍司令官ハ午後二時三十分小山ニアリテ以上ノ事ヲ知ルト共ニ第一百師團ヨリ前面ノ敵兵動搖ノ色アルヲ報告シ來ル

茲ニ於テ軍司令官ハ前面ノ敵ヲ宇都宮西北方地區ニ壓迫スル如ク追撃セントシ左ノ命令ヲ下達ス

第四軍命令

十二月十三日午後三時  
於小山軍司令部

一、第六師團ハ今朝來根小屋、谷田貝ノ線ニ於テ七井方向ヨリ南進セル敵ト衝突シ目下之ヲ擊退シテ追撃ニ移リ第一百師團正面ノ敵兵亦動搖ノ色アリ

二、軍ハ前面ノ敵ヲ宇都宮西北方地區ニ壓迫スル如ク追撃セントス

三、各師團(配屬及欠除部隊故ノ如シ)ハ各當面ノ敵ヲ追撃スヘシ

特ニ第一百師團ハ速ニ其ノ主力ヲ鬼怒川左岸ニ移シ第六師團ト協力シ敵ノ左翼ヲ包圍スル如ク追撃ヲ實施スヘシ

四、各師團ノ作戰地境ヲ左ノ如ク變更ス線上ハ右師團ニ屬ス

第六師團

大道泉、真岡、金井島東端ノ線

第一百師團

仁良川、上三川中央、半卿、福島ノ線

第十三師團

故ノ如シ但シ關澤以北ハ關澤、宇都宮中學校ノ線

第十四師團

故ノ如シ但シ上稻葉以北ハ上稻葉、下飯田ノ線

第二百師團

五、第十四師團ハ約一旅團ノ兵力ヲ壬生附近ニ集結シ予ノ直轄タラシムヘシ

六、獨立野戰重砲兵第一聯隊(第二大隊欠)及獨立工兵第七大隊ノ一中隊ハ半田川岸ニ又第七、第八野戰高射砲隊ハ小金井附近ニ集合スヘシ

七、予ハ猶現在ノ地ニ在リ

傳達法

軍司令官

大

將

某

電話又ハ電信ニ依ル

演習第九日(十二月十四日)



備考

第一線各師團ニ屬セル野戰重砲兵並氣球隊ハ師團ニ派遣セル幕僚ニ意圖ヲ示シナルヘク速ニ石橋附近ニ集合セシムル如ク區處セシム

通信諸隊ニ與フルモノ

第四軍命令 十二月十二日午後三時 於小山軍司令部

- 一、第六師團ハ今朝來根小屋、谷田貝ノ線ニ於テ七井方向ヨリ南進セル敵ト衝突シ目下之ヲ擊退シテ追撃ニ移リ第一師團正面ノ敵兵亦動搖ノ色アリ
- 二、軍ハ前面ノ敵ヲ宇都宮西北方地區ニ壓迫スル如ク追撃セントス
- 三、野戰電信隊ハ各師團ノ前進ニ伴ヒ其ノ後方ニ通信線ヲ延伸シ且成ル可ク速ニ軍司令部ノ爲メ石橋ニ通信所ヲ開設スヘシ
- 特ニ第六師團トノ連絡ノ爲直通線ヲ架設スヘシ
- 四、無線電信隊ハ成ル可ク速ニ一通信所ヲ石橋ニ開設スヘシ但シ小山通信所ハ依然其ノ位置ニアリテ通信ニ任スヘシ
- 五、予ハ猶現在地ニアリ

軍司令官 大 將 某

傳達法

隊長ニ口達

飛行隊ニ與フルモノ

第四軍命令 十二月十二日午後三時 於小山軍司令部

- 一、第六師團ハ今朝來根小屋、谷田貝ノ線ニ於テ七井方向ヨリ南進セル敵ト衝突シ目下之ヲ擊退シテ追撃ニ移リ第一師團正面ノ敵兵亦動搖ノ色アリ
- 二、軍ハ前面ノ敵ヲ宇都宮西北方地區ニ壓迫スル如ク追撃セントス
- 三、飛行諸隊(各師團ニ配屬セルモノヲ除ク)ハ左ノ如ク行動スヘシ
  - 1. 敵兵退却ノ状態並其ノ停止地點ノ偵察
  - 2. 宇都宮、鹿沼ノ線ニ於ケル敵陣地ノ状態並利用ノ有無ノ偵察
  - 3. 國境附近敵陣地ノ状態並利用ノ有無ノ偵察
  - 4. 敵兵並敵ノ重要施設ニ對シ爆撃
  - 5. 前進著陸場ノ推進
- 四、予ハ猶現在地ニアリ

演習第九日(十二月十四日)



軍司令官 大 將 某

傳達法

軍航空部長ニ口達

兵站ニ與フルモノ

第四軍命令 十二月十三日午後三時 於小山軍司令部

- 一、第六師團ハ今朝來根小屋、谷田貝ノ線ニ於テ七井方向ヨリ南進セル敵ト衝突シ目下之ヲ擊退シテ追撃ニ移リ第百一師團正面ノ敵兵亦動搖ノ色アリ
- 二、軍ハ前面ノ敵ヲ宇都宮西北方地區ニ壓迫スル如ク追撃セントス
- 三、兵站ハ其ノ末地ヲ結城、小山、栃木ノ線ニ推進シ軍ノ追撃ニ支障ナカラシムヘシ
- 四、予ハ猶現在地ニアリ

軍司令官 大 將 某

傳達法

電話

以上ノ研究終了シ人力車ニ依リテ新治停車場ニ至リ午後四時三十九分發列車ニ依リ宇都宮ニ至リ同地ニ宿營ス

演習第十日 (十二月十五日) 晴

午前八時十分宇都宮發列車ニ依リ寶積寺停車場ニ至リ同地南方林空ニ於テ研究開始

第四十情況

作戰十二月十三日

一、十三日午後六時軍司令官ハ小山ニ在リテ左ノコトヲ知ル

- 1、各師團ハ十三日午後三時乃至四時ノ間ニ於テ前記追撃ニ關スル軍命令ヲ受領シ各當面ノ敵ニ對シ極力攻撃ヲ續行ス

但第六師團方面ニ在リテハ戰況逐次有利ニ發展シ午後五時頃其ノ一部ハ磯山、八木岡、加倉ノ線ニ在リシ敵ヲ擊退シ真岡町ニ入レリ

- 2、第十二師團ハ今十三日午前十時頃ヨリ中妻附近ノ敵ヲ攻撃中ニシテ夕刻ニ至ルモ戰況毫モ發展セス

3、越後國境附近ニ於テハ我第十五師團ハ今十三日朝來敵陣地ニ對シ攻撃ヲ開始ス

- 4、東京及横須賀要塞ニ對スル攻圍陣地ハ略々完成シ今ヤ攻城部隊及攻城諸材料ノ到着ヲ待チツツ

演習第十日(十二月十五日)



アリ該方面ノ敵ハ其ノ後概シテ平穩ナルモ房總半島南部ニ於テ敵ノ不正規軍編成中ノ噂アリ近ク騎兵集團ノ一部ヲ該方面ニ差遣セララル等

5. 乙國內ノ鐵道ハ其ノ後著々改修セラレ昨十二日豫定卸下停車場タル藤澤、國分寺、大宮驛迄開通シ我攻城砲及攻城諸材料ハ十二日以後前記卸下停車場ニ逐次到着中ナリ又京都、大阪及廣島ニ於テ編成中ナリシ第三百乃至第五百師團ハ已ニ編成ヲ完結シ攻城諸材料ノ輸送ト相前後シ遅クモ十二月二十日迄ニハ國分寺及大宮驛ニ下車ヲ終ル豫定ナリ
- 二、十三日夜半各師團ハ鬼怒川右岸ノ敵兵退却セルヲ知リ直ニ追撃ニ移ル

### 第四十一情況

作戰十二月十四日

十四日正午軍司令官ハ石橋ニ達シ左ノコトヲ知ル

- 一、各師團ハ各當面ノ敵ヲ追撃シ午前十時以來赤羽、鑄山、宇都宮、茂呂山ノ線ニ在ル敵ニ對シ攻撃實施中ナリシカ鬼怒川左岸ニ在リテハ第六、第一百師團ハ逐次敵ヲ北方ニ壓迫シ正午稍々前其第一線ハ祖母井、道場宿ノ線ニ到着セシモ右岸地區ニ在リテハ同時頃敵兵猶宇都宮鹿沼ノ線ノ既設陣地ニ據リ頑強ニ抗戰シツツアリ
- 二、之ヨリ先キ敵兵離脱スルヤ第一百二師團長ハ軍司令官ノ意圖ニ基キ歩兵第四百四旅團及野砲第一百二聯

隊(一大隊欠)ヲ石法寺(鑄山南方約六吉)附近ニ集結セシム

- 三、軍直轄タル第十四師團ノ歩兵一旅團ハ陸羽街道ヲ前進シ正午其ノ先頭追分(石橋北方約三吉)ニ達スル等
- 四、鬼怒川左岸方面ノ砲聲漸次緩徐トナリタルカ如キモ宇都宮及鹿沼方面ニ於テハ砲聲依然殷々タリ

### 第三十九問題

十四日正午ニ於ケル軍司令官ノ情況判斷

### 第三十九問題研究

諸官ノ案ヲ大別スレハ次ノ三案トナル

1. 依然追撃ヲ續行セントスルモノ
  2. 追撃ヲ中止シ前面ノ敵ニ對シ攻撃ヲ準備セントスルモノ
  3. 追撃ヲ續行スルト共ニ宇都宮方面ヨリスル敵ノ攻勢ニ對シ用意スルモノ
- 「1」案ノ理由トスル所ハ宇都宮南方地區ニ於テ敗退セシ敵カ斯克近距離ノ地ニ停止シテ新企圖ヲ爲スコト難カルヘク殊ニ近ク後方氏家附近ニ既設陣地ノ存在スル現況ニ於テ然リト云フニ在リ此ノ論ハ一理ナキニアラサルモ敵ハ大體ニ於テ隨意退却セシモノニシテ決シテ刀折レ矢盡キテノ結果ニアラス又近距離



ニ停止シテ更ニ新企圖ヲナシ得ルコトハ幾多歐洲戰ニ其ノ實例ヲ見シ所ナリ故ニ宇都宮附近ニ於テ敵カ  
暴進スル追撃軍ニ對シ果敢ナル新企圖ヲ爲スコト全然之レ無シト斷定スルハ少シク慎重ヲ缺ク之ニ反シ  
「2」案ハ萬全ナリト雖慎重ニ失シ甚タ敵ヲ恐レタルノ嫌アリ抑々敵ノ企圖ヲ考察スルニ敵若シ攻勢ニ  
轉セントセハ鬼怒川左岸地區ヨリ我右翼部ニ對シ若ハ宇都宮西方地區ヨリ我左翼部ニ對シ攻勢ニ出ツル  
ノ二策ノ一ナルヘシ鬼怒川左岸地區ヨリスルモノハ敵トシテハ爾後ノ進退容易ナルヲ以テ敵ノ爲執ルヘ  
キ有力ナル一方案ナリト雖現態勢ニ於テハ我ハ之ニ對シ毫モ危險ヲ感セス又目下ノ情況ニ於テハ敵カ此  
方面ヨリ攻勢ニ出ツルノ形勢少キハ殆ト明ナリ之ニ反シ宇都宮西方地區ヨリスル敵ノ攻勢ハ我ノ最モ危  
險ヲ感スル所ナリト雖敵若シ此ノ攻勢ニ失敗セハ脱出ノ途ナク從テ此ノ方面ヨリスル出撃ハ敵トシテハ  
最モ冒險ノ企圖ナリトス故ニ昨夜既ニ我ヨリ離脱シ近ク氏家ニ堅固ナル既設陣地ヲ有スル敵カ此ノ如キ  
冒險ヲナスノ公算ハ甚タ少ナシ然レトモ此ノ企圖ハ敵トシテ可能ノ範圍ニ屬シ且我ノ最モ顧慮ヲ要スル  
所ナリトス

以上ノ如ク觀察スレハ軍トシテハ此ノ際「3」案ノ如ク一方依然追撃ヲ續行スルト共ニ他方ニ於テ萬一ヲ  
顧慮シ宇都宮方面ヨリスル敵ノ攻勢ニ對應スルノ準備ニ在ルヲ可トス而シテ目下軍ハ石法寺（鬼怒川左  
岸）及追分（陸羽街道上）附近ニ各約半師團ノ第二線兵團ヲ有ス故ニ軍ハ第一線諸兵團ヲシテ依然當面ニ  
對スル追撃（攻撃）ヲ續行セシムルト共ニ右兩第二線兵團ノ運用ニ依リ敵ノ出撃ニ備フルノ用意アレハ足  
レリトスヘシ

### 第三十九問題原案

#### 判 決

軍ハ依然追撃ヲ續行スルト共ニ宇都宮方面ヨリスル敵ノ攻勢ニ對應スル準備ニ在ルヲ要ス

### 第四十一情況

#### 作戰十二月十四日（續キ）

一、十四日午後一時軍司令官ハ依然石橋ニ在リテ左ノコトヲ知ル

1. 鬼怒川右岸軍當面ノ敵ハ午後零時三十分頃退却ニ就キ各師團ハ之ニ尾シテ追撃中又鬼怒川左岸  
地區ニ於ケル兩師團ハ同時頃概シテ稻毛田、滿美穴ノ線ニ進出セリ

2. 騎兵第一旅團ハ第六師團ノ追撃ニ伴ヒ正午頃市羽村附近ニ進出シ文谷附近ニ在ル敵騎兵團ト相  
對セリ

3. 敵ノ主力ハ目下氏家附近ノ既設陣地ヲ占領中ニシテ其ノ一部ハ羽黒山附近ニ工事ヲ開始シツツ  
アリ

4. 一昨十二日以来交戦ノ結果ヲ綜合スルニ敵ノ兵力ハ乙國二師團及丙國四師團ナルカ如ク丙國軍  
ノ裝備ハ優良ニシテ特ニ其ノ歩兵ノ有スル輕機關銃ハ一中隊少クモ八、九銃ヲ下ラサルカ如ク且



戰團群戰法ヲ採用セルカ如シ

此ノ會戰ニ於テ敵ノ蒙リシ損害詳ナラスト雖其ノ戰場ニ遺棄セシ死傷ノミニテモ約三千ヲ算ス我  
損害亦比較的大ニシテ死傷約一萬ヲ下ラス

5. 東北本線ニ於ケル敵ノ鐵道輸送ハ依然繼續セラレ十一日以後軍需品ノミナリシカ昨十三日ニ至  
リ重砲ヲシキモノノ輸送ヲ見ル

6. 丙國ハ二、三師團ノ新設ヲ企圖シ其ノ募兵ノ情況良好ナルモ裝備及訓練ニ多大ノ時日ヲ要シ今  
後尙數箇月ヲ要スルニアラサレハ戰場ニ使用シ得サルカ如シ

7. 我兵站ハ軍ノ前進ニ伴ヒ逐次推進セラレ目下其ノ末地ハ結城、小山、栃木ノ線ニ達シアリ  
二、同時第十二師團長ヨリノ報告ニ依リ次ノコトヲ知ル

第十二師團當面ノ敵ハ昨十三日夜半退却ニ就キ其ノ主力ハ石塚方面ヨリ那珂川ヲ渡河シ北方及東北方  
ニ退却セルモノノ如ク師團ハ目下之ヲ追撃中ナリ

三、此ノ時迄ニ軍司令官ノ知り得タル氏家附近敵陣地ノ概要別紙要圖ノ如シ

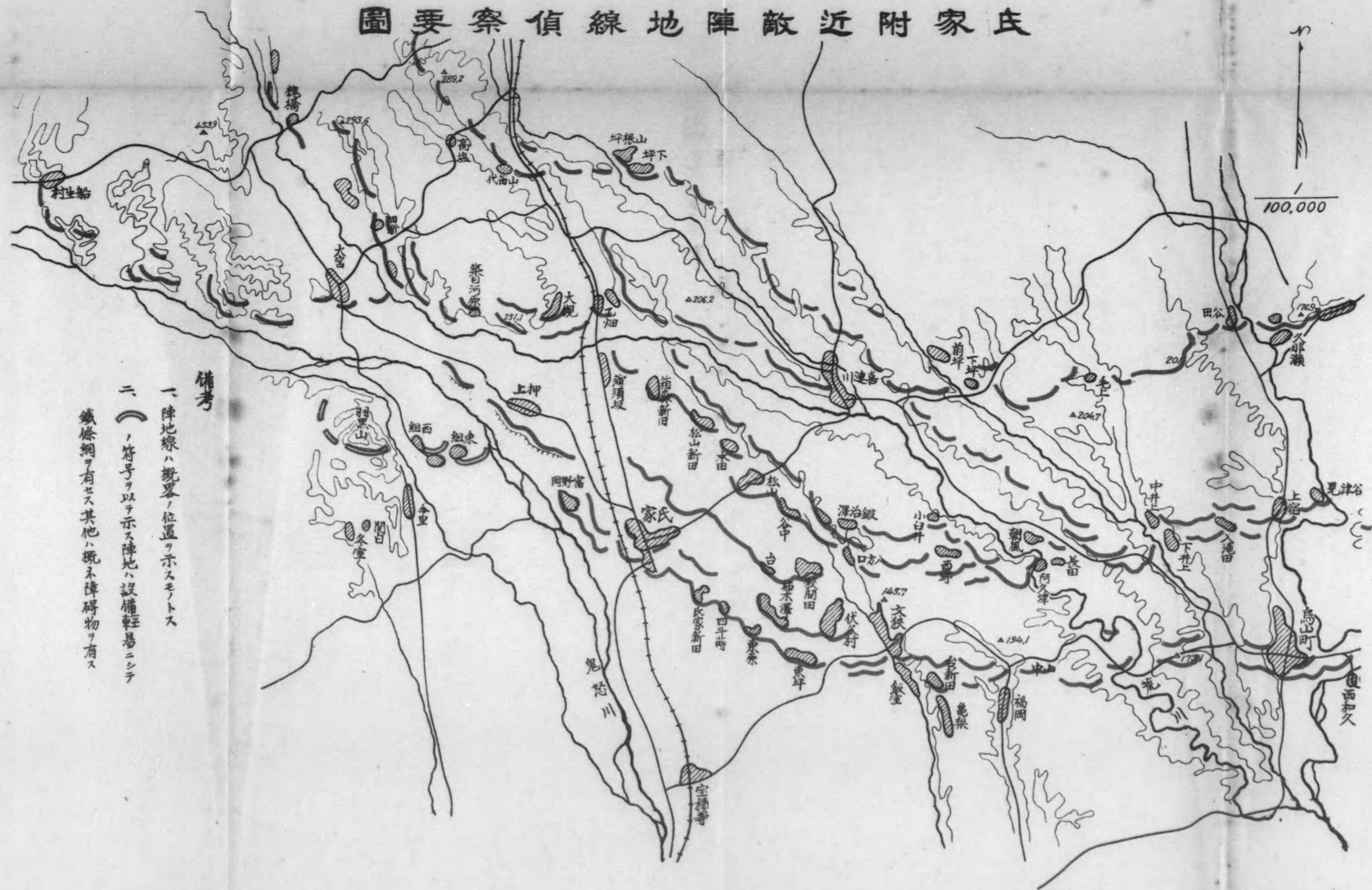
第四十問題

十二月十四日午後一時ニ於ケル軍司令官ノ決心





# 氏家附近敵陣地偵察要圖



**備考**

一 陣地線ハ概畧ノ位置ヲ示スモノトス

二 ( ) ノ符号ヲ以テ示ス陣地ハ設備輕易ニシテ  
鐵條網ヲ有セス其他ハ概テ障礙物ヲ有ス







第四十問題研究

諸官ノ全部ハ宇都宮北方地區ニ進出シ氏家附近陣地ニ對スル攻撃ヲ準備スルノ決心ヲ執レリ是レ蓋シ至當ノコトニシテ此際追撃ノ餘勢ニ驅ラレ敵ノ數箇月ヲ費シテ構築セル堅固ナル陣地ニ突入スルハ無謀ノ極ト云フヘク徐ロニ攻撃ノ準備ヲナスヲ可トス而シテ此ノ攻撃準備間ハ守勢ナルヲ以テ十分ニ地形ヲ利用スルノ著意ヲ要ス

第四十問題原案

決心

軍ハ鹽田南方高地、上高根澤、白澤、笠松山、猪倉西方高地ノ線ニ進出シ氏家附近ノ敵陣地ニ對スル攻撃ヲ準備セントス

第四十二情況

之ヨリ先キ關東方面軍司令官ハ北方面ノ作戰ヲ顧慮シ作戰主任參謀ヲ第四軍司令部ニ差遣ス同參謀ハ十二月十二日以來軍司令部ト同行シ第四軍方面ノ諸情況ヲ承知シアリ

演習第十日(十二月十五日)



### 第四十一問題

方面軍作戰主任參謀トシテ以上ノ諸情況ニ基キ將來方面軍ノ作戰指導ニ關スル一般考案

### 第四十一問題

本問題ノ根本主義ニ關シテハ既ニ作戰方針ト共ニ研究セル所ニシテ多ク云フノ要ナシ即チ北方面ニ更ニ所要ノ兵力ヲ増加シテ前面ノ敵ヲ擊破スルヲ要スルナリ之カ爲横須賀及東京要塞ニ對スル處置ニ就キ或ハ攻撃ヲ繼續シ又ハ攻圍ヲ續行シ若ハ單ニ監視ニ止メントスル等ノ數案アルモ關東方面ニ使用シ得ル彼我總兵力ヲ較量セハ此ノ際要塞ニ對シ攻撃又ハ攻圍ヲ續行セントスルハ過望ニシテ差當リ最小限ノ兵力ヲ以テ之ヲ監視スルニ止メ此ノ間成ルヘク多クノ兵力ヲ北方面ニ抽出轉用シ先ツ敵野戰軍ニ徹底的打擊ヲ與フルノ措置ニ出ツルヲ適當トス  
氏家附近敵陣地攻撃ノ爲所要兵力ノ算定ニ就キテハ後ニ詳述スル所アルヘシ

### 第四十一問題原案

判 決

方面軍ハ一時東京及横須賀要塞ニ對シテハ監視ニ止メ此ノ間所要ノ兵力ヲ北方面ニ轉用シ氏家方面ノ敵ニ對シ殲滅的打擊ヲ與フルヲ要ス

### 第四十三情況

作戰十二月十四日(續キ)

一、軍ハ氏家附近陣地攻略ノ目的ヲ以テ宇都宮北方地區ニ進出シ爾後ノ諸準備ヲナスニ決シ十四日午後一時三十分左ノ區處ヲナス。

1. 各師團(配屬部隊ノ如シ)ハ各當面ノ敵ヲ擊退シ左ノ線ニ進出シ攻撃準備
  - 第六師團 鹽田南方高地—給部—廻谷ノ線
  - 第一百師團 西根—鷺谷—下法積寺南方<sup>15.4</sup>ノ線
  - 第十三師團 岡本新田—白澤—古田—宿田原ノ線
  - 第十四師團 逆面—笠松山—徳次郎ノ線
  - 第一百二師團 半藏山—猪倉西方高地ノ線
2. 騎兵諸隊ハ左ノ如ク行動セシム

演習第十日(十二月十五日)



騎兵第一旅團 右翼方面ノ警戒

集成騎兵團

(第六、第十三、第十四、第一百一、第一百二師團騎兵大) (隊ノ主力及第一百二師團ノ野砲一中隊ヲ以テ集成ス) 左翼方面ノ警戒

3. 各師團ノ作戰地境ヲ左ノ如ク延伸ス線上ハ右師團ニ屬ス

第六師團

金井島東端—三田市—上高根澤—東坪東端ノ線

第一百一師團 福島—舊部—氏家城趾—氏家西端ノ線

第十三師團

宇都宮中學校—八幡山—瓦谷—宿田原—今里ノ線

第十四師團

下飯田—立岩—徳次郎—本山—謠辻ノ線

第一百二師團

4. 第十四師團ノ歩兵一旅團ハ金井島ニ第一百二師團ノ歩兵一旅團及野砲兵第一百二聯隊(一大隊ト一中隊欠)ハ鑑山附近ニ集結

5. 其他ノ軍直屬部隊ノ大部ハ鑑山附近ニ集結

6. 飛行機前進著陸場ヲ宇都宮南方地區及大野原ニ設備

7. 軍司令部ハ鑑山ニ移ル

二、各師團ハ十四日午後四時乃至五時ノ頃各所命ノ線ニ到達シ左ノ如ク主力ヲ集結中ナリ

第六師團 祖母井附近

第一百一師團 道場宿東方地區

第十三師團 海道新田(宇都宮東北約一里)附近

第十四師團 野澤(宇都宮西北約一里)附近

第一百二師團 新里附近

三、其ノ他ノ諸隊ハ各所命ノ地點ニ向ヒ行動中ナリ

### 第四十四情況

作戰十二月十五日以後

一、爾後諸隊ハ軍命令ニ基キ著々諸準備ヲナシツツアリ

二、十六日正午第四軍司令官ハ鑑山ニ於テ關東方面軍司令官ヨリ左ノ要旨ノ訓令ヲ受領ス

1. 關東方面軍ハ現下ノ狀勢ニ鑑ミ一時東京及横須賀要塞ノ攻略ヲ中止シ主力ヲ以テ先ツ氏家附近ノ敵ニ對シ徹底的打撃ヲ與ヘントス

3. 第四軍ハ概シテ南向田—上高根澤—白澤—徳次郎ノ線ヲ占領シ北進兵團ノ集中ヲ掩護スルト共ニ爾後ノ攻撃ヲ準備スヘシ

演習第十日(十二月十五日)



諸兵團ノ集中及其ノ他ニ關シテハ追テ之ヲ示ス

三、此ノ時迄ニ第四軍司令官ハ諸情報ヲ綜合シ左ノコトヲ知ル

1. 第十二師團ハ主方ヲ以テ大宮町附近敵陣地攻撃ノ準備中ナリ又越後方面ノ情況變化ナシ
2. 氏家附近ノ陣地中羽黒山方面及馬頭―喜連川―山根坪(矢板東南約一里)ノ線附近ノ陣地帯ハ目下銳意工事中ナルモ其ノ第一陣地帯附近ハ概シテ靜穩ナルカ如シ

3. 十四日朝來重砲ヲシキモノ斷續シテ西那須野―佐久山―喜連川道、西那須野―矢板―氏家道及上記兩道ニ沿フ輕鐵ニ依リ南進中ナリ

四、十七日戰鬪序列ヲ變更セラレ其ノ氏家方面ニ使用セラルヘキ第三、第四軍ノ戰鬪序列別紙ノ如シ爾後之ヲ關東方面軍北部兵團ト稱ス

水戸方面ニ作戰中ナル第十二師團ハ爾後關東方面軍司令官ノ直轄トナル

五、新戰鬪序列ニ基ク諸兵團ノ集中及轉移ハ關東方面軍司令官ノ區處ニ基キ概シテ圓滑ニ實施セラレツツアリ

我飛行機ハ此ノ間絶エス戰場ノ上空ニ於テ活動シ野戰高射砲ト協力シテ制空權ノ獲得ニ努力シツツアリ敵ノ飛行機ハ下寶積寺附近鐵橋及鬼怒橋ノ爆撃ニ努メタルモ奏功セス

六、大宮―古河―小山―下館―七井鐵道及東北本線ハ十二月二十三日頃ニ至ラハ七井及宇都宮迄開通シ

得ル見込ナリ

### 第四十二問題

#### 氏家附近陣地ニ對スル關東方面軍北部兵團攻撃方案

(要圖答解)

(注意) 新戰鬪序列ニ基ク集中及轉移並軍需品ノ輸送ハ十二月二十五日夕迄ニ全部完結ヲ豫期スル

モノトス

別紙

第三、第四軍戰鬪序列

第三軍司令部	第
第九師團	
第十一師團	
第十四師團	
第一百二師團	

演習第十日(十二月十五日)



三	
獨立山砲兵第三聯隊	
野戰重砲兵第三旅團(一聯隊欠)	
獨立野戰重砲兵第三聯隊(一大隊欠)	
攻城重砲兵(乙)聯隊第三大隊	
第三、第四野戰高射砲隊(甲)	
第十三、第十四野戰高射砲隊(乙)	
獨立工兵第十、第十一大隊	
飛行第五、第十一大隊	
獨立氣球中隊	
第三軍航空通信隊	
第三軍野戰電信隊	
第三軍無線電信隊	
第三軍野戰照明隊	
手押輕便鐵道隊	
第九、第十一、第十四師團架橋材料中隊	

軍

第	
第三軍兵站部	
重、輕迫擊砲八十門	
第四軍司令部	
第二師團	
第四師團	
第六師團	
第八師團	
第十二師團	
第十三師團	
第一百師團	
騎兵第一旅團	
獨立山砲兵第一聯隊	
同 第二聯隊	
野戰重砲兵第一旅團	
野戰重砲兵第二旅團	

演習第十日(十二月十五日)



四

- 獨立野戰重砲兵一聯隊
- 獨立野戰重砲兵第二聯隊
- 攻城重砲兵(乙)聯隊(一大隊欠)
- 獨立攻城重砲兵(丙)大隊
- 第五乃至第八野戰高射砲隊(甲)
- 第九乃至第十二野戰高射砲隊(乙)
- 獨立工兵第七乃至第九大隊
- 飛行第六乃至第十大隊
- 氣球第四大隊
- 第四軍航空通信隊
- 第四軍野戰電信隊
- 第四軍無線電信隊
- 第四軍野戰照明隊
- 手押輕便鐵道隊

軍

- 第二、第四、第六、第八、第十二、第十三師團架橋材料中隊
- 第四軍兵站部
- 重、輕迫擊砲 二百門

第四十二問題研究

本攻撃方案ニ就キ研究スヘキ要項次ノ如シ

- 一、攻撃方法
- 二、主攻撃正面
- 三、羽黒山ノ處置
- 四、攻撃開始ノ時機
- 五、攻撃經過ノ概要

以下逐次之ヲ研究セン

一、攻撃方法

諸官ノ案ヲ大別スレハ次ノ四案トナル

- 1. 強襲ニ依リ先ツ氏家以西ノ第二陣地帯ヲ一舉ニ突破シ氏家以東ニ對シテハ大宮占領後該方面

演習第十日(十二月十五日)



ノ兵力ヲ轉用シテ攻略ヲ圖ル

2. 一舉ニ全陣地帯ヲ突破ス
3. 一舉ニ第一、第二陣地帯ヲ突破ス
4. 第一陣地帯ノミヲ先ツ突破ス

右各案ノ比較研究ニ代ヘ本情況ニ方テ如何ニスルヲ適當トスルヤヲ述ヘントス抑々數地帯陣地攻撃ノ要訣ハ不意ニ乘シ一舉ニ全陣地帯ヲ突破シ速ニ築城地域外ニ進出スルニ在リ本情況ニ於ケル敵陣地ノ正面ハ僅々二十五吉内外ニシテ固ヨリ歐洲兩戰場ノ戰線數百吉中ノ某一點ニ對スル急襲ノ如ク敵ノ不意ニ乘スルコト困難ニシテ此ノ間大ニ其ノ趣ヲ異ニスト雖其ノ要領ハ依然之ニ準スルヲ適當トス蓋シ要塞正攻法ニ準シ各陣地毎ニ逐次之ヲ攻略セントセハ徒ラニ時日ヲ遷延シ敵ヲシテ益々防備ヲ堅固ナラシムルノ不利アルノミナラス此ノ間延テ横須賀及東京方面ノ情況ニ惡影響ヲ及ホスノ虞ナシトセス此ノ見地ヨリセハ全陣地帯ヲ一舉ニ突破スルヲ可トスルモ如何セン攻撃ノ骨幹ニシテ而カモ急速ニ陣地變換ヲ行ヒ得サル我重砲ハ終始同一陣地ニ在リテ敵ノ三陣地帯ニ對シ悉ク有效ナル射撃ヲ實施スル能ハス茲ニ於テカ已ムヲ得ス重砲ノ諸元ニ鑑ミ先ツ二陣地帯迄ヲ一舉ニ突破スルヲ以テ満足セサルヘカラス

次ニ突破實行ノ準備行動タル敵陣地ニ對スル近迫ノ要領ヲ如何ニスヘキヤ之ヲ奇襲戰法ヨリ云ヘハ

甚シク敵ニ接近スルコトナクシテ隱密ニ準備ヲ整ヘ突然起テ一舉ニ近迫及突撃ヲ斷行スルヲ有利トスルカ如キモ斯ノ如キハ極メテ薄弱ナル敵陣地ニ對スルカ然ラサレハ全然敵ノ意表ニ出テ得ルカ如キ場合ニ適用スヘキ戰法ニシテ本情況ハ全ク之ト趣ヲ異ニシ敵陣地ハ既ニ數箇月ニ互リテ堅固ニ設備セラレ又其ノ全線僅々二十五吉ニ過キサレノミナラス地形上主攻撃方面ハ限定セラレアリテ敵ノ意表ニ出テテ之ヲ突破スル望ナシ故ニ此ノ場合ニ於ケル攻撃法トシテハ正々堂々ノ戰法ニ倣ヒ無用ノ損害ヲ避ケツツ攻撃作業ニ依リ逐次敵陣地ニ近迫シテ突撃陣地ヲ占メ諸種ノ準備ヲ整ヘタル後突撃ヲ斷行スルヲ適當トス換言スレハ突撃陣地ヲ占ムル迄ハ處女ノ如ク行動シ突撃ニ移ルヤ脱兎ノ如クスルヲ要スト謂フニ在リ

## 二、主攻撃正面

主攻撃正面ノ選定ニ關シテハ一般戰略關係、敵ノ兵力、素質、敵陣地ノ狀態、地形一般ノ觀察、我砲兵威力ノ發揚並軍隊行動ノ難易及補給交通ノ便否等ヲ考慮セサルヘカラス  
諸官ノ攻撃正面ニハ各種ノ案アルモ大別スレハ敵陣地右翼若ハ左翼ノ山地方面、鬼怒川兩岸ノ平地方面、此ノ平地ノ若干部ト左右何レカノ山地トニ跨ル地區ノ四ト爲スコトヲ得  
敵ノ左翼山地ニ向フモノハ突破ニ成功セハ直ニ敵ノ退路ニ迫ルノ利アルモ概シテ左右兩翼ノ山地ハ共ニ大兵ノ運動交通補給ニ不便ニシテ攻撃至難ナルノミナラス大兵ヲ斯ノ如キ山地ニ入ルルノ間中



央ノ平地ヨリ敵ノ出撃ヲ受クルノ虞アリ鬼怒川兩岸ノ平地ハ敵ノ防備最モ嚴ナル正面ニシテ特ニ兩側羽黒山及八方口東方高地ノ敵手ニ存スル限リ平地ヨリスル攻撃ハ成功覺束ナシ就中鬼怒川右岸平地ヨリ進ムモノハ縱令羽黒山ヲ我手ニ收メタル後ト雖近ク敵前ニ於テ渡河ヲ要スルノミナラス敵陣地ノ凹角ニ向フモノナルヲ以テ攻撃最モ困難ナリ然レトモ平地ノ利トスル所ハ大兵ノ運用、交通補給ニ便ニシテ就中我優勢ナル砲兵威力ヲ最大ニ發揚シ得ルニ在リ

以上ヲ比較考量スレハ主攻撃正面ハ八方口東方山地ヨリ鬼怒川左岸平地ニ互ル地區ニ指向スルヲ最モ可ナリトスヘシ

### 三、羽黒山ノ處置

既ニ主攻撃正面決定ニ就テ研究セシ如ク此ノ主攻ヲ困難ナラシムルハ實ニ羽黒山ナリ諸官ノ親シク見ラルル如ク羽黒山ハ實ニ敵ノ爲天與ノ理想的監視所ニシテ苟クモ該高地ニシテ敵ノ手中ニ在ランカ我行動ハ歷々トシテ掌ヲ指スカ如ク且我主攻方面部隊攻撃ノ諸準備ヲ妨害セラルルコト多大ナリ故ニ主攻方面攻撃準備間先ツ該地點ヲ奪取スルノ急務ナルヲ感セスンハアラス

### 四、攻撃開始時機並攻撃經過

之ニ關シテハ爾後問題ヲ設ケテ研究スヘキヲ以テ茲ニ之カ詳述ヲ避ケ唯答解原案ニ於テ重要ナル期日ヲ示スニ止ム

## 第四十二問題原案

### 攻撃方案

- 一、兵團ハ逐次敵陣地ニ近迫シ後一舉ニ第一、第二陣地帯ヲ奪取ス之カ爲主攻ヲ荒川右岸高地脈及其ノ以西東北本線ニ互ル地區ニ指向ス但シ羽黒山ハ攻撃準備中ノヲ奪取ス
- 二、第三、第四軍ノ作戰地境ヲ次ノ如ク定ム線上ハ第四軍ニ屬ス  
田川(川ノ名)―宇都宮東北端―白澤―氏家城趾―新知―箱森新田―越畑―澤ノ線
- 三、兵團ハ十二月二十六日夕南向田―上高根澤―白澤―徳次郎―猪倉ノ線ヲ發シ二十七日拂曉迄ニ敵前約四吉ノ線ニ進出ス
- 第三軍ハ遅クモ十二月三十日迄ニ羽黒山附近ノ陣地ヲ奪取ス此ノ間第四軍ハ攻撃準備ヲ整ヘ敵ノ出撃ニ備フ
- 敵第一陣地帯ニ對スル突撃ノ時機ハ概ネ一月九日ト豫定ス

## 第四十五情況

演習第十日(十二月十五日)



作戰十二月二十二日、二十三日

二一〇

一、十二月二十二日夕第四軍司令官ハ金井島ニ在リテ關東方面軍司令官ヨリ氏家附近陣地攻略ニ關スル  
攻撃計畫ノ大要ヲ受領ス(其ノ大綱既述ノ如シ)

二、軍前面ニ於ケル敵陣地ノ概要別紙要圖ノ如シ而シテ各陣地ハ多數ノ交通壕ニ依リ前後左右ニ連絡セ  
ラレ又各陣地前及主要交通壕ノ周圍ニハ深サ二、三十米ノ鐵條網ヲ設備セラレアリ

三、十二月二十三日夕ニ於ケル第四軍諸隊ノ主ナルモノノ位置概ネ左ノ如シ

第六師團 (獨立山砲兵第  
一聯隊ヲ附ス) 鹽田南方高地ヨリ給部附近ヲ經テ廻谷附近ニ互リ陣地ヲ占領シ其ノ主力  
ヲ稻毛田附近ニ集結

第一百師團 西根附近ヨリ鷺ノ谷ヲ經テ同地西方高地ニ互リ陣地ヲ占領シ其ノ主力ヲ野高谷(道場  
宿東方約二吉)附近ニ集結

第十三師團 岡本新田ヨリ白澤附近ニ互リ陣地ヲ占領シ其ノ主力ヲ岡本停車地西側地區ニ集結  
軍直屬部隊

第十三師團ノ一旅團 金井島附近ニ集結

野戰重砲兵第一旅團 一大隊ヲ以テ芳志戸(稻毛田北方約二吉)附近ニ

一聯隊ヲ以テ臺原(道場宿東北方約四吉)附近ニ陣地占領

一大隊ヲ以テ中岡本附近ニ

獨立野戰重砲兵第二聯隊(一大隊欠)

板戸(道場宿北方約三吉)附近ニ陣地占領

飛行第六乃至第十大隊

古河飛行場ニ在リテ其ノ前進著陸場ヲ臺原(眞岡東微北約六吉)及大野原

(鑛山東南約三吉)ニ設備

野戰高射砲隊 (乙) 七井及眞岡附近ニ陣地占領

野戰高射砲隊 (甲) 上稻毛田、板戸、台原、大野原附近ニ陣地占領

氣球隊 祖母井及道場宿附近

野戰照明隊 各一中隊ヲ第一線師團ニ配屬

其他ノ軍直屬部隊及軍司令  
部 金井島附近ニ位置

第四師團 七井、益子附近ノ地區ニ集結

第二師團 本田(道場宿南方五吉)石法寺附近ノ地區ニ集結

第八師團 集中中ニシテ其ノ先頭谷田貝ニ到達

砲兵諸隊(攻城重砲兵諸隊ヲ除ク)

演習第十日(十二月十五日)

二一一



真岡附近ニ集結

攻城重砲兵諸隊 高崎—小山—下館—茂木鐵道經由二十五日ヨリ二十七日(三日間)ニ互リ逐

次七井附近ニ却下セラルル筈

野戰砲(工)兵廠 一部ハ既ニ七井附近ニ到着シ該地附近ニ彈藥及器材ノ集積ヲ準備シツツアリ主力ハ高崎ニ位置ス

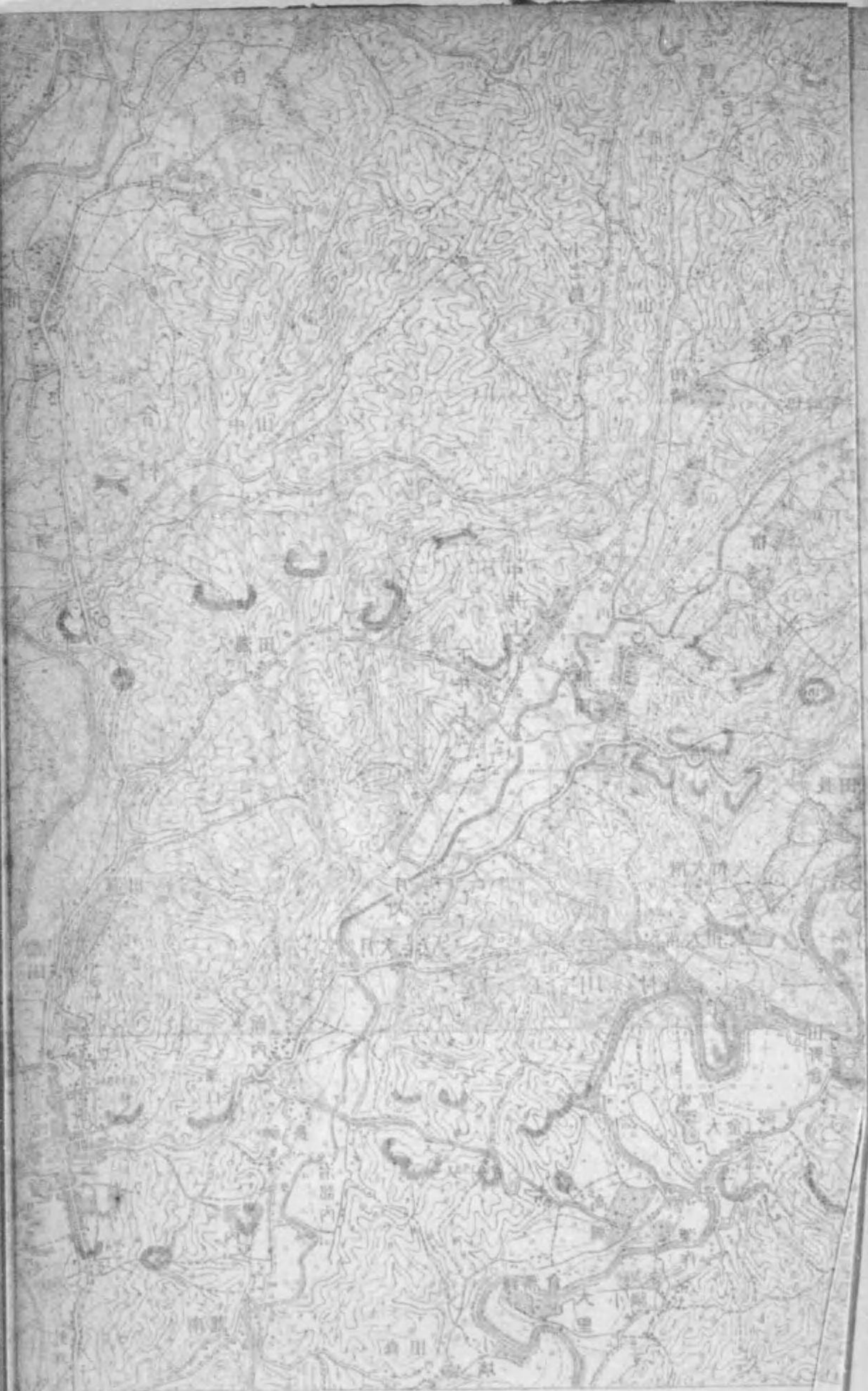
第四十三問題

第四軍攻撃計畫ノ概要

(要圖答解午後十時宇都宮統裁宿舍ニ提出)

但シ攻撃要領部署及任務、攻撃各期ノ區分及行動ノ大要ノミヲ記スルモノトス

右終テ晝食現地偵察ノ後隨意列車ニ依リ宇都宮ニ歸ラシム

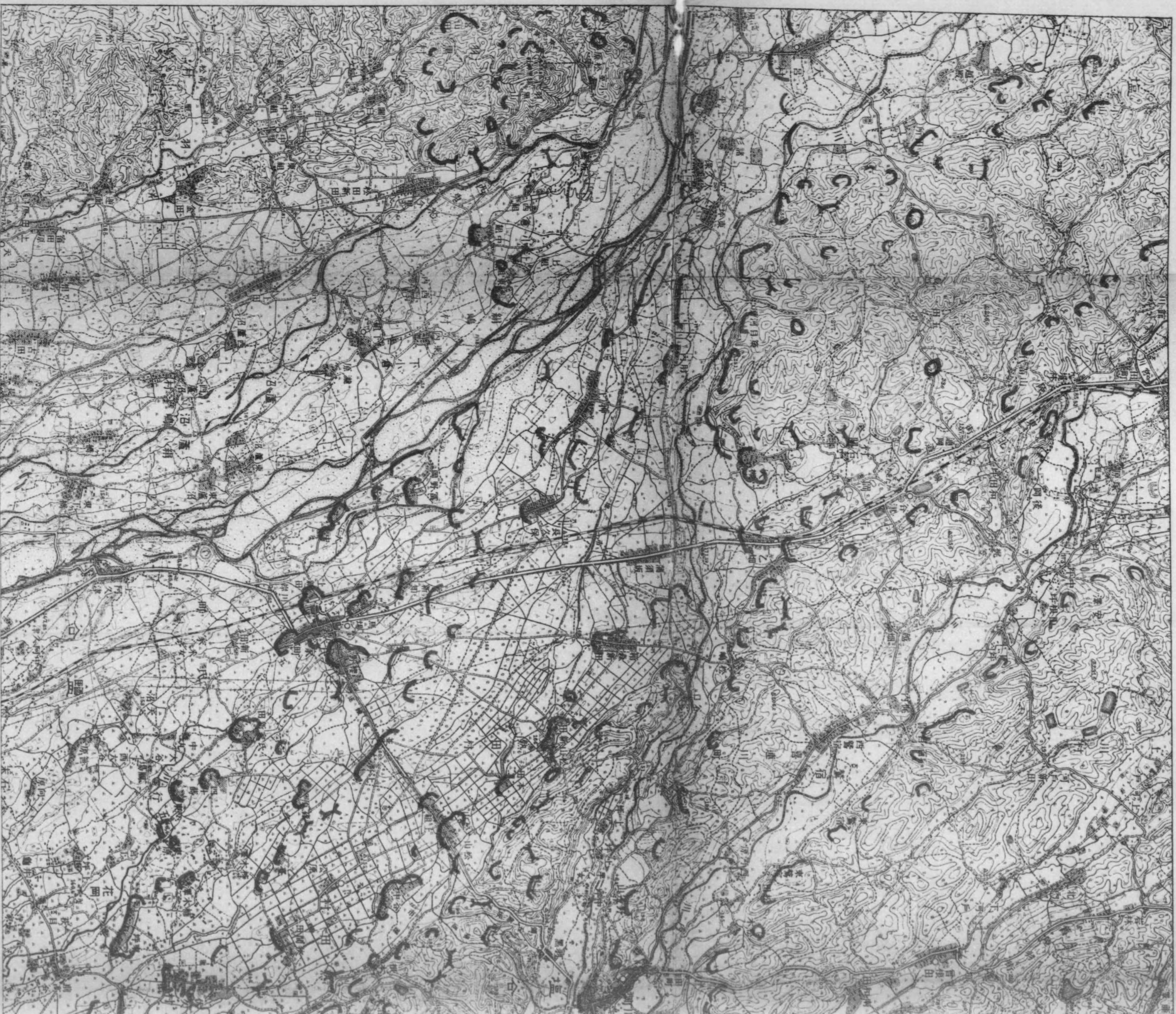






# 陣地偵察要圖

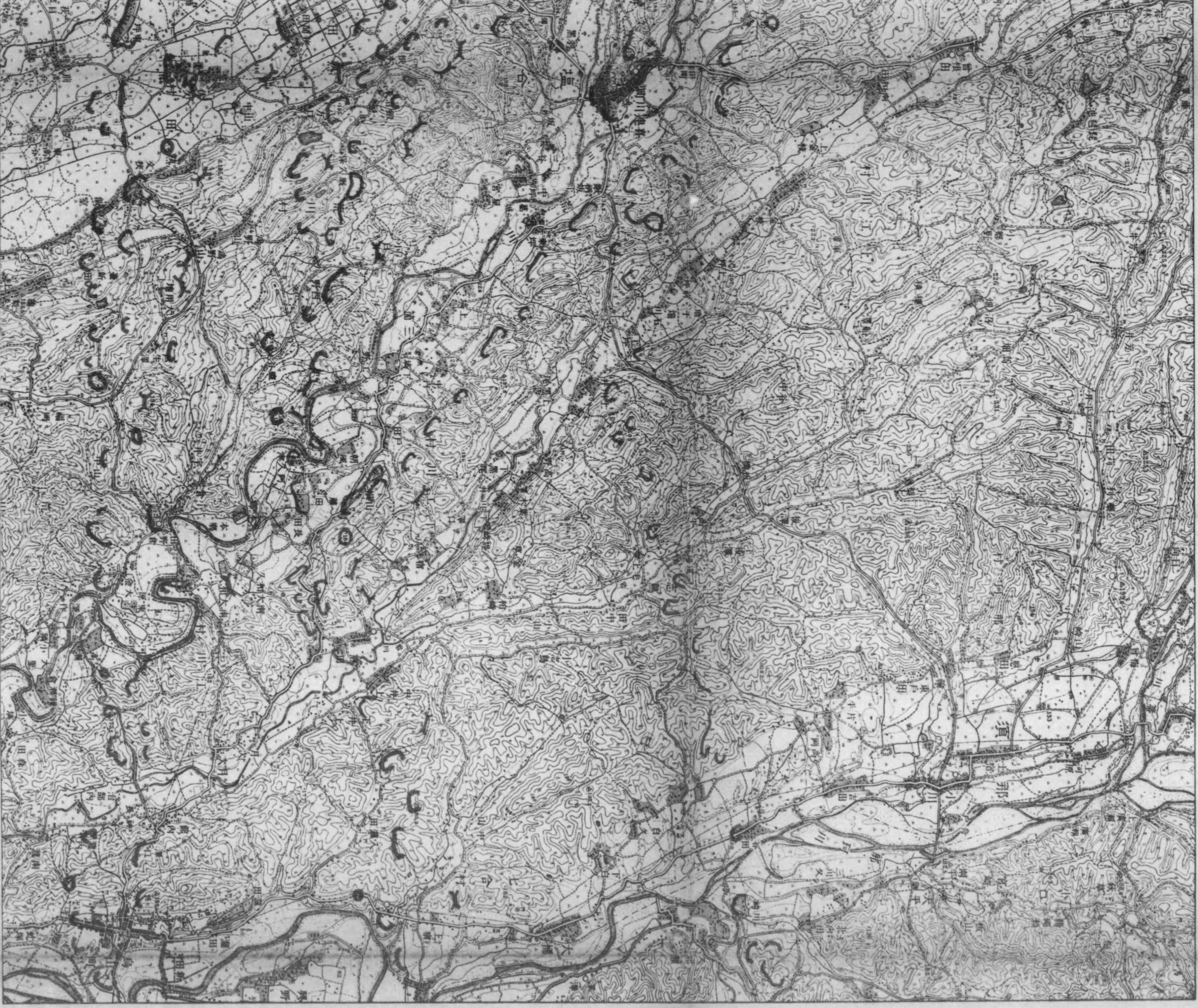
二十二年三月二日





# 陣敵近附家氏

圖日二十二月二十



五 分 一  
5000 3000 2000 1000  
10 20 30 40 50  
米



演習第十一日 (十二月十六日) 晴

午前八時宇都宮發列車ニテ實積寺ニ到リ同地東北側高地上ニ於テ第四十三問題ノ研究ニ入ル

第四十三問題研究

本問題ノ研究事項ハ極メテ多キモ時間ノ關係上攻撃要領、攻撃部署及任務、攻撃各期ノ區分行動ノ大要等主要項目ニ就キ研究スルニ止メントス

一、攻撃要領

既ニ關東軍北部兵團ノ攻撃方案ニ就テ研究セシ所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス唯所謂攻撃軸ヲ何レノ方面ニ決定スルヤハ重要ナルコトナルモ諸官ノ大部ハ之ニ關シ何等示サルハ適當ナラス  
敵ノ陣地ヲ判斷スルニ其ノ主抵抗陣地ハ必スヤ第二陣地帯ニシテ又軍ノ擔任正面中第二陣地帯ノ鎖鑰ト認ムヘキハ八方口附近山地ト平地トノ接合部ナリ隨テ敵亦此處ニ抵抗中樞タルニ適スルノ設備ヲナシアルヘシト雖之ヲ我手ニ收ムルニアラサレハ到底第二陣地帯ノ攻略ハ期スルヲ得ス即チ此關係ヨリシテ軍ハ其ノ主攻撃軸ヲ山地、平地ノ接合部ヨリ西北方喜連川ニ向ヒ指向スルヲ必要トス

二、攻撃部署及任務

攻撃部署ニ於テ特ニ主ナルモノハ第一線師團ノ數及作戰地境竝砲兵ノ配屬ナリ第一線師團數隨テ師



團ノ負擔正面ニ就テハ後述『氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定』ニ就キ詳述スルヲ以テ之ヲ省略スルモ第一線ニ四師團、第二線ニ二師團ヲ配當スルヲ可トス斯クスレハ師團ノ負擔正面概適當ニシテ任務達成困難ナラサルヘク又第二線師團ハ戰果擴張(所望ノ地帶突破後ヲ意味ス以下同シ)ニ任スルヲ主眼トシ要スレハ第一線師團ト交代セシムルコトアルモ之ヲ第一線ニ注入増加スルコトハ避ケサルヘカラス故ニ第二線兵團ヲ建制トスルハ論ナシ

次ニ研究ヲ要スヘキハ砲兵配屬問題ナルモ之ニ關シテ後述『砲兵ノ統一指揮』ニ於テ詳述ス唯茲ニ一言スヘキハ陣地攻撃ニ於ケル軍砲兵用法ノ根本原則ナリトス初期ニ在リテハ通常主攻撃正面ニ於テ之ヲ統一使用シ攻撃實行ノ時期ニ至レハ歩砲兵ノ密接ナル協同動作ヲ主眼トシ軍直屬砲兵ノ全部又ハ大部ヲ師團ニ配屬スルニ至ルモノトス

尙軍ノ攻撃計畫ニ於テハ軍砲兵ト師團砲兵トノ任務及陣地ヲ明確ニ示スヲ緊要トス之ニ關スル諸官ノ注意尠カリシハ不可ナリ而シテ之カ任務決定ニ方リテハ能ク火砲ノ特性及主要諸元ヲ顧慮シ地形及攻撃目標ニ對照シ決定スルヲ要ス唯徒ラニ射程ノミヲ基礎トシ何等地形ニ就テ考フルコトナク例ヘハ大中口径ノ全部ヲ運用不可能ナル右翼山地方面ニ使用セントスルカ如キハ適當ナラス

### 三、攻撃各期ノ區分及行動ノ大要

本項ハ曩ニ關東方面軍北部兵團攻撃方案ノ研究ニ於テ攻撃始終ノ時日ヲ決定シアルヲ以テ此ノ間ニ於ケル各期ノ區分及行動ノ大要ヲ地形ニ照ラシ決定スレハ可ナリ之ニ關シテハ原案ニ示シアルヲ以

テ就キテ研究セラレタシ

諸官ノ内此ノ種攻撃法ノ原則ニ關スル研究十分ナラサルモノアリ例ヘハ攻撃作業ヲ爲スヤ過遠ノ距離即チ軍ノ現在地ヨリ開始セルカ如キ或ハ一夜ノ中ニ突擊陣地ヲ完成セントスルカ如キ或ハ後方交通設備ヲ缺クカ如キ或ハ又攻撃準備ト攻撃實施トノ區別混同セルカ如キ是ナリ原案ニ示スハ單ニ一例ニ過キサシム之ヲ參考トシテ將來一層ノ研究ヲ望ム

## 第四十二問題原案

### 第四軍攻撃計畫ノ概要

#### 第一、敵情及友軍ノ情況

一、敵情別紙要圖ノ如シ(第四十五情況ノ要圖ニ同シ)

#### 二、友軍ノ情況

第三軍ハ軍ノ左翼ニ速リ先ツ羽黒山附近ノ敵陣地ヲ奪取シ次テ概シテ東北本線以西ノ地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃ス

軍ト第三軍トノ作戰地境ハ左ノ如シ但シ線上ハ第四軍ニ屬ス

田川—宇都宮東北端—白澤—氏家城址—新知—箱森新田—越畑—澤ノ線

#### 第二、攻撃要領

演習第十一日(十二月十六日)



三、軍ハ主攻撃ヲ第四、第一百師團ノ正面ヨリ喜連川方向ニ指向シ逐次攻撃作業ヲ以テ敵第一陣地帯ニ近迫シ爾後砲火ノ威力ト相俟チテ一舉ニ敵第一、第二陣地帯ヲ攻略ス  
第三陣地帯ノ攻撃ハ第二陣地帯攻略後ノ情況ニ依リ之ヲ定ム

第三、部署及任務

四、兵團ノ區分別表ノ如ク第一線師團ハ各當面ノ敵ヲ攻撃ス特ニ第六師團ハ一部ヲ以テ敵ノ左側ヲ脅威スルコトニ努ム其作戰地境ヲ左ノ如ク定ム但シ線上ハ右師團ニ屬ス

第六師團

續谷—曲田—小倉—戸田—鹿子畑ノ線

第四師團

祖母井—磐若塚—東高谷—鍛冶澤—喜連川西端—南和田ノ線

第一百師團

鎗山東端—板戸東端—石末—四斗蒔—松山西端—東鷲宿ノ線

第十三師團

五、師團配屬砲兵ト軍直屬砲兵トノ任務及陣地配當

(イ) 任務

師團配屬砲兵

主トシテ第一、第二地帯ヲ通シ配當セラレタル攻撃正面内ニ於ケル歩兵攻撃直接障礙(主トシテ鐵條網、機關銃巢等)ノ破壊、敵指揮系統機關(觀測所、司令部、通信所等)ノ擾亂及敵輕砲ノ制壓若ハ破壊

軍直屬砲兵

主トシテ敵重砲ノ制壓若ハ破壊、主攻撃正面ニ於ケル抵抗中樞ノ破壊及敵後方交通路要點等ノ射撃

兩砲兵ノ主任務右ノ如シト雖情況ニ依リ軍直屬砲兵ヲ以テ某師團配屬砲兵ヲ又師團配屬砲兵ヲ以テ軍直屬砲兵或ハ比隣師團配屬砲兵ヲ援助スルコトアリ此場合ニ於テハ軍司令官之ヲ規定ス又攻撃實施ニ當リ軍直屬砲兵中野戰重砲兵旅團ヲ各師團ニ配屬ス其豫定左ノ如シ

第四師團ニ野戰重砲兵第二旅團(第四聯隊(第二大隊欠)欠)

第一百師團ニ野戰重砲兵第一旅團(第二聯隊(第二大隊欠)欠)

第十三師團ニ野戰重砲兵第二聯隊(第二大隊欠)

(ロ) 陣地ノ配當

各師團ノ砲兵陣地ハ各其ノ作戰地域内ニ選定スルヲ本旨トスルモ必要ナル場合ニハ關係師團長協定ノ上他師團地域内ニ選定スルコトヲ得

軍直屬砲兵ノ陣地ヲ左ノ如ク豫定ス

二十四榴(主力) 寶積寺北側及東南側附近

(一部) 下柏崎附近

十五加 寶積寺東南方地區

第二陣地帯攻略後迄

演習第十一日(十二月十六日)



十 加(主力) 寶積寺北方約一吉附近

(一部) 八代(大赤根西方約一吉)、和田東方約五百高地)

十五 榴

曲畑北側、和田附近、上金井、西ノ内(寶積寺西北約千五百)附近 攻撃初期

六、師團配屬及軍直屬航空隊飛行場並搜索地域

(イ) 飛行場(前進著陸場)

飛行場ハ依然古河トシ前進著陸場ヲ左ノ如ク定ム

飛行第六、第七、第九、第十大隊

臺原

飛行第八大隊

大野原

(ロ) 搜索地域

各師團ノ搜索地域ハ師團作戰地域トシ師團ト軍トノ搜索地域ハ概ネ第三陣地帯後端ノ線トス

七、野戰高射砲隊

乙ハ七井及真岡附近ニ陣地ヲ占領シ該地附近上空ノ防禦ニ任ス

甲ハ第一線近ク戰場ノ要點ニ配置シ相互連繫シテ戰場一帯ノ防空ニ任シテ我部隊ノ行動ヲ掩蔽ス

第四、攻撃經過ノ概要及各團隊ノ行動

八、別紙ノ如シ

第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團	第六師團	第七師團	第八師團	第九師團	第十師團
第一旅團	第二旅團	第三旅團	第四旅團	第五旅團	第六旅團	第七旅團	第八旅團	第九旅團	第十旅團
第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊	第九聯隊	第十聯隊
第一中隊	第二中隊	第三中隊	第四中隊	第五中隊	第六中隊	第七中隊	第八中隊	第九中隊	第十中隊
第一小隊	第二小隊	第三小隊	第四小隊	第五小隊	第六小隊	第七小隊	第八小隊	第九小隊	第十小隊









別紙

第四軍攻撃經過ノ概要及各團隊ノ行動

施 實 擊 攻			備 準 擊 攻		區 分
期 三 第	期 二 第	期 一 第	期 二 第	期 一 第	
後施實擊突日九月一	曉拂日七月一自 曉拂日九月一至	夕日二月一自 曉拂日七月一至	夕日一十月一自 夕日二月一至	夕日六十月二自 夕日二十三月二十自	軍ノ攻撃經過ノ概要
軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	第一線師團ノ行動
軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍直屬砲兵ノ行動
軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	第二線師團ノ行動
軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	軍ハ突擊準備ヲ爲ス	其他ノ部隊ノ行動

第四軍攻撃經過ノ概要及各團隊ノ行動

第一線師團ノ行動

軍直屬砲兵ノ行動

第二線師團ノ行動

其他ノ部隊ノ行動



右研究終リテ左ノ情況ヲ與ヘ第四十四問題ヲ附與シ乘馬ニ依リテ現地ヲ偵察セシム

### 第四十六情況

作戰十二月二十四日

一、十二月二十四日正午第十三師團長ハ岡本停車場ニ在リテ前記軍攻撃計畫ヲ受領ス  
此ノ時迄ニ師團長ノ知り得タル情況次ノ如シ

1. 敵ノ小部隊ハ石末—中阿久津北方高地—上阿久津—氏家城趾ノ線ヲ占領シ其ノ砲兵ハ向原北側上阿久津東方高地ニ在ルモノノ如ク時々下寶積寺及白澤附近ノ我第一線部隊ヲ射撃ス  
其他敵陣地ノ詳細ハ別紙要圖ノ如シ
2. 鬼怒川ニハ既ニ軍ニ於テ柳田及福島附近ニ強縦隊橋ヲ架設シアリ偵察ノ結果鬼怒川本流ニハ氏家城趾北側合流點附近大中南方渡場及下寶積寺鐵道橋附近ニハ幅各約五十米ノ徒涉場アリ又西鬼怒川ハ到ル處概シテ徒涉スルコトヲ得

二、十二月二十四日正午ニ於ケル第十三師團姿勢ノ概要左ノ如シ  
第一線部隊 岡本新田ヨリ白澤ニ互ル線ヲ占領シアリ  
野砲兵第十三聯隊 一部ヲ以テ臺岡本附近ニ主力ヲ以テ白澤南方地區ニ陣地ヲ占領シアリ

演習第十一日(十二月十六日)



野戰照明中隊 一小隊ヲ以テ白澤附近ノ陣地ニ就キ他ハ師團主力ノ位置ニ在リ  
師團主力 岡本停車場附近森林内ニ位置ス  
師團司令部 岡本停車場ニ在リ

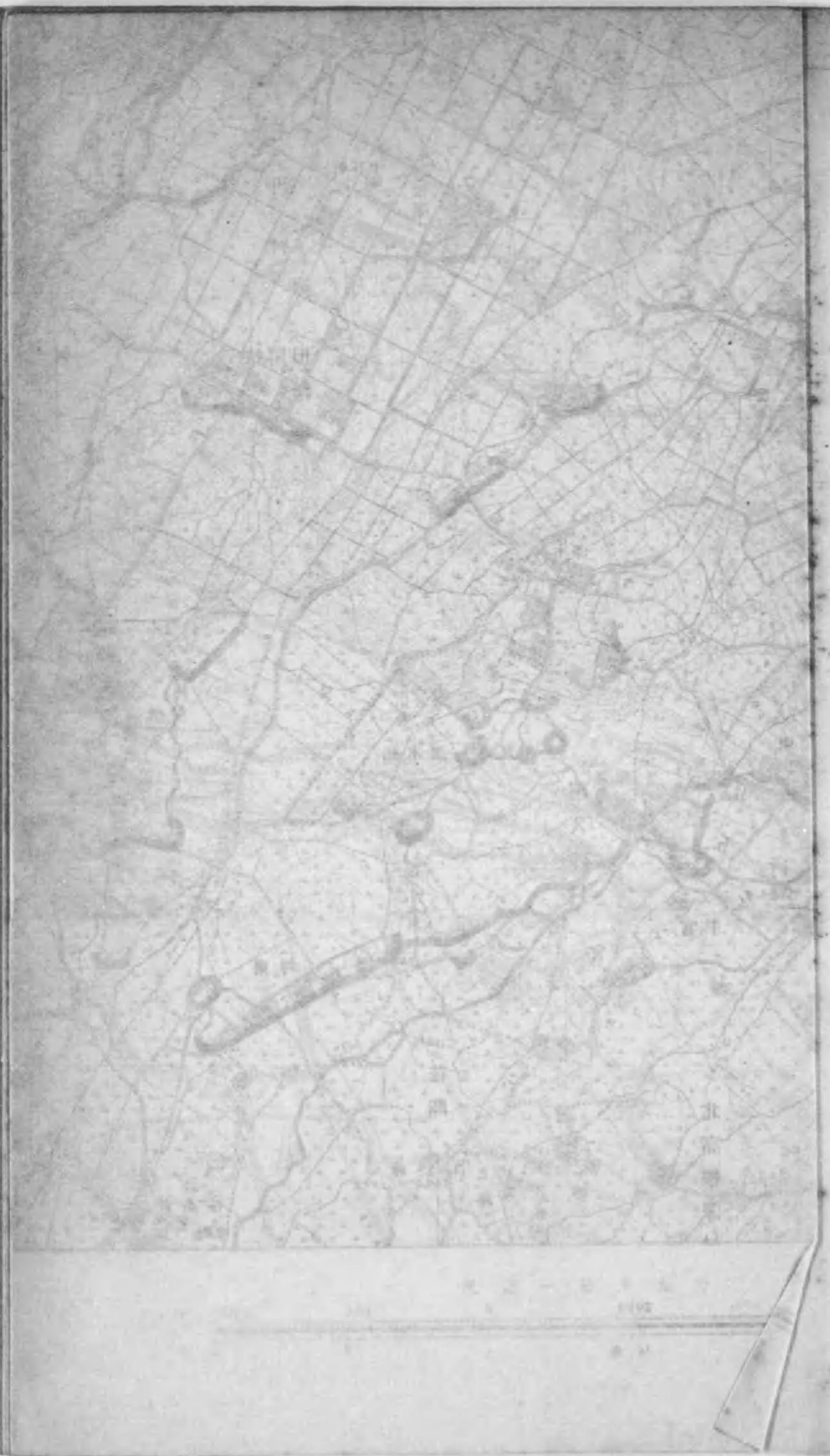
第四十四問題

軍攻撃計畫ニ基ク第十三師團攻撃計畫

(要圖答解午後八時三十分宇都宮統裁官宿舍ニ提出)

(注意) 鬼怒川右岸地區ハ圖上判斷ニ依ル

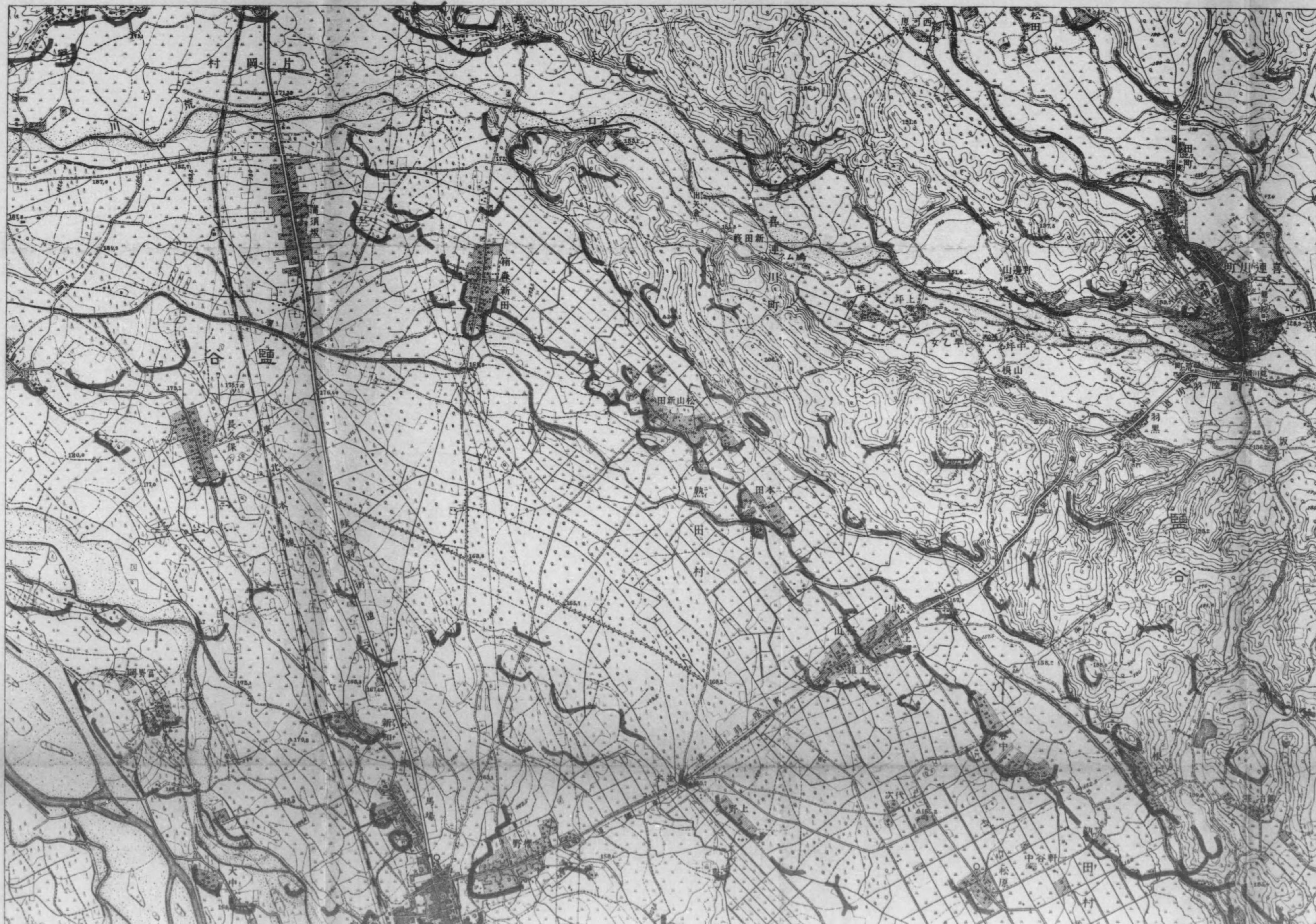
午後三時五十三分氏家發列車ニ依リ宇都宮ニ歸ル



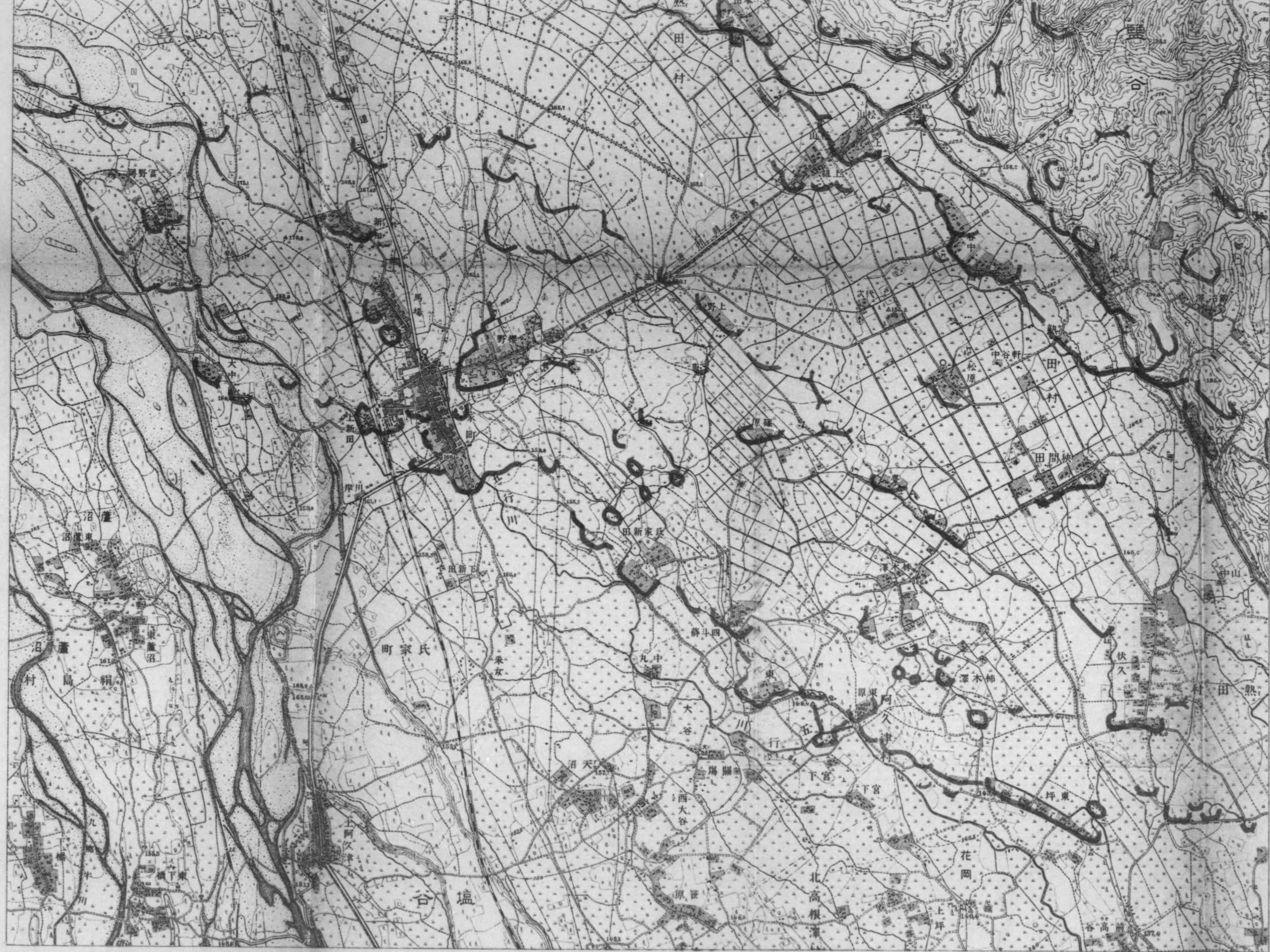


氏家附近第三十師團當面之敵陣地偵察要圖

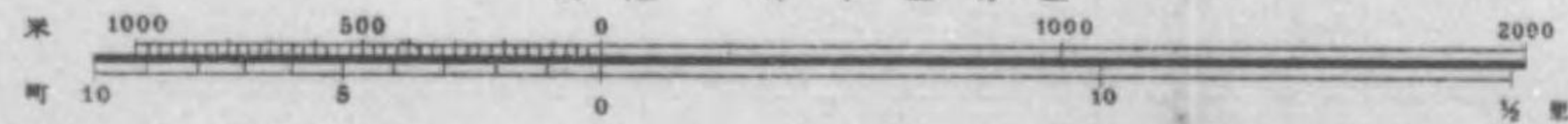
二十二月三日頃之敵陣地







尺之一分千五万二





演習第十二日 (十二月十七日) 曇

午前八時十分宇都宮發列車ニ依リ氏家ニ到リ采女西方高地上ニテ第四十四問題ノ研究ヲ爲ス

第四十四問題研究

本問題ハ軍攻撃計畫ニ於テ既ニ大半研究セシ所ナルヲ以テ此處ニハ特ニ軍攻撃計畫ト異ナル著眼點ノミニ就キ研究スルニ止メン

一、戦闘地域

師團ノ作戦地域ハ其ノ正面幅竝同地域内ニ在ル地形及敵陣地ノ状態ヨリ見テ之ヲ二區分トスルヲ適當トスルハ諸官ノ考案ノ如シ然ルニ諸官ノ多クカ兩翼隊ノ戦闘地域ヲ劃スルニ單ニ敵陣地及之ニ接スル部分ニ就テノミ考慮シタルニ過キサルハ甚タ適當ナラス兩翼隊カ現在地ヨリ如何ニ前進スヘキヤヲ併セ考ヘサルヘカラス殊ニ本情況ニ於テ師團ノ現在姿勢(全部鬼怒川右岸ニ在リ)ト鬼怒川ノ情況トニ鑑ミルトキハ何處ニテ左翼隊ヲ左岸ニ進出セシムヘキヤハ是非共此ノ際考定シ之ニ適スル如ク戦闘地域ヲ示ササルヘカラサルナリ

二、兵力區分

演習第十二日(十二月十七日)



a. 横方向ニ於ケル考慮 一般ノ地形及敵陣地ノ状態ヨリ左右兩地區ニ於ケル攻撃ニ關シ比較攻究スルニ第一陣地帯ニ在リテハ氏家町ヲ有スル左地區ニ比シ多クノ兵力ヲ要スヘク之ニ反シ第二陣地帯ニ在リテハ本田ヲ中心トシ且兩側ニ松山及松山新田ヲ有スル右地區ハ左地區ニ比シ多クノ兵力ヲ要スルヤ明ナリ又軍攻撃ノ重點ノ所在ノ關係ヨリ云ヘハ師團ハ右方ニ重點ヲ備フルヲ適當トスルカ如キモ敵出撃ノ企圖ニ對スル顧慮ヨリ云ヘハ右方ヨリモ左方ヲ重視セサルヘカラス

b. 縦方向ニ於ケル考慮 數線陣地帯ノ攻撃ハ從來ノ一線陣地ノ攻撃ト異ナリ縦深ナル地域ノ各所ニ於テ遭遇スヘキ情況及衝突スヘキ陣地ハ同一方面ニ於テ已ニ一様ナラサルハ明ナルヲ以テ同一戰鬪地域内ニ於テハ各時期ニ由テ所要兵力同シカラサルヲ自然トス即チ本情況ニ於テ之ヲ大別シテ比較スルニ敵ノ主抵抗陣地ナリト判斷セラルル第二陣地帯ノ攻撃カ第一陣地帯ノ攻撃ヨリモ多クノ兵力ヲ要スルハ明ナリ然レトモ第一陣地帯ニ突入シタル以後ハ所謂紛戰状態トナリ情況ノ變化測ルヘカラサルノミナラス動モスレハ必須ナラサル兵力迄モ此ノ渦中ニ吸收セラレルヲ以テ師團トシテハ固ヨリ所要ノ兵力ヲ最初ヨリ兩翼隊ニ與フヘキモ又他方ニ於テハ攻撃ノ當初成ルヘク多クノ兵力ヲ控置シ爾後所要ニ應シ之ヲ所要ノ方面ニ増加スルノ考慮ナルヘカラス

### 三、豫備隊

軍ノ第二線兵團(豫備)ハ主トシテ所望ノ陣地帯突破後ニ於ケル戰果擴張及師團ノ交代ニ用ヒラルヘキヲ以テ第一線部隊ニ増加セラルルカ如キハ特異ノ場合ニ限ル故ニ之ヲ建制トナスヲ要スルナリ然ルニ軍内ノ中間師團ハ兩側ニ機動ノ餘地ナク又師團全力ヲ以テ所命ノ地域内ニ於テ所命ノ陣地帯ヲ攻略スレハ足ル故ニ其ノ豫備隊ハ主トシテ第一線ノ増加支援ニ用ヒ之ヲ突破後ノ戰果擴張ニ用ヒントスルカ如キハ決シテ其ノ本旨ニアラス故ニ敢テ建制ヲ必要トセス寧ロ爾後各方面ノ需要ヲ豫測シテ適當ノ度ニ混成トナスヲ可ナリトス

### 四、攻撃ノ經過及諸隊ノ行動

此ノ研究ハ一般ニ甚タ不十分ナルモ時間ノ關係上唯一二ノ要項ニ就キ述フルニ止ム故ニ其ノ詳細ハ原案ニ就テ研究セラレタシ

a. 敵前哨陣地ノ攻略 石末、上阿久津、氏家城趾ノ線ニ在ル敵ノ前哨部隊ノ攻撃ニ就キ顧慮ヲ拂ハサルモノアリ日露戰役ニ於テモ敵ノ前哨若ハ前進陣地ヲ蔑視シ攻撃ニ齟齬ヲ來タシ或ハ無用ノ損害ヲ出シタル例尠カラス歐洲戰後各國ハ本陣地ノ前方ニ於ケル此ノ種施設ニ一層ノ力ヲ用フルニ至レルカ如シ注意ヲ要ス

b. 攻撃準備ノ位置ト攻撃作業ノ開始線トノ關係 寶積寺ヨリ氏家城趾ニ連ル舌狀ノ高地臺ハ敵陣地ノ最前線ニ對シ斜行シ氏家城趾附近ノ高地緣端ハ攻撃準備位置トシテハ少シク敵線ニ近接



ニ失スルモ我砲兵ノ準備、敵陣地ニ對スル諸偵察等ヲ顧慮セハ攻撃準備ノ爲是非共之ヲ我手ニ收ムルノ要アリ故ニ攻撃準備ノ際ニハ少シク右下リノ線ヲ占メ攻撃作業開始ニ於テハ當初先ツ氏家城趾ヲ軸トシテ右方ノ部分ヲ進メテ敵線ト平行セシムル如クスルノ考慮ヲ以テ計畫スルヲ適當トス

c. 隨伴砲兵 隨伴砲兵ニ關シテハ固ヨリ從來ヨリ唱ヘラレタル所ナルカ歐洲戰ニ於テハ益々必要ヲ認メ遂ニ歩砲ノ密接ナル協同ヲ要求スルノ結果一部ノ輕砲ヲ步兵隊長ノ指揮ニ屬セシムルニ至レリ我操典草案ニモ之ヲ認メアリ山砲ハ此ノ目的ニ最モ能ク適合ス故ニ予ハ歩兵力攻撃作業ヲ開始スルニ至ルヤ兩翼隊ニ山砲ヲ配屬セントス

d. 突撃開始時機 如何ニ敵ノ意表ニ出ツルト云フモ若干時準備砲撃ノ後突撃ニ移ルヘキハ堅固ナル陣地ニ對シテ云フ迄モナシ而シテ歐洲戰末期ニ於テハ多クハ拂曉時ニ突撃ニ移ル爲其ノ以前ニ此ノ準備砲撃ヲ爲スヲ例トセルモ我軍内ノ砲兵ニ夜間精密射撃ヲ望ムヲ得ス故ニ天明後砲撃ヲ開始シ相當其ノ威力ヲ見タル後突撃ニ移ルヲ適當トスヘシ

e. 兩陣地帶攻撃ノ連繫 固ヨリ情況ニ應シテ臨機定ムヘシトハ雖豫メ考慮シ置クヲ要スルモノハ十分ニ研究ヲ遂ケサルヘカラス即チ兩陣地帶ノ中間ニ横ハル一帶ノ森林ハ兩陣地帶ニ對スル我攻撃動作ノ連鎖ヲ爲スモノナルト共ニ敵トシテモ亦之ヲ以テ其ノ企圖スル主ナル第二次ノ活

劇ヲ秘スル黒幕トシテ利用セルモノナリ故ニ師團ハ第一陣地帶ヲ攻略シタル後ハ其ノ儘直ニ第二陣地ニ向ヒ進スルコトナク一度此處ニ隊伍ヲ整ヘテ同森林帶ノ北縁ニ出テ以テ第二陣地帶ニ對スル攻撃ヲ開始スル如ク戰闘ヲ指導スルノ著意必要ナリトス

### 第四十四問題原案

#### 第十三師團攻撃計畫(第二陣地帶奪取迄)

##### 第一、敵情

一、軍及師團前面ノ敵情別紙要圖ノ如シ(第四十六情況ノ要圖ニ同シ)

##### 第二、軍ノ目的及友軍ノ情況

二、軍ハ主攻撃ヲ第四、第百一師團ノ正面ヨリ喜連川方向ニ指向シ一舉ニ敵第一、第二陣地帶ヲ攻略ス軍直屬砲兵ハ十二月二十七日夕ヨリ同三十一日拂曉ニ互リ逐次展開ヲ完了ス其ノ當初師團作戰地域内ニ配置セラレヘキ陣地概ネ次ノ如シ

二十四榴 寶積寺北側及東南側

十五加 寶積寺東南方地區

十加 寶積寺北方約一吉附近

第二陣地帶奪取迄

演習第十二日(十二月十七日)



十五榴 中阿久津附近

攻撃初期

三、右翼第百一師團トノ作戰地境ハ左ノ如シ線上ハ第百一師團ニ屬ス

鑓山東端—板戸東端—石末—四斗蒔—松山西端—東鷺宿ノ線

左翼第三軍トノ作戰地境左ノ如シ線上ハ當師團ニ屬ス

宇都宮東北端—白澤—氏家城趾—新知—箱森新田—越畑—澤ノ線

第三、攻撃要領

四、師團ハ攻撃作業ヲ以テ逐次敵第一陣地帯ニ近迫ス次テ其ノ配屬砲兵迫撃砲及歩工兵破壊班ヲ以テ主

トシテ第一、第二陣地帯ノ直接障礙物ヲ破壊スルヤ第一線部隊ハ突撃ヲ實施シ敵ヲ掃蕩シツツ一舉ニ

第一、第二陣地帯ヲ突破ス爾後師團ハ荒川右岸高地端ヲ確實ニ占領シ敵ノ出撃ニ備ヘ爾後ノ攻撃ヲ準

備ス

第四、攻撃部署

五、攻撃部署左ノ如シ但シ攻撃ノ初期ノモノニシテ攻撃ノ進捗ニ伴ヒ逐次變更ス

右翼 隊

長 歩兵第二十五旅團長 少 將 某

歩兵第二十五旅團(第五十聯隊(一大隊欠)欠)

騎兵二分隊

工兵第十三大隊(一中隊欠)

左翼 隊

長 歩兵第二十六旅團長 少 將 某

歩兵第二十六旅團(第五十二聯隊(一大隊欠)欠)

騎兵二分隊

獨立工兵第八大隊(二中隊欠)

砲兵 隊

長 野砲兵第十三聯隊長 大 佐 某

野砲兵第十三聯隊

獨立山砲兵第一聯隊第三大隊

野戰重砲兵第二聯隊(第二大隊欠)

重輕迫撃砲四十門

豫備 隊

歩兵第五十聯隊(一大隊欠)

演習第十二日(十二月十七日)









別紙

第十三師團攻撃經過ノ概要及各團隊ノ行動

施 實 擊 攻			備 準 擊 攻			區	
期 三 第	期 二 第	期 一 第	期 二 第	期 一 第	期 一 第	分	
後施實擊突日九月一	曉拂日七月一自 時擊突日九月一至	夕日四月一自 曉拂日七月一自	夕日二月一自 夕日四月一自	夕日十一月二十自 夕日二月一自	曉拂日七月二十自 夕日十一月二十自	夕日六月二十自 曉拂日七月二十自	
ヲ威師 奪ヲ力團 取掃ヲハ九 シチ拂 シテ突擊 第ニ後 二ヲ砲 陣實 地施 火ノ	師團ハ突擊準備ヲ完了ス	陣約擊新ヲ師 地二陣田起團 ヲ百地シハ 占五ヲ川關前 領十構岸場記 米成ノ一ノ ノシ線南線 線次ニ中ヨ ニテ第九ノ 突敵二一運 擊前攻下勤	擊師團 陣氏西 地家ハ 構趾大 成ノ谷 ス線一 ニ天 第一召 一北 攻側	出高原師 シ地團 攻天ハ 擊氏沼前 備準家記 城上ノ ヲ趾阿線 完了久ヲ スニ東シ 進方笹	ヲ備陣師 準地團 備フヲハ 共ニ構前 ニシノ記 爾敵線 後ノ堅 出ニ固 擊ニ	領東中白聖地師 ス方阿澤二境團 地久ノ内ハ二 區津線六ニ十 ニヲヲ日前十 互經發夕進五 リテシ下準日 陣東石實備夜 地下末積ヲ新 ヲケヨリ整作 占橋リヘ戰	師團攻撃經過ノ概要
ノニ前川 出堅高第 擊固ノ地二 ニ線帶陣ヲ 備陣ニニ地 フ地達進帶 ヲ出ヲ整頓 占ル突頓ニ 領ヤ兩破シ シ此翼引テ 敵處隊荒積一	準擊主砲擊ニ 備正ト及直突 ヲ擊シ歩前擊 完了内テ工其 了ノ敵兵配地 ス開第破屬ヲ シ網陣班兵成 突ヲ地ヲシ拂 擊破帶以迫且 諸壞攻テ擊突迄	領十日次攻進テ九面シ 米拂六陣下ハノ五翼 ノ曉日陣シ線於日隊 線迄日地新ニテ拂ハ ニニ夜ヲ六日在ハ四 突敵前完夕川隊場迄 擊前進成迄岸方一運 陣約ヲスス迄ニ線ニ動 地二起シ第線ニ部ヲ ヲ百七二ニ於中方起	ヲ大中ニ三大ニ此 左隊又大隊ノ月リ左 翼ノ欠獨隊ノ三テ翼 隊一立ノ一中日攻隊 配隊獨砲中隊夕擊ハ 屬二立兵隊及獨準依 一工大隊ヲ工立備然 中隊第一兵隊右兵山ヲ 隊第八一隊十兵行地	備ル高又連其攘線 ヲ線地左繫右ヲ中 續ヲ端翼シ翼發阿 行占ヨ隊隊一シ久ハ ス領リハ原ハ月各三 シ氏上第一當東一 後城久沼一拂ノ面東 攻趾津ノ師曉敵ケ夕 擊ニ東線團迄ヲ橋石 準互方ニトニ擊ノ末	區準堅兩 備固翼 ヲ設ヲニ編ハ占 備ヲ成シ領 完共爾セ スニ後ル 後ノ陣 方攻地 地擊ヲ	攻一此地蔽下末シ中兩實兩 勢線行形シケヨ聖阿翼積翼 ニ近動ノヲ橋リ二久師隊ハ 對ク間偵陣東中十津團一ハ シ跟特察地方久日近澤十 戒隨ニヲヲ區津拂ノ繫ノ六 心セ豫ナ占區津曉敵シヲ薄 スシ備ス領ニヲ曉迄ヲ石ヲ暮 メ隊ヲ敵リテニ驅末發シ下 敵ヲ第情陰東石逐及シ下	兩翼隊ノ行動
ク師此援次兩破行砲 準團攻助陣翼妨七兵 備ノ擊地隊射害ヲ隊 ス戰間ヲ攻擊スルハ兩 況特ニ推擊ヲルヤ翼 應シニ進進續敵ヤ隊 得三此シ此ニ壓突ノ ル軍攻攻伴シ倒擊突 如右擊ヒ逐ヲ且隊決	撐ス敵主努敵步師 點レ砲トメ指兵團 ノハ兵シ又揮攻野隊 破特ノラ野系擊砲ハ 壞ニ破敵戰統直正及 任要ニ抵砲關障內擊 スルム中ヲ攪ノ於ヲ 敵尙樞以亂破ケ以 支要及テニ壞ル	地欠重新換ヲ我砲 ヲ一砲ニ計制攻兵 占ハ兵配畫壓擊隊 領上第屬ヲ且業要 久聯ヲナ爾防レハ 津隊ケタルノ害ス 附一ケル陣ノ此 近一大野地期 ニ陣戰變敵間	害スリ砲 スレテ兵 ルハ射隊 敵ヲ翼準 射隊ハ從 擊ヲノ來 ス行續陣 動行地 ヲシニ 妨要ア	區津地向進ス以砲 ニヨ區原出テ兵 陣リニヨステ左隊 地氏主リル兩翼要 占家力中ヤ翼隊ノ ヲ趾以久一所攻レ 終ニテ津部望擊ハ ル互中ニヲノヲ主 地久ルテニ助ヲ	ニ關ニ就川中如砲 綿シ控キ右阿ク兵 密ヲ置其岸野隊 ナル軍其力澤東砲 協直陣ヲ附方ノ出 定屬地實近高一ニ ヲ砲ノ積ノ地部應 ナ兵細寺陣及ヲシ スト部南地鬼以得 特ニ側ニ怒テ	地他ニヤテ兩及隊砲 區ノ進一兩翼白ヲ兵 ニ砲メ部翼隊澤以隊 展兵敵ヲ隊ノ附テハ 開ハノ實ノ攻反野 ヲ實出積擊ヲ陣東兵 備寺ニ北奏援地北第 ス南備方效助ニ方十 北フ方スシ就地三 側其區ル次キ區聯	砲兵隊ノ行動
ヲニ豫 前進ヒ左 翼隊ハ兩 後方地 區	西豫 備隊ハ一 月八日 夜采女	リ豫 備隊ハ從 來ノ位 置ニア	以附シ豫近百天野 テ近工備ニ米沼戰 架鬼兵隊陣高上照 橋怒ハハ地地端明 ス此舊ヲヲ及隊ハ 川期位占領及津一月 用間置領ス家東月三 材阿在ニス城方日 久リリ城址約七 ヲ津但附夜	蔭起豫 蔽シ西隊ハ三 位ノ内三十 置ス附近ニ 日夜運 進シ	橋寺工蔭シ豫方ヨ野 ノ附兵蔽兩備高リ戰 準近ハ交翼隊地上和照 備ニ上通隊ハニ和明 ニ於阿設後舊陣田及中 著ケ久備ヲ主置ニ占阿七 手ルケ備ヲ路要置在領日 ス鬼及下路在在領日 川怒下積上但積積積積 積積積積積積積積積積	夕ス附其伴豫 下師近ノ兵下實 實團ノ兵實ハ 積司徒ハ積積積 寺令部場實積積積 ニ部ハノ積積積積 移ハノ積積積積積 ル二設寺前積積積 十六備鐵道積積積 日任橋	其他ノ部隊ノ行動



九日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十一日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十二日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十三日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十四日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十五日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十六日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十七日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十八日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	十九日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十一日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十二日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十三日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十四日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十五日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十六日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十七日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十八日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	二十九日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	三十日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去	三十一日拂曉 敵機襲撃 我機迎撃 敵機退去
------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------

右終テ左ノ情況ヲ示ス

### 第四十七情況

作戰十二月二十六日以後

- 一、第四軍ハ十二月二十六日拂曉迄ニ豫定ノ如ク集中及轉移ヲ終リ次テ一月二日夕迄ニ攻撃ノ諸準備ヲ完了シ引續キ全正面ニ於テ攻撃作業ヲ以テ敵ニ近迫シツツアリ
- 第三軍亦一月二十九日夕羽黒山一帯ノ敵陣地ヲ攻略シ引續キ攻撃作業ヲ開始セリ
- 二、第十三師團ハ一月二日以來屢々敵ノ小出撃及砲撃等諸種ノ妨害ニ堪ヘ逐次攻撃陣地ヲ進メ其ノ右翼隊ヲ以テ四斗蒔、氏家新田附近ノ敵ニ又左翼隊ヲ以テ氏家町附近ノ敵ニ對シ一月六日夕近ク突撃陣地ヲ占領シ爾後引續キ陣地ノ設備中ナリ
- 三、第十三師團左翼隊長ハ一月六日夕迄ニ左ノコトヲ知ル
  - 1. 左翼隊當面ノ敵情別紙要圖ノ如シ
  - 2. 第三軍右翼師團ハ左翼隊ニ連繫シ大中以西ノ敵ニ對シ近ク突撃陣地ヲ占領シ目下陣地ヲ設備中

### 第四十五問題

一月六日夕ニ於ケル第十三師團左翼隊ノ部署

演習第十二日(十二月十七日)

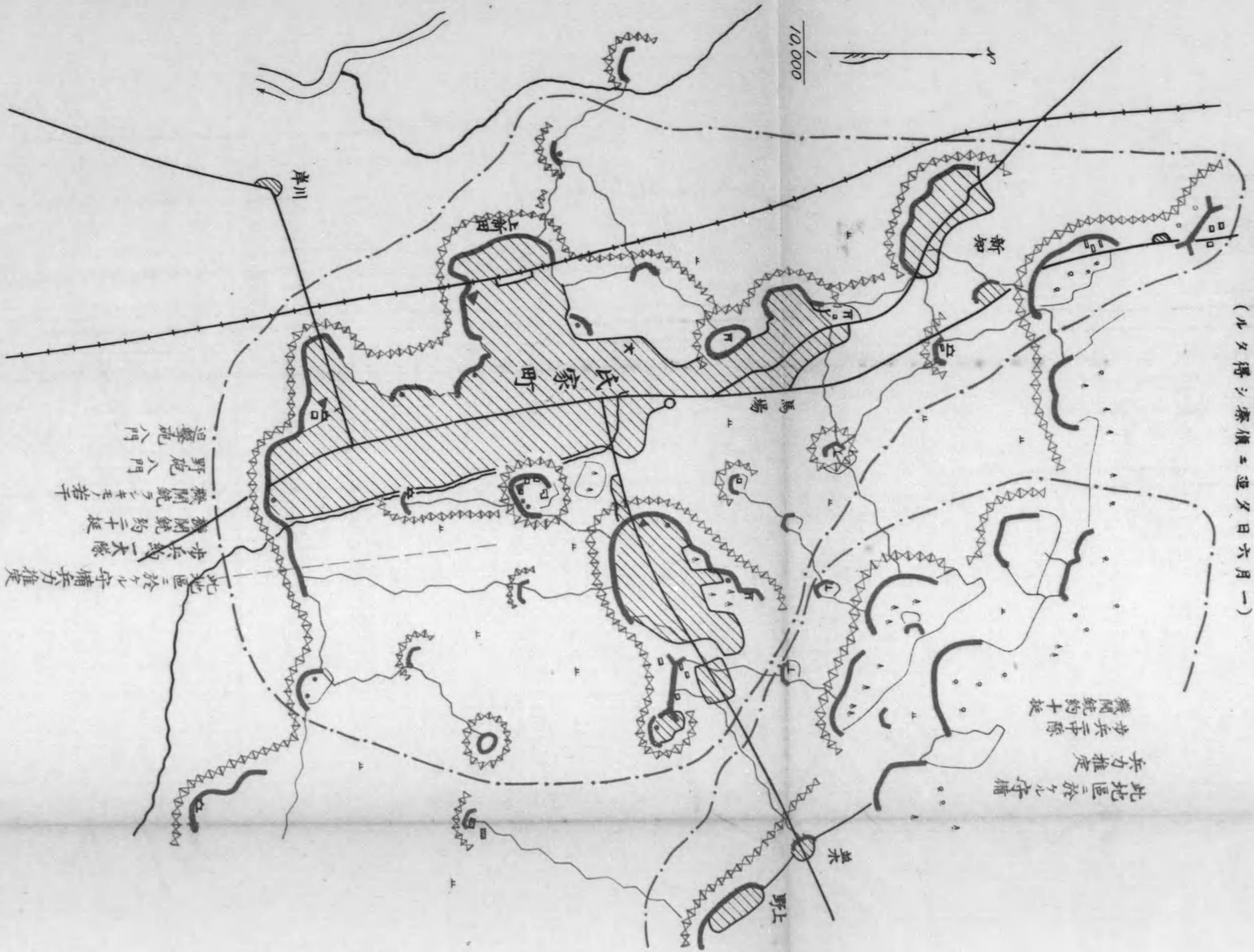








圖要備設地陣敵ルケ於ニ面正隊翼左  
(ルタ得シ案備ニ逆タ日六月一)



此地區ニ於ケル守備  
兵力推定  
歩兵中隊  
機關銃約十挺

此地區ニ於ケル守備兵力推定  
歩兵第一大隊  
機關銃約二十挺  
野砲八門  
退撃砲八門

10,000



#### 第四十五問題研究

本問題ハ單ニ攻撃初期ニ於ケル軍隊區分以外ニ攻撃間逐次増加セラレタル部隊ヲ此ノ時期ニ於テ如何ニ第一線隊長ニ配屬スルヲ適當トスルヤヲ研究スルニ在リ凡ソ此ノ種攻撃ニ於テ突撃後ハ所謂紛戦ヲ惹起シ爾後ハ各局地毎ニ各兵種ノ最モ密接ナル協同動作ヲ絶對必要トスルヲ以テ第一線部隊（成シ得レハ歩兵大隊少クモ聯隊）長ニハ必要ナル特科部隊即チ歩兵砲、砲兵、工兵ノ若干ヲ直接使用セシムルコト必要ニシテ之カ爲ニハ突撃準備ノ時機ヨリ之ヲ配屬スルヲ要ス

諸官中工兵ヲ配屬セシ者アルモ歩兵砲、砲兵ヲ配屬スルノ著意足ラサルモノ多シ適當ト認メ難シ

#### 第四十五問題原案

右 區 隊

長 歩兵第五十一聯隊長 大 佐 某

歩兵第五十一聯隊（第三大隊欠）

獨立山砲兵大隊（二中隊欠）

獨立工兵第八大隊第二中隊（一小隊欠）

演習第十二日（十二月十七日）



左 區 隊

長 歩兵第五十二聯隊第三大隊長 少 佐 某

歩兵第五十二聯隊第三大隊

獨立山砲兵第三中隊

獨立工兵第八大隊第三中隊(二小隊欠)

豫 備 隊

歩兵第五十一聯隊第三大隊

騎兵二分隊

獨立工兵第八大隊本部及一小隊

兩區隊ノ境界

上阿久津東端—川岸東方約二百米ノ鐵道路切—氏家小學校—新知北方約一吉<sup>168,8</sup>—箱森新田東端—  
谷口西端ノ線

右終リテ下新田ニ至リ晝食午後一時ヨリ現地ニ到リ指導ス

第四十六問題

左翼隊突擊陣地ノ編成及突擊直前ノ姿勢

第四十六問題研究

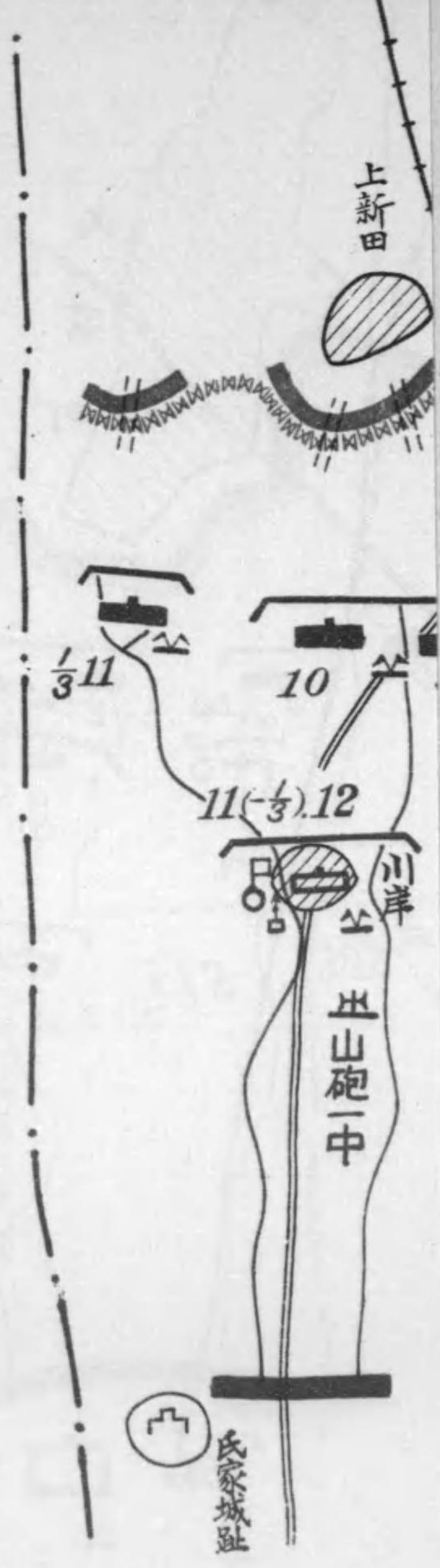
本情況ノ如キ開濶地ニ於テハ突擊ハ依然疎開セル隊形ヲ以テ即チ縱長配備ノ儘行フヲ可トス從テ突擊準備ノ姿勢及之ニ伴フ突擊陣地ノ編成亦疎開隊形ヲ適當トス故ニ突擊陣地其ノモノモ相當ノ距離ヲ存スル數線ニ設ケ又其ノ敵線トノ距離ハ突擊路ノ開設ニ關スル諸準備竝ニ敵ノ最前線ニ對スル我砲彈ノ危害等ヲ顧慮シ概ネ二百五十米ヲ適當トス  
後方部隊ハ各攻撃陣地及交通壕内ニ位置ス  
前問題ニテ述ヘタル如ク特科兵種ノ一部ヲ各部隊ニ分屬シ砲兵及歩兵砲ハ第一線ノ所在附近ニ進ミテ適當ノ地ニ陣地ヲ占ム  
以上ニ基キ左翼隊ノ姿勢ヲ圖示セハ次圖ノ如シ



勢要圖

第四十八情況

備考一、突撃陣地ハ約三十米ヲ隔テテ重疊スル三線ヨリ成リ其最前線散兵壕ハ  
 敵前約二百五十米トス  
 二、由ハ歩兵砲ノ集結ヲ示ス

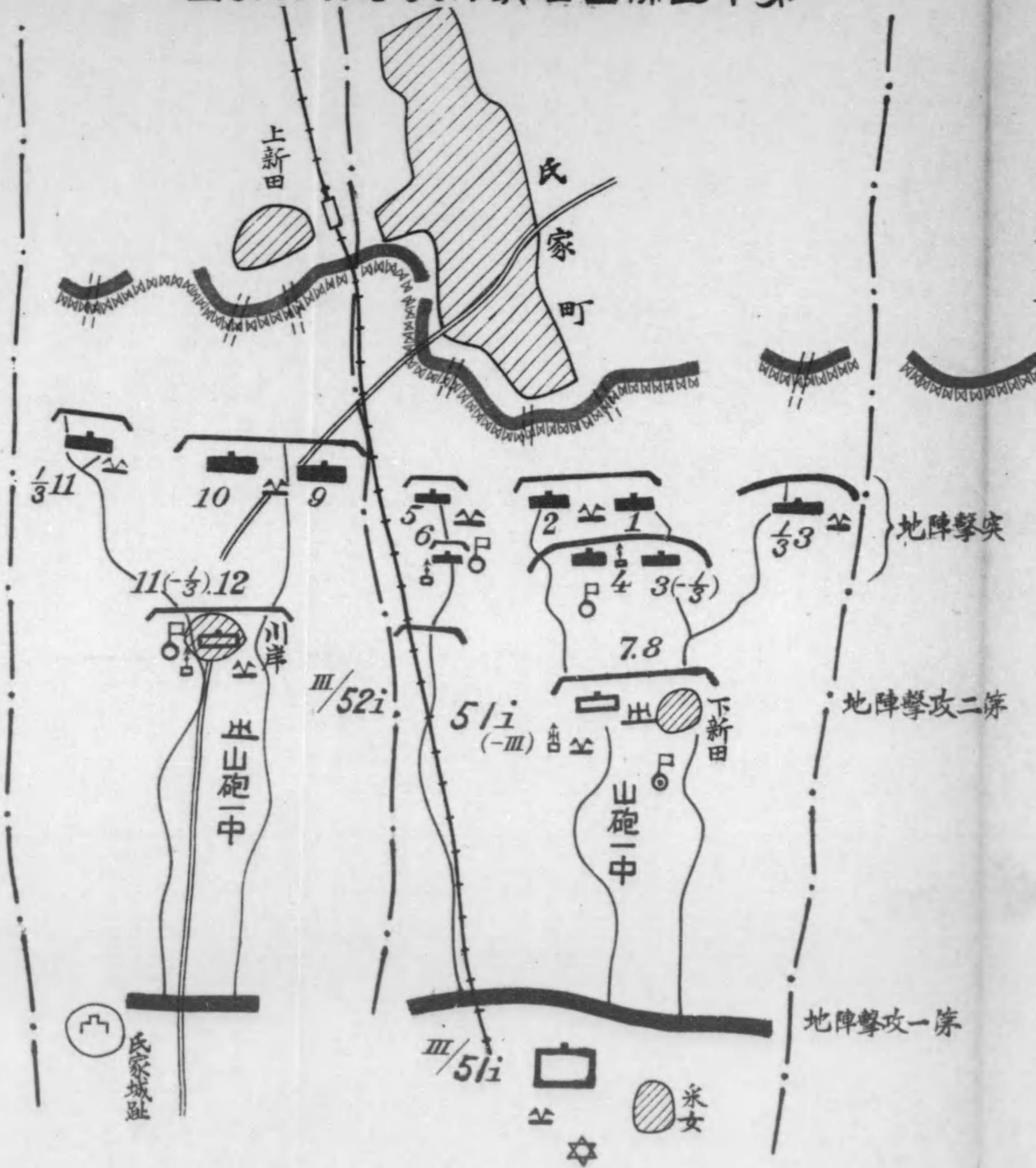


第四十八情況  
 第一分隊  
 第二分隊  
 第三分隊



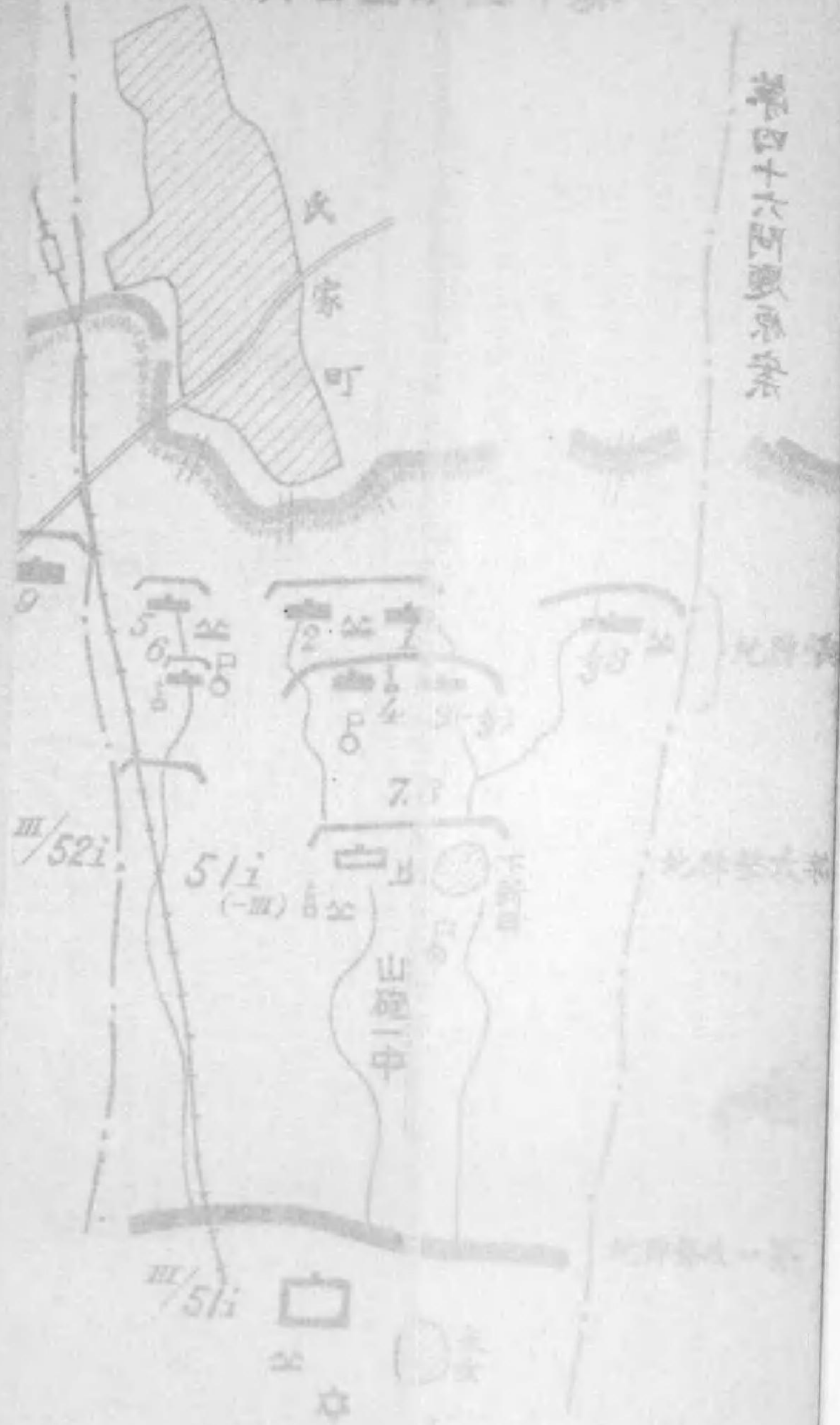
圖要勢姿擊突隊翼左團師三十第

第四十六問題原案



備考一、突撃陣地ハ約三十米ヲ隔テテ重疊スル三線ヨリ成リ其最前線敵兵壕ハ  
敵前約二百五十米トス  
二、出ハ歩兵砲ノ集結ヲ示ス





### 第四十八情況

作戰一月九日

一月九日天明ト共ニ我第三、第四軍ハ其ノ全砲兵ヲ以テ一齊ニ射撃ヲ開始ス敵亦應射ス敵ノ中口径砲ハ喜連川西南高地及乙畑附近ヨリ射撃シ一時我砲兵ノ若干ヲ腦シタルモ遂ニ我大中口径砲ノ爲壓倒セラレテ沈黙ス

敵第一、第二陣地帯内ヨリ應射セシ野山砲及榴彈砲モ亦其ノ火力漸次衰へ午前八時三十分頃ニハ殆ト沈黙スルニ至レリ

此頃迄ニ敵第一、第二陣地帯内抵抗中樞及歩兵直接障礙ニ對スル我射撃ハ相當ノ效果アリタルカ如ク又我突撃陣地前ノ敵最前線ニ對スル突撃路略々完成シ且目撃シ得タル最前線附近ノ機關銃モ殆ト破壊シ得タリ斯クシテ我各種砲兵ハ更ニ一層猛烈ナル砲火ヲ斷續的ニ敵陣地ニ注キ午前九時全線突撃ニ移リ概シテ容易ニ敵ノ最前線ヲ奪取セリ

第十三師團ノ右翼隊ハ氏家新田及其ノ西側ノ陣地ヲ奪取シタルモ其ノ北側ノ集團工事ニ衝突シ攻撃中ナリ左翼隊ハ氏家南端及上新田南端ノ最前線ヲ奪取シタルモ其ノ右區隊ノ最右翼タル歩兵第五十一聯隊第三中隊ノ一小隊ハ正面及右側面ヨリスル機關銃ノ爲一步前進シ得ス之ニ連ル第一中隊亦占領陣地(氏

演習第十二日(十二月十七日)



家町南端ノ東側) ヨリ出ツルヤ氏家ト櫻野トノ中間ニ在ル小支撐點ヨリ盛ナル機關銃火ヲ蒙リ且突然右方上野方面ヨリ數門ノ輕砲及重機關銃ノ側射ヲ受ケ多大ノ損害ヲ蒙リ再ヒ占領陣地ニ退避スルノ已ムナキニ至レリ

問題 第一中隊長ノ決心及處置

原案 中隊ハ交通壕ヨリ塹壕戰ヲ行ヒツツ櫻野ニ向ヒ前進セントス

第二中隊ノ一小隊及工兵一分隊ハ突撃隊トシテ既ニ氏家南端ノ陣地ヲ奪取シ續テ氏家町ニ進入シツツアリ當時中隊長ハ二小隊ヲ以テ尙突撃陣地ニ在リテ右方面既述ノ戰況ヲ知ル尙第五中隊ノ突撃隊モ第二中隊ノ突撃隊ト同時ニ敵最前線ヲ奪取シ氏家町内ニ進入シツツアルヲ知ル

問題 第二中隊長ハ如何ニセントスルヤ

原案 第一中隊ニ協力スル目的ヲ以テ歩工兵ヨリ成ル破壊班ヲ氏家ト櫻野トノ中間小支撐點爆破ノ爲前進セシメ中隊ノ殘餘ハ之ニ續行ス

第五中隊亦馬場西側ノ敵ニ對シ同一企圖ヲ以テ町内ニ進入ス

第一大隊長ハ第三中隊(一小隊欠)第四中隊、機關銃中隊及聯隊長ヨリ分屬セラレタル曲射歩兵砲二門、平射歩兵砲一門ヲ有シ突撃陣地内ニ在リテ以上ノ諸情況ヲ知ル當時敵ノ砲彈再ヒ雨下ス

問題 第一大隊長ノ處置

原案 歩兵砲ヲ第二中隊方面ニ出シ第一線ノ前進ヲ妨害スル氏家町東方地區ニ在ル敵機關銃ヲ破壊

セシメ尙機關銃モ同方面ニ進出セシメ櫻野南側附近ノ敵ヲ制壓セシム

問題 下新田ノ山砲兵大隊長ハ歩兵トノ連絡ノ爲如何ナル處置ヲ執リアリシヤ

原案 一、大隊長ハ歩兵第五十一聯隊長ノ許ニ在リ

二、電話通信及手旗ヲ有スル連絡斥候ヲ突撃陣地ニ差遣シアリ今ヤ我歩兵氏家南端ノ敵陣地ヲ奪取セントスルヤ該斥候ハ直ニ之ニ追隨シ歩兵ノ前進ヲ妨クヘキ敵ノ所在ヲ確メ以テ大隊長ニ報告シ且射撃ヲ觀測ス

斯ノ如クシテ第十三師團左翼隊ノ右區隊ハ歩砲工各兵ノ協同ト奮闘ト各部隊ノ適切ナル獨斷トニ依リ櫻野南端ノ敵ヲ壓倒シ各所ニ散在スル敵機關銃ヲ撲滅シツツアリ師團砲兵ノ一部亦之ニ參加シ且上野附近ノ側防砲兵ノ制壓ニ努メツツアリ

午前十時頃左翼隊ノ右區隊ハ再ヒ前進ヲ始ム右翼隊亦此頃前進ヲ起シ氏家新田北方ノ集團工事ヲ奪取シ更ニ上野、並木ノ線ニ向ヒ前進ヲ企テタルモ土地開濶ノ爲敵機關銃及砲兵ノ側射ヲ受ケ前進意ノ如クナラス左翼隊ノ右翼亦停止スル已ノムナキニ至レリ

午前十時三十分頃第二中隊ハ櫻野南端ノ敵陣地ヲ奪取ス同時頃第五中隊氏家町役場附近ニ達スルヤ前面ノ機關銃巢ヨリ猛火ヲ受ケ前進スルヲ得ス之ニ對シ射撃中ナリ此ノ時第一大隊長ハ其ノ手裡ニ有スル第



三中隊(一小隊欠)及第四中隊ヲ率キ氏家南端敵陣地ノ跡ニ、又聯隊長ハ第七、第八中隊及曲射歩兵砲二門平射歩兵砲一門ヲ以テ突撃陣地ニ前進ス

問題 第十三師團左翼隊右區隊長トシテ爾後第一陣地帯ノ敵ヲ掃蕩スル爲如何ニ戰鬥ヲ指導セントスルヤ

原案 目下手裡ニ在ル歩兵砲ヲ第二大隊長ニ與ヘ馬場方面ヨリ敵ヲ攻撃セシメ主力ヲ以テ櫻野方面ヨリ同地及其ノ北側ノ敵ヲ掃蕩ス

斯ノ如ク紛戰亂闘ノ後概シテ正午頃第十三師團ハ敵第一陣地帯ヲ突破スルヲ得タリ

### 第四十七問題

第十三師團參謀長トシテ第一陣地攻略後ノ隊伍整頓(師團攻撃計畫別紙末項參照)ニ關シ如何ナル腹案ヲ有セシヤ

(要圖答解 午後十時統裁官宿舍ニ提出)

右問題ヲ與ヘ午後三時五十三分氏家發列車ニテ宇都宮ニ歸ル

### 演習第十三日 (十二月十八日) 晴

午前九時宇都宮市役所講堂ニ集合第四十七問題ノ研究ヲナス

### 第四十七問題研究

一、諸官ノ案ノ大ナル缺點ト認ムヘキ點ヲ述フレハ左ノ如シ

- a. 第一線主力ノ隊伍整頓ヲ直ニ上野、並木ノ北側森林帯ノ北縁ニテ爲サントスルモノアリ斯ノ如キハ我砲兵ノ援助ヲ受ケス又混亂セル隊勢ニテ敵ノ最モ能ク準備セル陣地直前ニ現出セントスルモノニシテ極メテ危険ナリ
- b. 前項林縁ヨリ更ニ攻撃作業ニ依リテ第二陣地帯ノ攻撃ニ移ラントスル案アルモ軍ノ方針ニ副ハス
- c. 砲兵ノ全部ヲ氏家町ヲ通過セシメ或ハ氏家町北側ニ集メテ陣地ヲ占領セシメタルモノアリ又師團豫備隊ヲ同町ノ中央ニ位置セシメタルモノアリモ此等ノ諸官ハ身ヲ敵ノ地位ニ置キテ考ヘサルモノト謂ハサルヘカラス敵ニハ既ニ十分ノ準備アリ又相當長射程ヲ有スル中口徑砲モアリ故ニ交通路ノ集中シアル氏家ノ部落ハ恐ラク敵ノ彈巢トナルヘク從テ此ノ附近ニ軍隊ヲ集結シ或ハ砲兵



ノ陣地ヲ選定セサルハ勿論已ムヲ得サルモノノ外同町ヲ通過セシメサルノ著意ヲ緊要トス  
 d. 砲兵ノ大部ヲ前記森林ノ北縁附近ニ進メタルモノアリ觀察ノ點ヨリ云ハ最モ希望スル所ナル  
 モ之ニハ多クノ工事ヲ要スルヲ以テ明朝ニナラサレハ實施不可能ナルヘシ故ニ此際ハ此ノ目的ノ  
 爲ニハ山砲ノ全部及野砲ノ一部ニ止メ其ノ他ハ後方ニテ主トシテ遠隔觀測並氣球及飛行機ニ依ル  
 指導ニテ射擊スルノ外策ナカルヘシ

二、次ニ主ナル著眼ト共ニ予ノ考案ヲ述フレハ左ノ如シ

a. 彼我ノ態勢比較

師團ノ第一線ハ今ヤ氏家附近ノ錯雜セル敵ノ第一陣地帯ヲ攻略シ隊伍混亂シアルヲ以テ此機ニ乘  
 シ敵ノ出撃ナキヲ保セス又我野砲及十五榴ハ射程ノ關係上現陣地ニテハ敵ノ第二陣地ニ對シ有效  
 ノ射擊ヲナシ得サルノミナラス觀測ノ點ヨリ云フモ極メテ不利ノ位置ニ在リテ並木附近森林帯ノ  
 北縁ニ出ツルニアラサレハ全然地上觀測所ヲ有セス加之我砲兵ノ爲最迅速ナル陣地變換ヲナスニ  
 適スル良道ハ悉ク氏家町ヲ通スルヲ以テ此ノ部分ハ敵ノ彈巢トナリ易ク隨テ陣地變換ニハ至大ノ  
 困難ヲ伴フ即チ師團ハ氏家北側地區ニ於テスラ既ニ危險ノ狀ニ在ルノミナラス更ニ敵第二陣地帯  
 攻撃ノ爲輕舉ニ森林帯ノ北縁ニ現出センカ彼我ノ懸隔ハ更ニ著シク即砲兵ノ援助ナキ我歩兵ハ十  
 分ニ準備シアル敵防禦地帯ヨリノ歩砲火ヲ蒙ムリ危地ニ陥ルコト明ナリ

b. 右ノ危險ヲ防遏シツツ行フ隊伍整頓

第一陣地攻略直後ニ於テ我ノ最モ注意セサルヘカラサルハ出撃ニ對スル用意ナリトス此際ノ敵ノ  
 出撃方面ハ一般ノ關係上左翼即チ箱森新田方面ヨリ來ルノ公算大ナリ故ニ我第一線ハ敵第一陣地  
 帯攻略後成ルヘク速ニ停止シテ隊伍ヲ整ヘ又豫備隊ヲ速ニ氏家町北方地區ニ進メ尙一部ノ砲兵ヲ  
 速ニ氏家北側ニ出ス等迅速ナル隊伍ノ整理ヲ爲スコト必要ナリ

c. 敵第二陣地ニ對スル攻撃準備

過早ニ兵力ヲ森林帯ノ北縁ニ出スコトナク之ヲ適宜森林内ニ止メ隊伍ヲ整頓シ(之カ爲ニハ森林中央  
 スル道路ヲ基準ト  
 スルヲ可トセン)且一部ヲ以テ林縁ヲ占領シテ偵察其ノ他第二陣地ニ對スル攻撃ノ諸準備ヲナスコ  
 ト必要ナリ而シテ砲兵ハ利用シ得ヘキ諸道路ヲ經テ速ニ氏家新田、氏家町ノ線ノ北方ニ陣地ヲ移  
 シ特ニ山砲全部及野砲ノ一部ハ森林内ニ入ラシメ私カニ其ノ北縁附近ニ陣地ヲ占メテ爾後直接歩  
 兵ノ攻撃ヲ援助スルノ準備ヲナス  
 略ス以上ノ姿勢成ルヤ直ニ第二陣地ニ對スル攻撃ヲ開始ス

第四十九情況

作戰一月九日(續キ)



第十三師團ハ敵ノ第一陣地帯攻略後動作慎重ヲ缺キ敵ノ第二陣地ニ衝突シテ大損害ヲ受ケ加フルニ乙畑方面ヨリスル敵ノ稍大規模ノ出撃ニ遭遇シ第三軍右翼師團ト共ニ後退シ一時氏家町北端附近ニ止マリシカタ刻更ニ鬼怒川右岸ニ退キシ第三軍右翼ニ連繫シテ氏家城趾ヨリ四斗蒔ニ互ル線ニ退キ辛ウシテ敵ヲ拒止ス

此ノ日第四軍司令官ハ臺八ツ木ニ在リ夕刻迄ニ第十三師團方面ノ前述ノ情況ヲ知ルト共ニ其ノ他ノ師團ノ情況ニ就キ左ノコトヲ知ル

第六師團 正午過敵ノ第一陣地帯ヲ攻略シ爾後豫定ノ通り第二陣地帯ノ攻撃中ナルモ未タ大ナル進捗ヲ見ス

第四師團 正午過第一陣地帯ヲ攻略シ引續キ第二陣地ノ攻撃ヲ始メ幸ニシテ容易ニ鹽谷附近ヲ占領シ且多大ノ犠牲ヲ拂ヒテ夕刻前漸ク既久保南北ノ陣地及八方口直北ノ工事ヲ奪取シタルモ爾後猛烈ナル敵ノ逆襲ヲ受ケ目下辛ウシテ占領陣地ヲ保持シアルニ過キス

第一百師團 右翼ハ第四師團ニ連繫シテ前進シタルモ左翼ハ第十三師團ノ後退ニ伴ヒテ後退シ夕刻其ノ第一線ハ概シテ狹間田、柿木澤、四斗蒔ノ線ヲ保持シアリ

第八師團 軍豫備トシテ上柏崎、上太田ノ間ニ在リ

第二師團 軍豫備トシテ寶積寺東側地區ニ在リ

### 第四十八問題

右ノ情況ニ於テ軍司令官トシテ如何ニスヘキヤ

### 第四十八問題研究

諸官ノ案ハ次ノ如シ

1. 第二師團ヲ第十三師團方面ニ増加シテ戰況ヲ挽回セントスルモノ
  2. 第二師團ヲ第一、第十三師團方面ニ増加シテ危急ヲ救ヒ且第八師團ヲ第四師團方面ニ増加シ戰果ヲ擴張セントスルモノ
  3. 第八師團ヲ第四、第一百師團接合部ニ注入シテ戰果ヲ擴張セントスルモノ
- 第一案ハ戰況ヲ悲觀スル消極的彌縫ノ處置ニシテ全然受働ニ陥リ極メテ不利ナリ第二案ハ一方ニ於テ積極的行動ヲ採リ他方ニ於テ消極的行動ヲ採ラントスルモノニシテ指揮官ノ決心堅確ナラス第三案ハ既ニ第二陣地帯ニ穿チタル一破口ヨリ戰果ヲ擴張セントスル積極案ニシテ全然同意スル所ナリ抑々軍豫備ノ用法ハ既ニ述ヘタルカ如ク戰果擴張ヲ主トス今ヤ第四、第一百師團ノ接合部ニ於テ戰勝ノ曙光ヲ認ム此際斷乎トシテ從來滿ヲ持シテ放タサリシ第八師團ヲ戰線ニ投シ以テ戰果ヲ擴張スル絶好ノ機會ナリ若シ



夫レ左翼第十三團方面ニ至リテハ情況稍々不利ナルモノアルカ如シト雖寶積寺ヨリ氏家城趾ニ互ル一帯ノ天然陣地ノ存スルアリ且又第八師團方面ヨリスル我強壓ハ自ラ我左翼ノ危險ヲ救フヲ得ヘク今之ニ對シ悲觀スルヲ要セス又第二師團ハ將來大ニ用途アリ過早ニ用フハカラス將帥ノ性格ハ蓋シ斯カル場合ニ發露ス徒ラニ各方面ノ是ナランコトヲ望メハ偶々以テ到ル處ノ成果ヲ減少ス凡ソ戰況ノ浮沈ハ戰場ノ常態ナリ高級指揮官タルモノハ須ラク能ク大局ヲ達觀シ苟クモ乘スヘキアラハ敢然進テ積極的戰勢ノニ開拓ニ努メサルヘカラス

爾後關東軍北部兵團ノ作戰ハ高等統帥ノ手腕ニ俟ツモノ多ク其ノ作戰亦益々佳境ニ入ラントスルモ時日ノ關係上之ヲ研究シ得サルヲ遺憾トス

之ヲ以テ本參謀演習旅行ノ研究ヲ終ラントス

## 附 錄

## 氏家陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定

(補助官渡邊砲兵大尉口演)

陣地攻撃ノ計畫ニ方リテハ之カ攻撃ノ爲ニ要スル兵力資材ノ算定ヲ必要トス之カ爲メ願慮スヘキ要件多々アリトモ戰場附近ノ地形、我企圖スル攻撃法、主攻擊正面、敵陣地ノ強度、敵ノ兵力、豫想スル敵ノ抵抗力等其ノ主ナルモノナリ然リ而シテ之カ的確ナル決定ハ實ニ至難ナリ蓋シ敵ノ兵力、抵抗力及陣地ノ強度等ハ到底的確ニ知ルヲ得サレハナリ單ニ數ヨリ云ハハ多々益々可ナルハ當然ナルモ是到底期待シ得ス殊ニ國軍ノ現況ニ於テ益々然リトス故ニ吾人ハ國軍ノ編制ニ鑑ミ許シ得ル最小限ヲ以テ満足セサルヘカラス以下歐洲戰ノ貴重ナル經驗ヲ參酌シ本情況ニ於テ如何ニ決定スルヲ可トスルヤヲ研究セントス

## (1) 師團數ニ就キ

## イ、主攻擊正面

既ニ研究セラレタル如ク本情況ニ於テハ其ノ主攻擊正面ヲ概シテ荒川右岸高地脈ヨリ東北本線ニ互ル地區ニ指向スルヲ適當トス

## ロ、師團ノ攻撃正面ノ幅員

歐洲戰ノ經驗ニ依レハ數線陣地ニ於ケル師團ノ正面ハ縱長區分ヲ大ナラシムル爲相當ニ之ヲ狹氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定



小ナラシムルコト必要ナリト雖之ヲ過度ニ狹小ナラシムルトキハ指揮ヲ困難ナラシムルコトアルヲ以テ避クルヲ要スルカ如ク之ヲ獨佛兩軍ニ見ルニ

獨軍 二千米以下ト爲スハ例外トシ單ニ第一陣地ノミヲ奪取スルカ如キハ三千米以上ヲ擔任セシム

佛軍 概ネ千五百乃至二千五百ト爲スヲ標準トス主攻撃正面以外ニ於テ尙其ノ正面ヲ擴張ス即チ歐洲戰ニ於ケル經驗ハ吾人ニ主攻撃正面ニ於ケル師團ノ負擔正面ハ大約二乃至三吉ナルヲ教フ但シ獨佛兩軍共ニ步兵三聯隊編成ナルヲ顧慮スルヲ要ス

又第二線師團トシテハ略之ニ近キ兵力ヲ要スト

ハ、敵ノ兵力、敵陣地ノ強度及豫想抵抗力

コハ固ヨリ的確ナラスト雖想定及情況ニ依リ知り得ル限リニ於テハ既ニ敵ハ其ノ陣地構築ニ數箇月ヲ費シ相當堅固ナルカ如ク且概シテ三陣地帯ヲ呈シ其ノ兵力乙國二師團丙國四師團ニシテ從來ノ戰績、國際關係及地形一般ノ關係上極力該陣地ニ於テ抵抗スヘシ然レトモ茲ニ注意スヘキハ敵ハ敗退シ而モ素質裝備共ニ異ナル乙丙聯合軍ナルコト是ナリ

ニ、敵陣地正面及重點

敵陣地ノ正面ハ約二十五吉ヲ算スルモ地形一般ノ觀察上荒川右岸高地脈以東ノ地區竝羽黒山附

近ハ所謂山地ニシテ大兵ノ運用不便ナリ勢ヒ敵ノ主力ハ喜連川方面ニ使用セラルヘシ  
ホ、企圖スル攻撃法

軍ノ攻撃法ハ逐次正攻法ニ準シ敵ニ近迫シ次テ一舉ニ第一第二陣地帯ノ攻略ヲ企圖スルコトハ既ニ研究セシカ如シ

ヘ、友軍ノ情況

東京及横須賀方面ノ現況ニ鑑ミ過度ニ同方面ヨリ兵力ヲ抽出スルハ危険ナリ

以上諸種ノ條件ニ鑑ミ攻撃軍ハ主攻撃正面ニ六師團(第一線ニ四師團)其ノ他ノ正面ニ三師團(第一線ニ二師團)外ニ總豫備一師團合計十師團ヲ以テ最小限度トシ又實ニ之ヲ以テ關東軍ノ現況ニ於テ攻略軍ニ使用シ得ヘキ最大限度タルヘシ斯クスルトキハ第一線一師團ノ平均負擔正面ハ四吉強ニシテ其ノ眞ノ主攻撃正面一師團ノ擔任正面約三吉トナリ概シテ任務達成ニ不足ナキカ如シ

(2) 砲數ニ就キ

攻撃ノ爲幾何ノ砲數ヲ要スルヤヲ精確ニ算定スルコト亦至難ニシテ各種口徑砲ノ比例ヲ定ムルコト亦然リ然レトモ一般ニ攻撃ニ必要ナル砲數ノ算出ニ方リテハ火砲ノ需要最大ナル時ニ於ケル砲數ヲ基礎トスルヲ要ス之ヲ本情況ニ見ルニ軍ノ攻撃ハ突撃ニ方リ砲火ノ威力ト相俟チテ一舉ニ第一、第二陣地帯ヲ奪取スルニ在ルヲ以テ同時ニ第一、第二陣地ノ凡ユル目標ヲ射撃シ且此ノ攻撃ヲ妨害ス

氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資料ノ算定



ル第三陣地帯ノ敵ヲモ射撃スルヲ要ス以上ノ見地ヨリ突撃ノ前後ヲ以テ基礎トスルヲ可トス而シテ又之カ基礎條件ハ敵ノ砲數、敵陣地帯數殊ニ敵ノ抵抗中樞及我企圖スル突撃路開設數等ナルモ其ノ詳細ハ彈數決定ノ部ニ於テ述フルコトトス

イ、歐洲戰ニ於ケル攻防砲數

歐洲戰ニ於ケル攻撃砲數ハ「歐洲戰ノ經驗ニ基ク戰術ノ趨勢」ニ依リ既ニ了知セラルル所ナルヲ以テ其ノ詳細ハ茲ニ之ヲ省略スルモ其ノ佛軍ノ結論ハ概ネ次ノ如シ  
每一吉所要砲數(急襲ヲ主義トセサルトキ)

野山砲	最モ堅固ナル陣地ニ對シ	強度中等ナル敵ニ對シ	稍々堅固ナル陣地ニ對シ
重砲	七二	五六	四〇
迫撃砲	四二	五二	四〇
		三〇	四〇

其ノ如何ニ多數ヲ要スルヤヲ知ルヘシ然レモ茲ニ吾人ノ注意スヘキコトアリ他ナシ即チ斯ノ如キハ佛軍ノ如キ砲兵ノ豊富ナル軍ニ於テ始メテ可能ニシテ之ヲ砲兵數ノ殊ニ少キ軍ニ直ニ採テ以テ範トスルハ大ナル過失ナルコトヲ

竊テ防禦ニ於ケル砲數ヲ歐洲戰ノ經驗ヨリ歸納スルニ獨佛兩軍共概ネ每吉十中隊(四〇門)内外ヲ標準トセルカ如シ之ヲ前記攻者ノ砲數ト對照スルトキハ概シテ攻者ハ防者ノ二乃至三倍ノ砲數ヲ使用セシカ如シ

ロ、敵ノ豫想砲數

敵ノ砲數固ヨリ審ナラスト雖想定及從來ノ會戰ノ結果並敵ノ鐵道輸送等ノ諸情況ヲ綜合スルニ概ネ次ノ如ク推算シ得ヘシ

野砲 (乙國二師團、丙國四師團) 一六八門

野戰重砲 (十五榴) 四八門

右ノ外陣地防禦ノ爲長射程砲若干及地形上山砲若干ヲ有スルモノト覺悟セサルヘカラス今之ヲ敵ノ輸送情況ヨリ觀察シテ

十加 一六門

十五加 八門

山砲 四八門

ト假定セハ結局敵ノ豫想砲數ハ

野山砲 二二六門

氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定



重砲

七二門

計

二八八門

ハ、我カ戦法

既ニ述ヘタル如ク劣勢ナル砲數ヲ有スル軍ニ對シ歐洲戰ニ於ケルカ如キ砲兵用兵ヲ強フルハ甚  
 タ無理ナルコトニシテ吾人ハ吾人ノ許シ得ル範圍内ニ於テ之ニ應スル用法ヲ以テ満足セサルヘ  
 カラス殊ニ本情況ニ於ケル如ク東京及横須賀要塞ノ健在セルトキニ於テ然リトス  
 然レトモ主攻撃正面就中最モ主要ナル方面ニ對シテハ以上歐洲戰ノ貴重ナル經驗ヲ基礎トシ  
 略之ニ近キ砲數ヲ充當セサルヘカラス是レ敵陣地並丙國軍ハ其ノ編成及戦法概シテ歐洲交戦  
 軍ニ近似スレハナリ

以上諸項ヲ彼此參酌シテ攻撃ノ爲ノ砲數ヲ算定スルコト左ノ如シ

野山砲

四六八門

重砲

一九二門

迫撃砲

二〇〇門

(3) 之ヲ豫想敵砲數ト比較スルニ約二、三倍ニ相當シ概テ適當ナルカ如シ  
 彈數ノ決定

地形、築城ノ利用、隊形ノ應用盛ナル近世戰ニ於テハ從來ヨリモ多數ノ彈藥ヲ要スルハ否ムヘカラ  
 サル事實ナリ然レトモ彈丸ヲ以テ敵ノ戰鬪力ヲ根本的ニ破壊シ終ラントスルハ大ナル過失ナルコト  
 ヲ深ク銘心セサルヘカラス由來歐洲戰ノ經驗ト稱シ彈丸ヲ以テ敵陣地ヲ鐵土トナシ形狀全ク一變セ  
 シメ歩兵ハ悠々鼻歌ヲ唱ヘツツ前進スルカ如ク誇張スルモノナキニシモアラスト雖是唯一班ヲ知リ  
 シノミニシテ全班ヲ知ラサルモノノ言ノミ茲ニ於テカ縱合砲兵ノ效果十分ナラスト雖其ノ程度ニ滿  
 足シ歩兵ハ決然進路ヲ開拓シ敵ヲ壓倒殲滅スルノ慨ナカルヘカラス殊ニ砲兵數ノ少ク工業力ノ乏シ  
 キ軍ニ於テ然リトス然リト雖亦一面歐洲戰ノ吾人ニ與ヘタル『陣地戰ニ於テハ準備砲擊ナキ攻撃ハ  
 決シテ成功セス』テフ教訓ハ吾人ノ深ク銘心セサルヘカラサルコトニシテ唯蠻勇ヲ振ヒ肉彈ノミヲ  
 以テ敵陣ニ突入セントスルカ如キハ壯ハ即チ壯ナリト雖近世戰ニ於テハ唯貴キ犠牲ヲ無意ニ拂フニ  
 過キサルノミ

借テ本論ニ入り攻撃ノ爲所要彈數ニ就テ研究セン、所要彈數ノ決定ハ主トシテ我ノ執ラントスル攻  
 撃法、砲兵ノ任務及目標數等ニ依リ決定スルモノトス

イ、歐洲戰ニ於ケル所要彈數

歐洲戰ノ經驗ニ依レハ一般ニ攻勢會戰ノ爲使用スヘキ彈藥數ハ實驗ヨリ得タル一日一門平均所  
 要數ヲ基礎トシ豫想スル會戰ノ大小ニ應シ其ノ數日又ハ十數日分ヲ積算スルモノトセルカ如シ

氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定



而シテ其ノ一日一門ノ平均所要數ハ概ネ次ノ如シ

二五二

野砲彈

二〇〇乃至三〇〇發

十加彈

一五〇乃至二五〇發

十五加彈

一〇〇乃至一五〇發

十五榴彈

一五〇發

又各會戰ノ統計ニ依レハ數線陣地ノ毎米ヲ深長ナル地區ニ互リ突破スル爲ニハ各種口徑彈百二十發ヲ必要トシ其ノ約半數ハ野砲彈ナリト謂フ此ノ統計ノ眞偽ハ別トシ今試ミニ之ヲ本情況ニ適用セハ其ノ總彈數ハ三百萬發トナリ之ヲ前述決定砲數六百六十門ニテ除スレハ約四千五百發トナル而モ斯ノ如ク費澤ナル使用ハ工業力之ヲ許ササルノミナラス本情況ノ兵站ヲ以テシテハ其ノ輸送サヘ不可能ナリ

ロ、砲兵ニ課スヘキ任務

茲ニ於テカ數線陣地ニ對スル攻撃ニ於テ砲兵ニ課スル任務ハ自ラ歐洲戰ノ夫レト異ナルモノナラサルヘカラス即チ歐洲戰ニ於テハ砲兵ニ次ノ任務ヲ課シタルカ如シ

一、敵砲兵及迫撃砲ノ破壊

二、歩兵直接障礙(機關銃、鐵條網等)ノ破壊

三、敵指揮系統機關ノ擾亂

四、後方地區要點ノ射擊

五、敵陣地ノ崩潰

六、移動牆壁射擊

七、掩護牆壁射擊

陣地攻撃ニ於ケル砲兵カ前記諸任務ニ服スルハ固ヨリ必要ニシテ何等異論ナシ然レトモ吾人カ貧弱ナル砲兵ニ如上ノ諸任務ヲ課スルコトハ過望ニシテ實行不可能ナリ須ク前記一乃至四項ノ任務ヲ課シ之ニ向テ最善ノ努力ヲ爲サシメ餘力アル場合ニ於テ五乃至七項ノ任務ヲ唯極メテ緊要ナル時ニ於テノミ課スルヲ適當ナリト信ス以下此ノ見地ニ基キ本情況ニ於ケル所要彈數ヲ計算セントス

ハ、所要彈數

本計算ハ單ニ數ノ計算ニ止マルヲ以テ詳細ニ計算ノ述路ヲ記スルコトハ省略シ單ニ計算ノ基礎條件ノミヲ述フルコトトシ所要彈數ノ結果ヲ示サントス

(イ) 各種目標破壊ニ要スル彈丸數

歐洲戰ノ實驗ヲ參酌シ從來ノ我實驗ヲ加味シテ得タル數ニシテ事秘密ニ屬シ茲ニ公表シ得

氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定

二五三



サルヲ遺憾ス

(ロ) 敵ノ砲兵及迫撃砲破壊ノ爲ノ彈數

敵ノ豫想砲種及砲數ハ既述ノ如クニシテ之カ破壊ニハ

敵ノ野山砲ニ對シ 主トシテ野山砲及十五榴ヲ以テ

十五榴ニ對シ 主トシテ十五榴及二十四榴ヲ以テ

十加ニ對シ 十五榴、二十四榴及十五加ヲ以テ

十五加ニ對シ 二十四榴及十五加ヲ以テ

スルコトトシイノ彈數ヲ乘シ算出ス

(ハ) 歩兵直接障礙破壊ノ爲ノ彈數

歩兵直接障礙ハ主トシテ鐵條網及機關銃ナリ

鐵條網破壊ノ爲ニハ我希望スル破壊ノ幅員及深サヲ決定スルヲ要ス今之ヲ次ノ如ク決定ス

一師團ノ攻撃正面第一線ニ歩兵四大隊ヲ使用スルモノトシ各大隊ニ幅約二十米深サ約三十

米ノ突撃路各二條ヲ開設シ而シテ其ノ使用彈種ヲ次ノ如クス

第一陣地帯第一線ノ鐵條網 迫撃砲

第二陣地帯第二線以後 野砲彈

第二陣地帯第一線ノ半數  
同 第二線

第二陣地帯第二線以後

十五榴彈

十加彈

次ニ機關銃破壊ノ爲ニハ敵ノ機關銃數ヲ知ルヲ要ス此ノ數亦不明ナルモ乙國軍ハ概ネ甲國軍ト等シク丙國軍ハ戰團群戰法ヲ採用セルニ鑑ミ著シク大ナルカ如ク之ヲ次ノ如ク推定ス

乙國一師團

重機關銃(歩兵一聯隊) 四八

輕機關銃(歩兵一中隊) 二八八

丙國一師團

重機關銃(歩兵一聯隊) 五四

輕機關銃(歩兵一中隊) 三二四

機關銃ノ目標ハ極メテ小ニシテ且移動容易ナルヲ以テ悉ク之ヲ破壊セントスルハ到底期シ得ス然レトモ歩兵攻撃直接ノ障礙ヲナスモノハ之ヲ以テ最トス故ニ極力之カ破壊ニ努メサルヘカラス故ニ先ツ總數ノ三分ノ二ヲ破壊スルモノトシテ計算ス而シテ之カ破壊ニハ主トシテ野山砲ヲ以テシ一部ヲ迫撃砲ヲ以テスルコトトス

(ニ) 敵指揮系統機關ノ擾亂ノ爲ノ彈數

氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力資材ノ算定



コハ殆ト其ノ位置及數ノ基礎ヲ得ス從テ所要彈數算定困難ナルモ要ハ敵ノ觀測所、通信所  
 監視所、司令部等ニ向ヒ一齊ニ射撃シ以テ一時敵ヲ盲目ナラシムルモノニシテ一種ノ彈幕  
 射撃ヲ爲スヲ可トセン而シテ之カ實施時機ハ最モ緊要ナル時即チ突撃ノ前後、第一陣地帯  
 後端ニ出テシ時及第二陣地帯ニ突撃セントスル時其ノ他攻撃間ノ主要時機ニ實施スルヲ可  
 トセン而シテ主トシテ野山砲ヲ使用ス

(ホ) 後方地區要點ノ射撃

主トシテ十加及十五加ノ長射程砲ヲ以テ敵ノ主要交通路タル佐久山―喜連川道及矢板―氏  
 家道及要點タル喜連川附近敵豫想豫備隊ノ位置及荒川ノ橋梁等ヲ時々射撃ス

以上ハ學理的計算ニシテ而モ目標ノ位置全部判明シ居ル時ヲ想定セル計算ナリ然ルニ實戰ニ於  
 テハ目標ノ位置判明シ居ルハ最モ好運ナル場合ニ在リテモ約三分ノ一ナルヘシ而モ各種ノ齟齬  
 アリ戰鬪公算躲避ノアルアリ其ノ他右ノ外敵ノ抵抗中樞ノ破壊、彈幕射撃ノ一部ヲ實施セサル  
 ヘカラサルコト等アリテ遙カニ右學理的計算ヲ超過ス尙其ノ他追撃用ノ彈藥ヲモ要スヘシ彼此  
 公平ニ考察スル時ハ前記學理的計算ノ約五倍ノ彈藥ヲ準備スルヲ要ス此ノ見解ハ寧ロ過小ナリ  
 トモ決シテ過大ナラスト信ス

今之カ計算ノ結果ヲ示サハ概ネ次ノ如シ

追撃砲彈	野山砲彈	十五榴彈	十加彈	十五加彈	二十四榴彈	計
所要彈數	一五〇、〇〇〇	六一七、五〇〇	一六八、五〇〇	四九、五〇〇	一三、〇〇〇	一、〇〇四、五〇〇
總砲數	二八〇	四六八	一二〇	四〇	二四	九四〇
一門所要彈數	五四〇	一、三五〇	一、四〇〇	一、二〇〇	七五〇	平均 一、〇七〇

右ノ總彈數約百萬發ヲ既述歐洲戰ノ敵陣地毎米百二十發ヲ要スト云フ標準ヨリ得タル三百萬發  
 ニ比スレハ約三分ノ一トナル

以上ノ外兵力ノ算定ニ方リテハ工兵、航空機等研究ヲ要スヘキモ事餘リニ多岐ニ互ルヲ以テ茲ニハ單ニ  
 兵力算定ノ最モ主ナル師團數、砲兵力及之ニ伴フ彈藥數ノ算定ノ基礎ノミヲ研究シ他ハ省略シ諸官ノ研  
 究ニ委スルコトトセリ以上計算ニ基キ攻撃軍ノ兵力及編組ヲ定ルムコト既述戰鬪序列ノ如シ



## 砲兵ノ統一指揮

二五八

(補助官渡邊砲兵大尉口演)

抑々統一ノ利益ハ各種個々ノ能力ヲ最大限ニ發揮シ得シムルニ在リ統一ノ利益叙上ノ如キヲ以テ主義トシテ情況ノ許ス限リ統一指揮スルヲ原則トス砲兵數比較的少キ軍ニ於テ殊ニ然リト雖元來砲兵ノ任務タルヤ常ニ歩兵戰鬪ヲ有利ナラシムルニ在ルヲ以テ徒ラニ統一ノ利益ニノミ眩惑セラレ此元來ノ砲兵ノ任務遂行ニ不都合ヲ來ス如キ情況ニ於テモ尙且統一指揮セントスルカ如キハ誤謬タルヲ免レス高級指揮官ハ宜シク情況ニ應ジ能ク統一ノ利ト砲兵ノ任務トノ相互關係ヲ現況ニ照合判斷シ以テ統一ノ限度時期ヲ定メ戰鬪ヲ最モ有利ニ指導セサルヘカラス

歐洲戰ノ情況ヲ見ルニ開戰當初佛軍ハ軍統一ヲ主義トシ獨軍ハ師團統一ヲ本旨トセシカ如キモ數次ノ會戰ノ結果戰役末期ニ於テハ獨、佛、英軍皆殆ト同一用法ヲ採用スルニ至レルカ如シ其ノ要領ヲ約言セハ

一、師團内ノ砲兵ハ全部之ヲ統一指揮スルヲ原則トス然レトモ情況ニ依リ師團内砲兵ノ指揮ノ一部ヲ分割スルヲ利トスルコトアリ

二、軍砲兵ハ特種任務ニ服スルノ外之ヲ師團ニ配屬スルヲ本則トス然レトモ特別ノ目的ヲ以テ數師團砲兵ノ大部又ハ一部ヲ統一指揮セシムルコトアリ

今之ヲ我國軍砲兵用法ト對照スル爲我砲兵操典草案ノ一條ヲ左ニ記サン

砲兵ノ統一指揮ハ極メテ必要ナリ是ニ依リ其ノ運用並射擊ノ指揮ヲ適切ニシ且各種砲兵ヲシテ其ノ特性ヲ發揮セシメ以テ射擊ノ威力ヲ發揚スルコトヲ得レハナリ然レトモ情況特ニ地形並通信連絡ノ難易ニ依リ統一指揮ノ範圍ヲ適宜限定セサルヘカラサルコトアリ

同一師團内ニ在ル砲兵ノ全部ハ之ヲ統一使用スルヲ原則トス然レトモ情況ニ依リ一部ヲ分割スルコトアリ

軍直屬砲兵ハ適宜師團ニ配屬セララルモノトス然レトモ情況ニ依リ軍司令官直轄トシテ使用スルコトアリ

以上ノ如ク歐洲戰ノ砲兵統一指揮ノ要領ハ我砲兵操典草案ノ主旨ト全ク相一致ス尙歐洲戰ノ傾向ハ時トシテ數師團ノ砲兵ヲモ合シテ益々大規模ノ統一指揮ヲナスコトアルハ注目ニ値スヘシ

又歐洲戰ニ於テハ通常砲兵ヲ對歩兵及對砲兵ニ分離シテ使用セル跡ヲ見ル對砲兵戰鬪ハ對歩兵戰鬪トハ多少異リ且通常大正面ニ互リ計畫スルヲ有利トスルカ如シ此ノ見地ヨリセハ分離使用ハ一理アリ然レトモコハ獨佛軍ノ如ク砲數多キトキニ於テハ可ナルモ砲兵カ少キ軍ノ用法トシテハ一考ヲ要ス  
次ニ然ラハ師團砲兵ノ統一又ハ分屬ハ如何ニスルヤヲ研究セン

元來師團砲兵ハ師團ノ戰鬪力ヲ充實スル爲編合セラレタルモノナルヲ以テ其ノ用法ハ師團内歩兵部隊ノ



部署及行動ニ合致スル如クナラサルヘカラス故ニ師團砲兵指揮官ハ之ヲ統一使用スルヲ至當トス之ヲ師團ヨリ分離シテ軍ニ於テ統一セントスルハ是即チ其ノ根本主旨ニ反スルモノト謂ハサルヘカラス又之ヲ下級單位ニ分屬スルハ大ニ考慮ヲ加ヘサルヘカラス之ヲ歐洲戰ノ經驗ニ徵スルニ千九百十八年戰役ノ終期陣地突破後所謂中間地戰團ノ際步兵大隊ニ砲兵ノ一部ヲ分屬シ偉功ヲ奏セシ以來砲兵分屬論ハ俄然高唱セラレ甚ダシキニ至リテハ師團砲兵ノ全部ヲ豫メ步兵聯隊ニ分屬スルモノアルニ至レリ然レトモ其ノ結果ハ此ノ如キハ徒ラニ砲兵ノ威力ヲ分散シ集團火力ノ效力ヲ無視シタル一大過誤ナルコトヲ確證スルニ至レリ蓋シ此ノ如キ分屬用法ニ至リテハ戰團ハ各狹小正面毎ニ行ハレ連繫不良、彈藥ノ使用激増シ集中射撃ノ效果ヲ擧ゲ得サレハナリ然レトモ師團内ニ於テモ統一指揮ノ利益ヲ收メ得サル時ナキニシモアラス例ヘハ突撃ノ時機、陣地突破後所謂紛戰狀態惹起セシトキ等ノ場合ニ於テ尙且統一指揮セントスルハ之レ亦過失ナリ故ニ斯卡ル場合ニハ步兵聯隊ニ野山砲一中隊乃至二中隊ヲ分屬スルヲ有利トスルコトアルヲ顧慮セサルヘカラス之ニ關シ我步兵操典草案第一部第三十九ニ於テ

攻撃ノ進捗ニ伴ヒ最モ適切ニ步兵ニ協力シ得シムル爲砲兵ノ一部ヲ第一線步兵ニ近ク進出セシメ又攻撃點ヲ側射シ敵ノ側防砲若ハ機關銃ヲ破壊スル爲更ニ若干門ヲ散兵線附近ニ進出セシムルヲ有利トス此等ノ砲兵ハ第一線步兵隊長ノ指揮ニ屬セシムルヲ可トス

以上砲兵ノ統一又ハ分屬ニ關スル歐洲戰ノ經驗及國軍諸教典ニ示セル所ヲ述ヘタリ而シテ如何ナル情況

ニ於テ統一シ何レノ時機ニ統一ヲ破ルヲ可トスルヤハ是ニ當時ノ戰況ニヨリ決スルノ外ナキモ以上研究セル統一利益持續主義ノ利害、戰況ノ推移及之ニ伴フ砲兵ノ任務ヲ靜ニ考察スレハ此ノ間自ラ釋然タルモノアラン即チ概シテ靜止戰換言セハ情況ノ推移單純ナル場合ニ在リテハ統一指揮ヲ有利トシ之ニ反シ戰況漸ク動的性ヲ帶フルニ至ルヤ漸次次級單位ニ分屬スルニ至リ遂ニ戰況ノ變化極リナク應接ニ追ナキニ至ルヤ更ニ下級單位ニ分屬スルニ至ルモノトス唯茲ニ注意スヘキハ從來陣地戰ハ戰況ノ變化大ナラスシテ戰況豫想シ得隨テ終始攻撃砲兵ハ統一ヲ可トストノ議論アリシカ歐洲戰ノ實驗ハ此ノ見解ヲ根柢ヨリ覆シ其ノ突入後ハ單純ナル運動戰ニ比シ更ニ更ニ戰況複雜トナレリ蓋シ縱深複雜ナル陣地、各種新兵器ノ現出ノ然ラシムル所ナリ茲ヲ以テ陣地戰ニ於テハ突撃前後殊ニ突入後ハ各部隊ハ獨斷動作ニ依リ戰團ヲ圖ルヲ有利トシ隨テ砲兵ノ統一ハ此時期ニ至ラハ自ラ下級單位ニ分屬スルヲ有利トストノ結論ヲ生スルニ至ル尙統一分屬ニ關シ顧慮セサルヘカラスアルコトアリ即チ戰場附近ノ地形、通信連絡ノ難易、各種火砲ノ特性並射程ノ關係是ナリ此事ハ既ニ熟知セラルル所ナレハ一々之カ説明ヲ省略ス

以上ハ砲兵ノ統一又ハ分屬及其ノ轉換時期ニ關スル一般原則ニシテ之ヲ本情況ニ於テ如何ニ適用セハ可ナルヤハ自ラ明瞭ナルヘシ故ニ今之ヲ一々説明スルコトヲ省クコトトシ本情況ニ於ケル砲兵配屬ノ要領ヲ示スコトトス

○軍カ字都宮北方地區ニ進出シ氏家附近陣地攻撃ノ爲所要兵力ヲ集結スル間



此ノ期間ハ守勢ニシテ敵ノ出撃ニ備フルヲ主眼トシ攻勢動作ハ避ケサルヘカラス而シテ敵亦防禦工事ニ攻々トシテ從事スヘシ即チ戰況ハ所謂靜的ナリ故ニ軍直屬砲兵ハ軍ニ於テ師團砲兵亦師團ニ於テ統一指揮スルヲ可トス但シ軍直屬タル獨立山砲兵第一聯隊ハ地形及通信連絡ノ關係上之ヲ最右翼師團タル第六師團ニ配屬ス

○軍カ集結ヲ終リ敵前約四吉ノ線ニ進出セシトキ

此ノ期間ハ所謂攻城砲兵ノ展開掩護ノ時期ニシテ之レ亦戰況ハ靜的ナリ唯此ノ期間ハ敵ノ出撃ノ慮最大ナリ故ニ軍直屬砲兵ノ大部ハ依然軍ニ於テ統一シ其ノ一部即チ山砲ハ射程ノ關係及將來ノ師團ノ任務ヲ顧慮シ各師團ニ配屬ス又後述ノ如ク將來各師團ニハ十五榴ヲ分屬スルヲ要スル時機アラハ平地方面ニテハ適時此ノ配屬變更容易ナルモ山地ニ向フヘキ最右翼第六師團ハ此ノ如キハ望ムヘカラス故ニ同師團ニ限リ始ヨリ所要ノ十五榴ヲ配屬スルヲ適當トス

師團砲兵ハ師團ニ於テ統一シ下級部隊ニ配屬ノ必要ヲ認メス

○軍カ敵前概ネ二吉ノ線ニ進出セシトキ

此ノ時期ノ戰況ハ概ネ前期ト同様ナルヘキヲ以テ配屬方法亦依然前期ニ同シ

○軍カ攻撃準備ヲ完了シ攻撃前進ヲ初メ攻撃實施ニ移リタルトキ

此ノ期間ヨリ漸次戰況ハ動的トナリ歩砲ノ協同時ト共ニ必要ノ度ヲ生シ突撃前後ニ至リ殊ニ甚ダシ

而シテ初期ハ軍直屬砲兵ノ大部ハ依然直轄トシ統一スルヲ可トスルカ如キモ早晚師團ニ配屬スル慮アリ且射程長遠ナラサル野戰重砲兵(十五榴)ハ之ヲ今ヨリ師團ニ配屬スルヲ可トセン蓋シ師團カ完全ニ其ノ任務ヲ達セントセハ平曲兩種火炮ヲ必要トスルハ歐洲戰ノ示ス所ナリ然ルニ本想定ノ甲國軍ハ師團ノ編組内ニ曲射砲ヲ有セス故ニ時期稍々早キノ感アルモ之ヲ今ヨリ師團ニ配屬スルヲ可トセン但シ射程長遠ナル平射砲(十加、十五加)及運用困難ナル大口經曲射砲タル二十四榴ハ當然軍司令官之ヲ統一指揮スルヲ可トス

又此ノ時期ニ於テ師團配屬砲兵中野山砲ノ一部ヲ下級單位ニ分屬スルモ敢テ不可ナラス蓋シ本情況ニ於テハ師團配屬砲兵數ハ其ノ固有ノ砲兵ノ約二倍ニシテ恰モ歐洲戰佛軍ノ師團固有砲數ニ等シ尙一方早晚分屬ヲ豫期スルヲ以テ時機尙早ノ感アルモ步兵指揮官ニ分屬スルモ敢テ不可ナラス唯注意スヘキハ既ニ述ヘタル所ニ依リ明ナルモ師團砲兵ノ大部ヲ分屬スルコトハ避ケサルヘカラス故ニ先ツ第一線步兵指揮官ニ野山砲ノ一、二中隊ヲ限度トシテ分屬スルヲ可トス

○軍カ突撃ヲ開始セル後

此時ニ至ラハ戰況茲ニ一變シ動的ノ最極限ニ達シ戰場ノ局面ニ依リ其ノ程度區々ナルヲ以テ一ニ當時ノ情況ニ依リ分屬ノ砲種及砲數ヲ決定スルノ外ナク今之ヲ一々確定シ得ス但シ長射程大口径砲ハ其ノ數貧弱ナル本情況ニ於テハ依然軍ニ於テ之ヲ統一指揮スルヲ有利トス

砲兵ノ統一指揮



## 一、總評

本演習ノ結構ハ豫メ各官ニ指示セル如キ諸項ヲ研究スル目的ヲ以テ立案シタルモノニシテ先ツ最初ニ於テ全局ニ亙ル一般作戰指導ノ要綱ヲ研究シ以テ統帥ノ根本方針ヲ明確ニシ各官ノ頭腦ヲ統一シ續テ支作戰場タル水戸平地ニ於ケル師團ノ作戰並主作戰場タル宇都宮平地ニ於ケル軍ノ統帥ヲ研究シ續テ比較的大兵團ヲ以テ數線ニ設備セル陣地ノ攻撃ノ要領ヲ研究セリ

此ノ間ニ於ケル本職ノ所見ハ其ノ都度之ヲ開陳セシ所ナルモ今是等ヲ綜合シ將來各官ノ注意ヲ促スヘキ要項ヲ述フレハ次ノ如シ

### 一、大兵團ノ統帥ニ就テ

軍ハ師團以下ノ小部隊ノ如ク進退輕捷ナラス兵力ノ大ト各種機關ノ附屬トハ其ノ行動ヲ著シク鈍重ナラシメ其ノ結果ハ其ノ統帥ヲ困難ナラシム即チ一度其ノ基礎ノ配備ヲ決定セハ容易ニ之ヲ改變スルヲ得ス唯僅ニ作戰地境



ノ變更ト第二線兵團ノ運用トニ依リ之ヲ實行シ得ルノミ故ニ之カ統帥ノ始メニ於テハ十分考慮シテ作戰ノ計畫ヲ定メ遠キ將來ニマテ作戰ノ推移ヲ豫想シテ集中竝戰略展開ヲ企畫セサルヘカラス然ルニ本演習ニ於ケル各官ノ作業中軍ノ集中及其ノ後ノ前進ニ於テ基礎配置及其ノ行動以上ノ趣旨ニ合セサルモノアリ將來一層ノ研究ヲ望ム

又大兵團ノ統帥ニアリテハ特ニ軍隊ノ實情ヲ明ニシ之ニ適スル行動ヲ要求スルコト極メテ必要ナリ本演習間ニ於テ軍ノ遭遇戰ヲ指導スルニ際シ各師團竝第二線兵團カ如何ナル狀態ニアルヤ否ヤヲ明ニセスシテ命令ヲ下達セルカ如キ又第六師團ノ眞壁附近ニ於ケル姿勢ヲ知ラスシテ各隊ニ無理ナル分進ヲ命シタルカ如キハ統帥上戒ムヘキコトナリトス此等ノコトハ又單ニ有形上ノコトニ止ラス志氣ノ振否、體力疲勞ノ度、給養ノ如何等無形上ノコトマテ注意スルヲ要ス而シテ此等ノ注意ハ特ニ幕僚ノ任スヘキ事ナルヲ知ラサルヘカラス

### 二、内線及外線作戰ニ就テ

本作戰ニ於テハ乙丙兩國軍ハ外線ニ立チ甲國軍ハ内線ニ立テリ内外線兩作戰ノ利害竝其ノ作戰指導ニ關スル要領ニ就テハ既ニ諸官ノ了知スル所ナルヘシ然ルニ乙丙兩國軍カ其ノ兵力優勢ナラサルニ拘ラス宇都宮、水戸方面ニ集中スルノ外更ニ兵力ヲ分離シテ房總半島及相模沿岸ニ上陸ヲ企圖スルモノト判斷セルカ如キ又甲國軍カ東京及横須賀兩要塞攻略ヲ企圖スルト共ニ北方面ニ對シテモ亦攻勢ヲ取ラントスルカ如キ共ニ此ノ種作戰指導ノ要領ニ合セス各官ハ更ニ本作戰ノ推移ニ鑑ミ此ノ兩作戰指導ノ要旨ヲ自得セラレンコトヲ望ム

### 三、攻勢ト守勢トノ關係ニ就テ

軍ノ統帥上最モ考慮ヲ爲スヘキハ斷ヘス主動ノ位置ニ立チテ敵ヲシテ我意思ニ追隨セシムルニアリ  
之カ爲ニハ攻勢ヲ執ルヲ最モ必要トス然レトモ唯進ムヲ知テ止マルヲ知ラ



サルハ未タ統帥ノ要ヲ得タルモノニアラス兵力集結未了ノ場合若ハ支作戰場等ニ於テハ隱忍持久暴舉ヲ戒メサルヘカラサル場合アリ

例ヘハ利根川左岸ニ於ケル軍ノ集中初期宇都宮方面ノ敵ニ比シ兵力尙劣勢ヲ感スルノ際石岡方面ニ一部ヲ割テ攻勢ヲ取ラントスルカ如キ或ハ第十二師團カ兵力上劣勢ニシテ其ノ任務カ必スシモ決戦ヲ要求セサルニ拘ラス水戸ニ向ヒ暴舉前進ヲ企圖スルカ如キハ共ニ適當ト認メ難ク攻守轉換ノ時機ニ就キ一層ノ研鑽ヲ要スルモノト認ム

#### 四、決心及各種判斷ニ就テ

決心及情況判斷ハ統帥ノ基礎ナリ而シテ之カ適切ヲ期セントセハ任務、敵情及地形ヲ至當ニ判斷スルヲ必要トスト雖亦情況特ニ自己軍隊ノ現情ヲ熟知スルコト緊要ナリ蓋シ常ニ彼我ノ情況ヲ明ニセンカ其ノ決心及情況判斷ハ概ネ正鵠ヲ失セサルノミナラス部下ニ要求スル所モ亦常ニ適切ナレハナリ之ニ反シ徒ニ理想ニ走リ至善ヲ望ミ部下團隊ニ不可能ナル事ヲ強フルカ

如キハ統帥ノ要義ニアラス本演習間敵情及友軍ノ情況ヲ適確ニ腦裡ニ收メ在ラサル結果往々ニシテ決心及情況判斷竝之ニ基ク主要ナル處置ニ於テ此ノ種ノ傾向ヲ認メタルモノ少カラサリシハ遺憾ナリ例ヘハ中妻村附近敵陣地攻撃ノ爲夜間中ニ軍隊ヲ敵ノ右翼山地内又ハ左翼森林内ニ移動シ翌拂曉マテニ攻撃準備ヲ了ラシメントシタルカ如キ第六師團轉進後拂曉マテニ鬼怒川ノ線ニ展開ヲ了ラントセシカ如キハ此例ナリ又敵情判斷ノ重視セサルヘカラサルニ就テハ本演習間屢々説述セル所ニシテ水戸兵團ノ作戰指導及軍ノ集中ニ方リ其ノ進止ヲ決スヘキ時機ニ就テ回顧セハ自ラ這般ノ消息ヲ了得セラルルナラン

#### 五、地形ノ觀察及偵察ニ就テ

地形ノ觀察竝偵察ハ戰略戰術上ノ要求ニ基キ大局ニ著眼シ其ノ要點ヲ逸セサルコト必要ナリ小局部ニ眩惑セラレ全局ノ企圖達成ヲ誤ルカ如キコトナキヲ要ス



關八洲ノ地形觀察ニ於テ著眼局地ニ偏シ又ハ單ニ石岡附近ノ地形防禦ニ困難ナルノ故ヲ以テ戀瀨川右岸ニ後退セシカ如キ其ノ適切ナラサル一例ナリ

#### 六、夜間ノ行動ニ就テ

企圖及行動ノ秘匿ハ航空機ノ發達ニ伴ヒ益々緊要トナレリ從テ軍隊ニ夜間行動ヲ要求スルコト益々多カルヘシ然レトモ甚シク秘匿ニノミ顧慮シ素リニ夜間ノ行動ヲ企畫スルハ過望ナリ要ハ其ノ要否ヲ判別シ絕對的必要ナル時期ニ於テノミ之ヲ要求スルノ注意ヲ緊要トス蓋シ夜間行動ハ軍隊ヲ疲勞セシムルコト至大ナレハナリ例ヘハ集中行動ヲ悉ク夜間ニ行ハントスルカ如キハ絕對的必要ト認メ難ク之ニ反シ第六師團兩度ノ轉進ノ如キ又前進ノ爲メ軍主力ノ準備行動ノ如キハ其ノ絕對必要ナル一例ナリ

#### 七、戰略的行動ト戰術的行動トノ關係ニ就テ

抑々軍ノ行動ヲ律スルヤ情況ニ依リ主トシテ戰略的ニ行動スヘキヤ又戰術的ニ行動スルヲ要スヘキヤ或ハ此兩者ノ行動ヲシテ情況ニ依リ適宜彼此轉

換スルヲ要スヘキヤ等ニ就テ顧慮スルコト必要ナリ然ルニ諸官ハ茲ニ著意スルコトナク彼此混淆シ從テ其ノ動作適切ヲ缺クモノ多シ第六師團ノ鬼怒川河谷ヨリ柿岡附近ヘノ轉進ハ戰術的ニシテ其ノ水戸平地ヨリ眞壁及下館附近ニ向テスル轉進若ハ前進ハ戰略的行動ナルヲ至當トス之等ニ關シ特ニ一段ノ注意ヲ望ム

#### 八、歩砲ノ協同ニ就テ

歩砲兩兵ノ緊密ナル協同動作ノ必要ナルハ今更喋々ヲ要セサルモ火器ノ威力ノ増進、戰鬪動作ノ複雜ヲ極ムル將來ノ戰鬪ニ於テハ特ニ一層此ノ感ヲ深カラシムルモノアリ之カ爲ニハ其ノ砲兵用法ニ於テハ能ク戰況ノ推移ニ鑑ミ各時期ニ應シ適時適所ニ必要ナル火力ヲ集散離合セシムル如ク適當ニ陣地ヲ選定シ以テ終始友軍歩兵ノ行動ヲ容易ナラシムル如クスルヲ必要トス本演習中諸官ノ砲兵用法ニ於テハ此ノ點ニ著意スルコトナク單ニ確固タル目的ヲ定ムルコトナク漫然砲兵陣地ヲ決定シ若ハ單ニ主攻擊點ヲ有效ニ射擊シ得ルヲ以テ満足シ以上ノ趣旨ニ合セサルモノ或ハ甚シキハ砲兵使用ニ關



シ何等顧慮ナキモノアルカ如キモノアリシハ遺憾ナリ將來一層ノ研究ヲ望ム  
九、砲兵ノ運用ニ就テ

砲兵ノ使用法ヲシテ適當ナラシムル爲ニハ能ク各種砲兵ノ特性ニ鑑ミ之ヲ  
適當ナル方面ニ於テ有利ニ使用スル如ク顧慮スルヲ緊要トス殊ニ現今ノ如  
ク軍事工藝其ノ他戰術ノ進歩ニ伴ヒ戰鬪狀態益々複雑ヲ極メ從テ戰場ニ使  
用スヘキ火砲ノ種類モ亦多種多樣トナルニ從ヒ愈々此ノ顧慮ヲ必要トス今  
回ノ演習ニ於ケル諸官ノ砲兵用法ニ就テ之ヲ見ルニ野砲及山砲ノ使用法ヲ  
誤リ又ハ數線陣地攻撃ニ方リ特種火砲殊ニ重砲ノ使用適當ナラサルモノ比  
較的多キヲ認メタリ

一〇、數線陣地ノ攻防ニ就テ

陣地ヲ數線ニ設備シタルモノニ對スル攻撃並其ノ防禦ニ就テハ國軍ハ未タ全  
ク經驗ナク從テ其ノ要領モ最近歐洲ニ於テ行ハレタルモノヲ參考トシ之ヲ國  
軍ノ境遇並將來戰ノ情況ニ顧ミテ自ラ之ニ適スル方法ヲ研究セサルヘカラス  
本演習ニ於テハ以上ノ趣旨ヲ以テ指導スルヲ本旨トシ現下本情況ニ於テ最

良ト信スル所ヲ以テセリ然レトモ固ヨリ之ヲ以テ範例典型ト爲スヘキニア  
ラス宜シク所要器材ノ進歩ト研究ノ進捗ニ伴ヒ更ニ國軍ノ將來戰ニ適スル  
要領ヲ案出スルノ必要アリトス

各官ハ以上ノ見地ニ立チ更ニ一段ノ研究ヲ爲スヲ要ス又本演習ニ於テ各官  
ノ作業ヲ見ルニ此ノ種戰術ノ基礎條件ノ研究未タ十分ナラサルモノヲ認ム  
ル點ナキニアラス將來ノ研究ヲ望ム

一一、航空部隊ノ使用ニ就テ

本演習間航空機ノ使用ニ就テハ研究ノ機會極メテ少ク十分此ノ新兵器ノ使  
用ニ就テ各官ニ指針ヲ與ヘ得サリシヲ遺憾トス然レトモ此ノ研究ハ極メテ  
重要事ニシテ將來ノ作戰ニ至大ノ影響ヲ與フルモノナルヲ以テ特ニ一段ノ  
研鑽努力ヲ望ム而シテ此ノ新兵器ハ科學及技術ノ進歩ニ伴ヒ進歩發達シ停  
止スル所ナク加フルニ國軍ニ於テハ未タ實戰ニ於テ之ヲ大規模ニ使用シタ  
ル經驗ナク從テ之ヲ運用並戰術ニ就キ確固タル定見ナシ故ニ吾人ハ互ニ研  
鑽ヲ積ミ又絶ヘス器材ノ進歩改良ニ注意シ以テ航空部隊ノ使用法ヲ適當ナ



ラシムルコトニ著意スルヲ緊要トス

一一、通信ニ就テ

通信カ統帥ニ重大ナル影響ヲ有スルコトモ亦各官ノ十分了知セラレアルコトト信ス輓近技術ノ進歩竝運用兵力ノ増大ニ伴ヒ通信機關利用ノ適否カ軍ノ勝敗ニ至大ノ關係ヲ有スルニ至リ殊ニ大軍ノ統帥ノ能否ハ殆ト通信ノ整否ニ依ルト斷言セララルニ至レリ而シテ之カ活用ニ當リテハ能ク各種通信法ノ性能ヲ熟知シ其ノ有スル能力ヲ十分ニ發揮セシムル如ク顧慮スルヲ必要トス本演習間爾他ノ關係上之ニ關スル研究ヲ十分ニ行フノ機會ヲ有セサリシハ遺憾トスル所ナリ

無線通信ハ一見極メテ利便ナルカ如キモ未タ之ヲ以テ主通信トナシテ満足スルノ情況ニ達セス故ニ主通信ハ依然トシテ有線ニ依ラサルヘカラサルコトニ注意スルヲ要ス

一二、兵站ニ就テ

兵站ニ關シテモ本演習間研究ノ機會甚タ少カリシヲ遺憾トス然レトモ諸官

ハ一、二ノ研究ニ依リ略々其ノ概念ヲ了得セラレタルモノト信ス諸官ハ之ヲ基礎トシ將來研究ヲ中絶スルコトナク愈々細ニ入り研鑽ヲ繼續セラレンコトヲ望ム之カ爲研究上特ニ注意ヲ喚起スヘキモノアリ他ナシ須ク兵站諸部隊ノ性能ヲ究メ形式竝某情況ニ於ケル一範例ニ拘束セララルコトナク常ニ施設ヲシテ情況ニ順慮セシムルノ著眼ヲ逸セサルコト是ナリ

一四、命令ノ作爲ニ就テ

命令ハ指揮官ノ意思ヲ發表スルモノニシテ又絶對的服從ヲ要求スヘキモノナリ從テ之カ作爲ハ幕僚勤務中ノ重要ナル一事項ニシテ最モ慎重ヲ要ス而シテ之カ記載上ノ注意ハ陣中要務令ニ明示スル所ニシテ再言ヲ要セスト雖未タ不十分ナルモノ尠カラス例ヘハ第一項ニ彼我ノ情況ヲ示スニ方リ不必要ナル情況ヲ多ク列舉シ之ニ反シ各別命令ニ於テ必要ナルモノヲ却テ脱漏スルカ如キ或ハ當時ニ於ケル軍隊ノ實狀ヲ顧慮スルコトナク實施困難ナル命令ヲ下スカ如キ其ノ他適當ナラサルモノ比較的多シ將來一層此ノ點ニ就



キ注意セラレンコトヲ望ム

二七六

以上ハ本演習間ニ於ケル感想ヲ披瀝シテ諸官ノ參考ニ供セント欲スル所ナリ諸官ハ本演習間本職ノ開陳セル所見ニ鑑ミ將來一層研究ヲ密ニセラレンコトヲ望ム

新兵器ノ使用及新戰術ノ運用ニ就テハ尙研究スヘキ範圍廣大ナリ而シテ此等ノ多クハ過渡期ニ屬ス本演習間是等ニ關シ若干研究ヲ試ミ或ハ意見ヲ開陳セシコトアルモ決シテ是決定的結論ニアラスシテ各官カ今後一層ノ研究ヲ要スル所ナリ

演習終了ニ臨ミ本演習間本職ノ未熟ナル統裁ニ係ラス諸官ハ熱心ナル研究ニ依リ殆ト所期ノ目的ヲ達シ其ノ成績モ亦概シテ良好ナリシハ本職ノ頗ル満足スル所ニシテ此ノ情況ハ歸廳ノ上詳細上司ニ報告スル所ナラントス

大正十年十二月十八日

統裁官 二 宮 治 重

## 二、敵軍作戰行動ノ概要

丙國政府ハ乙國ノ敗滅ヲ以テ自國ノ國際的地位ヲ不安ナラシムルモノトナシ所要ノ兵力ヲ國境附近ニ集中シテ頻リニ干涉ヲ試ミシモ甲國ノ之ヲ肯セサルヤ一方優勢ナル海軍ヲ以テ甲國ノ海外通商ヲ遮斷シテ補給ノ道ヲ絶ツコトヲ圖リ一方先ツ其ノ陸軍ノ一部ヲ以テ越後方面ヨリ當面ノ敵ニ對シ攻勢ヲ取ラシムルト共ニ其ノ主力ヲ擧ケテ乙軍ヲ救濟セントシ速ニ關東平地ニ向ヒ攻勢作戰ヲ期シ且將來ノ作戰推移ヲ顧慮シ内地ニ於テ新軍ノ編成ヲ圖ル

關東平地方面ニ於ケル丙國軍ハ宇都宮附近ニ敗退セル乙國軍ヲ併セ豫メ國境附近ニ集中セル三箇師團ニ更ニ内地ニ於テ動員セシ二箇ノ師團ヲ加ヘ成ル可ク速ニ攻勢ニ出テントシ青森—仙臺—水戸鐵道並青森—秋田—福島—宇都宮鐵道ヲ利用シテ輸送ヲ開始シ其ノ略終了ヲ待テ開戦シ先ツ水戸附近ニ集中セル兵團ヲ以テ速ニ水戸平地並筑波山脈ヲ領有シテ軍爾後ノ作戰ヲ有利ナラシムルト共ニ



成ル可ク多クノ兵力ヲ以テ主作戰場タル宇都宮平地ニ轉進スルヲ企圖セシメ一方東京竝横須賀兩要塞ニ連絡シ努メテ積極的行動ヲ取り甲國軍ノ主力ヲ同方面ニ繫留セシメ主力ハ野戰一師團竝重砲兵一旅團ノ到著ヲ待テ十二日大舉攻勢前進ヲ開始ス

之ヨリ先キ水戸方面ノ兵團ハ九日前進ヲ開始シ先ツ石岡附近ヲ占領セル約一師團ノ敵ニ對シ攻撃ヲ開始シ將ニ之ヲ擊退セントセシトキ十一日拂曉柿岡方面ヨリ新ニ到著セル約一師團ノ敵ノ攻撃ヲ受ケ防戰大ニ努メタルモ戰勢漸次不利ニ傾キシト且主力軍方面ノ決戰漸ク逼ルヲ認メ茲ニ最初ノ決心ヲ變更シ努メテ多クノ敵ヲ水戸方面ニ牽制シテ主決戰ヲ有利ナラシムルト共ニ我ハナシ得ル限りノ兵力ヲ宇都宮平地ニ轉進セシメントシ十二日朝以來逐次退却ヲ始メ涸沼川竝前夜構築セシ中妻村附近ノ陣地ニ依リテ敵ノ前進ヲ拒止セシメ此間約一師團ノ兵力ヲ小松村—七井道ニ依リテ七井附近ニ向ヒ轉進セシム

主力軍ハ十二日攻勢前進ヲ開始シ赤津、壬生、藥師寺ノ線ニ於テ略々同等ノ敵ト

遭遇シ激戰ヲ交ヘシモ彼此戰勢伯仲シ戰線固著スニル至レリ

十三日水戸平地ヨリ轉進セシ師團ハ敵ノ主力軍ノ右翼ヲ攻撃セントシ谷田貝ニ向ヒ前進中眞壁附近ニ現出セル新ナル敵ノ師團ト谷田貝、根小屋ノ線ニ於テ遭遇シ攻撃大ニ努メシモ地形ノ不利ト兵力ノ劣勢トニ依リ遂ニ敗退シテ眞岡方面ニ逐次退却スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

主力軍方面ノ戰鬪ハ此日正午頃マテ猶均勢ヲ保持シアリシカ鬼怒川左岸ニ於テ現出セシ不期戰遂ニ乙丙聯合軍ニ利アラス軍主力ハ爲ニ左翼ヲ包圍セラレントシ後方連絡線ニ至大ノ脅威ヲ受クルニ至リシヲ以テ豫メ構築シアリシ國境附近ノ陣地ニ後退シ再舉ヲ策スルニ決シ十三日夜ニ入ルヤ總軍退却ヲ開始ス

十四日各師團ハ豫定ノ如ク退却行動ヲ開始シ乙國軍ノ設備セシ鹿沼、宇都宮ノ線ニ於ケル既設陣地ニ依リテ敵ノ追擊ヲ拒止シツツ全軍無事國境附近ノ數線陣地ヲ占領スルニ至リ爾後此ノ線ヲ保持シテ新編成軍ノ到著ヲ待ツニ決ス

水戸方面ニ於テハ當面ノ敵ヲ牽制シ且主力軍ノ背後ヲ安全ナラシメントシ逐次







歐洲大戰間ニ於ケル野戰築城ノ變遷摘要

(專修員林部工兵大尉口演)

(佛國工兵第十二聯隊長「ノルマン」大佐述)

年	月	次	一般ノ變遷、主ナル使用ノ兵器等	陣地ノ編成、設備、戰闘法ニ關スル主要ナル變遷ノ梗概摘要
一九一四年	八月	有力ナル小銃野戰重、輕砲、機關銃	連續式築城ヲ用フ、士卒肢々相接ス 斷續セル塹壕 輕掩蔽部	陣地ノ編成、設備、戰闘法ニ關スル主要ナル變遷ノ梗概摘要
		陣地固著トナル築城ハ火砲ヲ壓ス塹壕ハ變シテ陣地トナル	塹壕ハ逐次三線(監視、主、複郭)連續線式トナル 第一線ヲ以テ抵抗線トナス 機關銃ヲ第一線ニ配置ス 幅員小ナル直交壕ヲ用フ 銃眼、掩覆塹壕 九太ノ三層ヨリ成ル掩蔽部ヲ塹壕ヨリ分離シテ設ク 半圓形鐵鈹ノ使用 電話ノ使用	
一九一五年	六月	擲彈銃 塹壕砲 氣球及飛行機ヲ以テスル觀測 直ニ敵ト觸接ス 照明彈 射光機	抵抗中樞ノ考案 受働の中間地ハ障礙物ヲ以テ通過ヲ不可能ニシ且之ヲ側防ス 第一線ノ兵力ヲ減ス 鐵條網内ニ聽音哨ヲ配置ス 步兵ヲ梯次ニ配置ス區劃式ヲ採用ス 掩蔽部ヲ抗道式及比頓造トシ且小ニス 鐵條網ノ深サヲ増シ少クモ之ヲ兩帶トス 擲彈ニ對シ胸牆上ニ鐵網ヲ設ク 抗道爆破ノ使用 偽裝法ノ改良 砲兵ノ障壁射擊第一線附近ニ穹窿砲臺ノ築設側防砲 第一陣地ノ後方三乃至四百米ニ於ケル第二陣地	依然連續線式築城ヲ用フ但中間地ノ守備兵ヲ僅少ニス支撐點ノ周圍ニ鐵條網ヲ繞ラシ之ヲ縱橫方向ニ配列シ抵抗中樞ヲ成形ス 反對斜面ヲ利用ス 二重ノ塹壕 機關銃ヲ露天ニ梯次ニ配置ス 射場ヲ短縮ス但觀測所ハ砲兵ノ爲遠ク展望スルヲ得シメ時トシテハ裝甲シ或ハ人工的偽裝ヲ施ス 地區ノ區分ニ大ナル考慮ヲ拂フ 防禦ノ目的ヲ以テ編成シタル大直交壕 第一陣地ノ後方六乃至八百米ニ堅固ナル第二陣地ヲ設ク 中間陣地ノ設備 失敗ノ場合直ニ逆襲ヲ行フ(即時ノ逆襲) 掩蓋、鐵楯、分解式觀測所 極力敵ニ損害ヲ與フ
		重砲ノ發達 迫擊砲 毒瓦斯 火焰發射機	重砲ヲ以テ抵抗中樞ヲ連結ス詰支撐點ヲ編成全體中ニ隱匿ス 集合所ノ設備 陣地保持ノ爲即時ノ逆襲ヲ行フ 展望戰闘兼用ノ掩蔽部裝甲 第一陣地ノ後方六乃至八百米ニ第二陣地ヲ設ク 攻勢の輕掩蔽部 砲兵掩護線 縱深方向ニ於ケル砲兵ノ梯次配置 攻擊準備挫折ノ目的ヲ以テ行フ砲兵射擊(對準備射擊)、障壁射擊 通信連絡(傳書鳩、視號通信所)	
一九一六年	八月	砲兵益々發達ス 彈藥豐富トナル 毒瓦斯 火焰發射砲 輕機關銃及V式擲彈銃 携帶器具ノ改良	塹壕ヲ以テ抵抗中樞ヲ連結ス詰支撐點ヲ編成全體中ニ隱匿ス 集合所ノ設備 陣地保持ノ爲即時ノ逆襲ヲ行フ 展望戰闘兼用ノ掩蔽部裝甲 第一陣地ノ後方六乃至八百米ニ第二陣地ヲ設ク 攻勢の輕掩蔽部 砲兵掩護線 縱深方向ニ於ケル砲兵ノ梯次配置 攻擊準備挫折ノ目的ヲ以テ行フ砲兵射擊(對準備射擊)、障壁射擊 通信連絡(傳書鳩、視號通信所)	

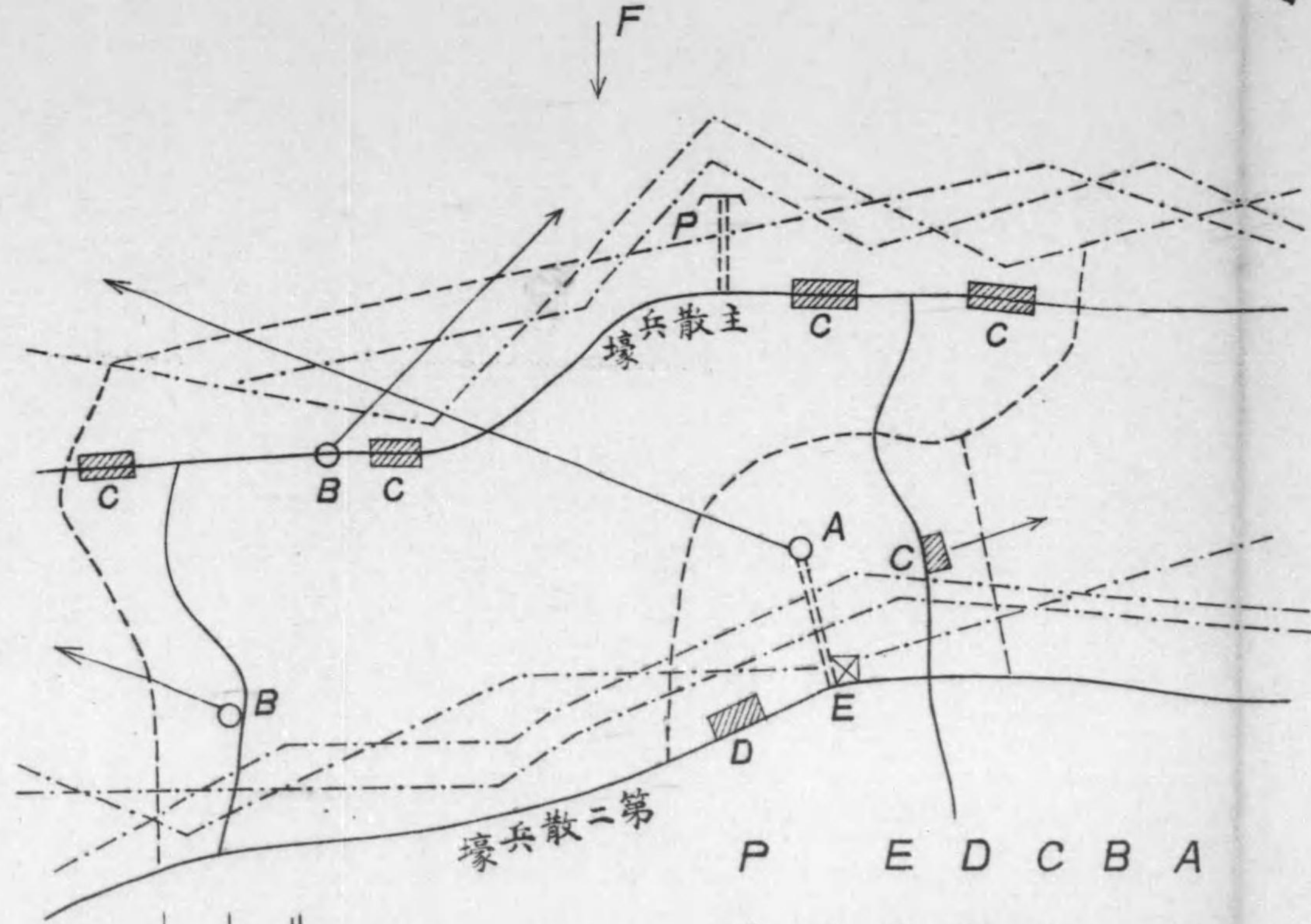


一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年	
十二月		八月		三月		四月	
<p>重砲ノ發達 迫撃砲 毒瓦斯 火焰發射機</p>	<p>坑道爆破ノ使用 偽裝法ノ改良 砲兵ノ障壁射擊第一線附近ニ穹窿砲臺ノ築設側防砲 第一陣地ノ後方三乃至四百米ニ於ケル第二陣地 依然連續線式築城ヲ用フ但中間地ノ守備兵ヲ僅少ニス支撐點 ノ周圍ニ鐵條網ヲ繞ラシ之ヲ縱橫方向ニ配列シ抵抗中樞ヲ 成形ス 反對斜面ヲ利用ス 二重ノ塹壕 機關銃ヲ露天ニ梯次ニ配置ス 射場ヲ短縮ス但觀測所ハ砲兵ノ爲遠ク展望スルヲ得シメ時ト シテハ裝甲シ或ハ人工的偽裝ヲ施ス 地區ノ區分ニ大ナル考慮ヲ拂フ 防禦ノ目的ヲ以テ編成シタル大直交壕 第一陣地ノ後方六乃至八百米ニ堅固ナル第二陣地ヲ設ク 中間陣地ノ設備 失敗ノ場合直ニ逆襲ヲ行フ(即時ノ逆襲) 掩蓋、鐵楯、分解式觀測所 極力敵ニ損害ヲ與フ</p>	<p>砲兵益々發達ス 彈藥豐富トナル 毒瓦斯 火焰發射砲 輕機關銃及V形式擲 彈銃 携帶器具ノ改良</p>	<p>毒瓦斯彈</p>	<p>空中寫眞 砲兵ハ築城ヲ壓ス 佛軍三十七耗砲ヲ用 フ</p>	<p>佛軍 砲兵優勢トナル 大威力アル重砲 航空機射擊砲ノ使用 「タンク」 攻撃用飛行機 「ストツク」白砲</p>	<p>獨軍豫備ノ増大 各種口径砲ノ威力絶 大トナル 火砲ハ築城ヲ壓ス</p>	<p>佛軍 「タンク」ノ大集團 煙幕 聯合軍ノ兵力優勢ヲ 占ム</p>
<p>第一線ニ於ケル防禦ハ兵員ヲ以テスルヨリモ寧ロ兵器ヲ以テス 機關銃及輕機關銃ヲ塹壕外ニ梯次ニ配置ス 歩兵ノ動作ハ運動ヲ主トス</p>	<p>塹壕ヲ以テ抵抗中樞ヲ連結ス詰支撐點ヲ編成全體中ニ隱匿ス 集會所ノ設備 陣地保持ノ爲即時ノ逆襲ヲ行フ 展望戰團兼用ノ掩蔽部裝甲 第一陣地ノ後方六乃至八百米ニ第二陣地ヲ設ク 攻勢的輕掩蔽部 砲兵掩護線 縱深方向ニ於ケル砲兵ノ梯次配置 攻撃準備挫折ノ目的ヲ以テ行フ砲兵射擊(對準備射擊)、障壁 射擊 通信連絡(傳書鳩、視號通信所)</p>	<p>築城ノ疎解、自動兵器ノ分散及遮蔽 戰團群ヲ設ケ側方及後方ニ相互ニ連繫ス 沿ネク地下交通路及垂坑道ヲ用フ 平行壕及直行壕ナル術語ヲ用フ 斜向壕 砲兵ノ對準備射擊、火力ノ集中 間接射擊ノ爲機關銃集團ス</p>	<p>活動防禦ノ主義ヲ採ル之カ爲兵力ヲ梯次ニ配置シ即時ノ逆襲 或ハ豫メ準備シタル攻勢移轉ニ便ニス 警戒部隊ハ第一陣地ニ於テ戰フモ決戰ハ第二陣地内ニ於テ行 フコトヲ得 防禦計畫殊ニ増援計畫ノ進化 通信連絡法ノ増設(無線電信、地中無線電話) 歩兵師團、軍團、軍ニ於ケル砲兵司令部ノ編制、各種砲臺ノ 任務、口径ヲ明瞭ニ區別シ砲臺ヲ梯次ニ配備ス 銳意第二陣地ノ工事ニ努ム</p>	<p>退却スルコトナク縱深方向ニ於テ抵抗ス、戰團群ヲ鱗次ニ配 備ス 活動地帯及受傷地帯 各自其場ニ於テ抵抗スルヲ要ス</p>	<p>退却ヲ制限ス抵抗陣地(兵力ノ四分ノ三ヲ配置ス)ニ於テ擊破 スルヲ圖ル此陣地ハ前哨ニ依リ掩護セラル 後方ニ障壁陣地ヲ設ケ軍司令部直轄諸隊之ヲ占領ス 喪失陣地奪還ノ爲ニ行フ運動火力ニ依リ支援セラルル如ク逆 襲部隊ノ目標ヲ定ム 抵抗陣地ノ後方ニ於ケル砲兵、此ノ砲兵ハ其ノ場ニ於テ交戦 シ得ル如ク梯次ニ配備セラル</p>		



第一線ニ於テ戰鬥群陣地編成ノ範例

第一圖

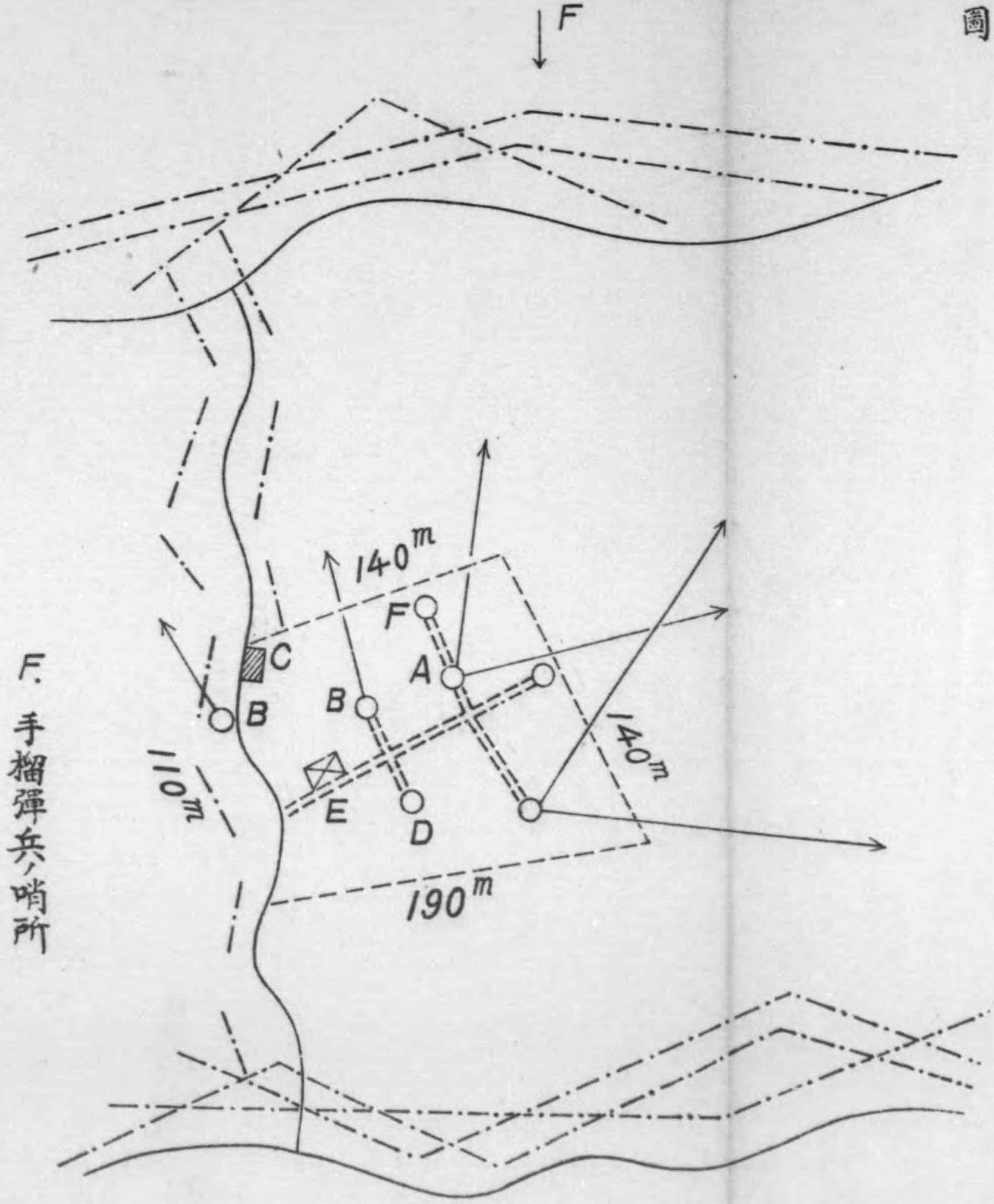


||| 地下交通壕  
 --- 鉄條網  
 - - - 低鉄條網

凡例  
 A 機関銃、位置  
 B 軽機関銃、位置  
 C 手榴彈手及選抜兵、位置  
 VB 擲彈銃、位置  
 E 監視所ヲ有スル戰鬥群  
 長、位置  
 P 監視哨



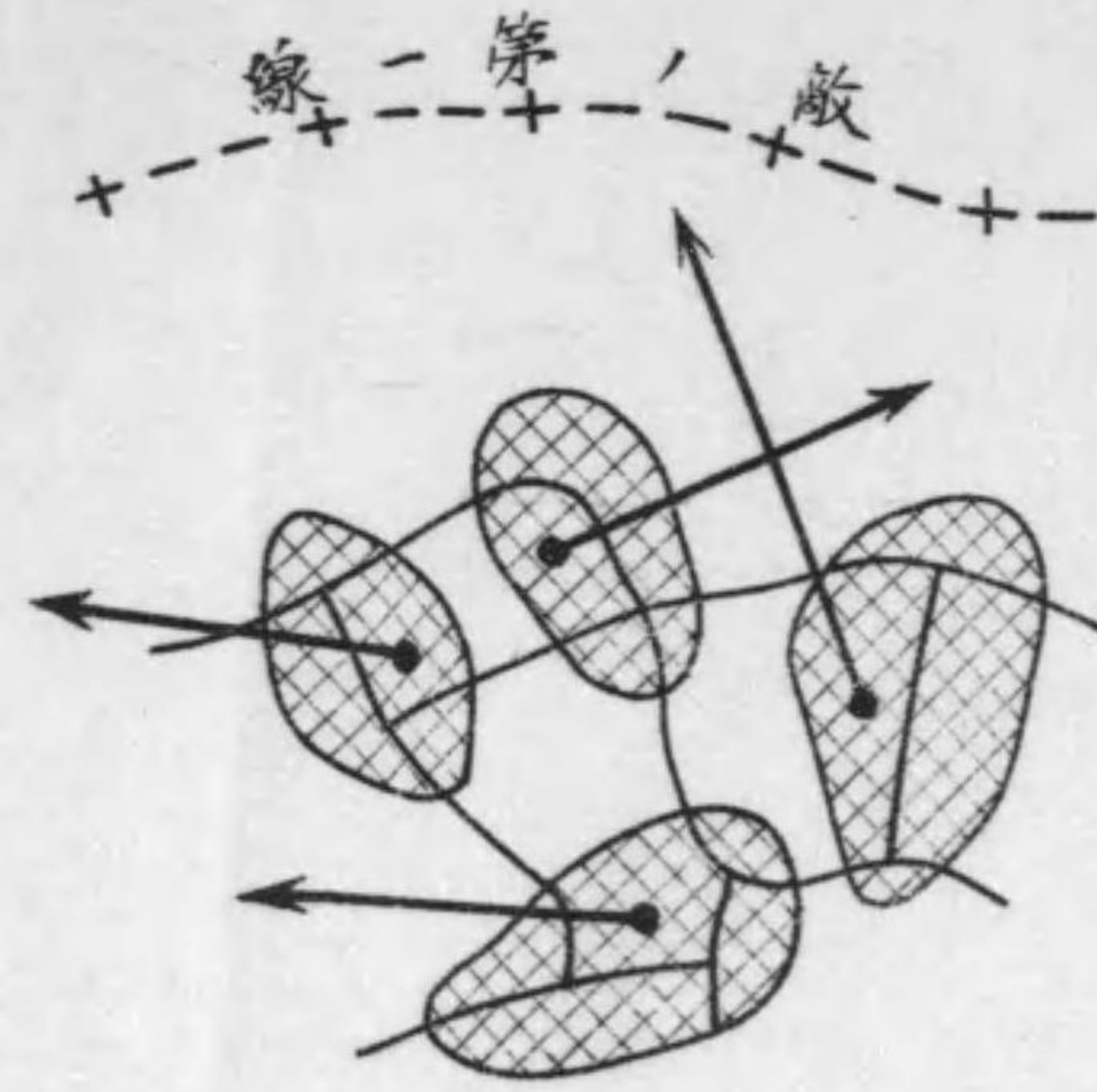
例ノ成編地陣群闘戦ルタラケ設ニ間壕行平両 第二圖



F. 手榴彈兵哨所



第一陣地帶ニ於テル一部ノ編成



四戰鬥群ヲ有スル支撐点ノ要圖



戰鬥群

抵抗中樞

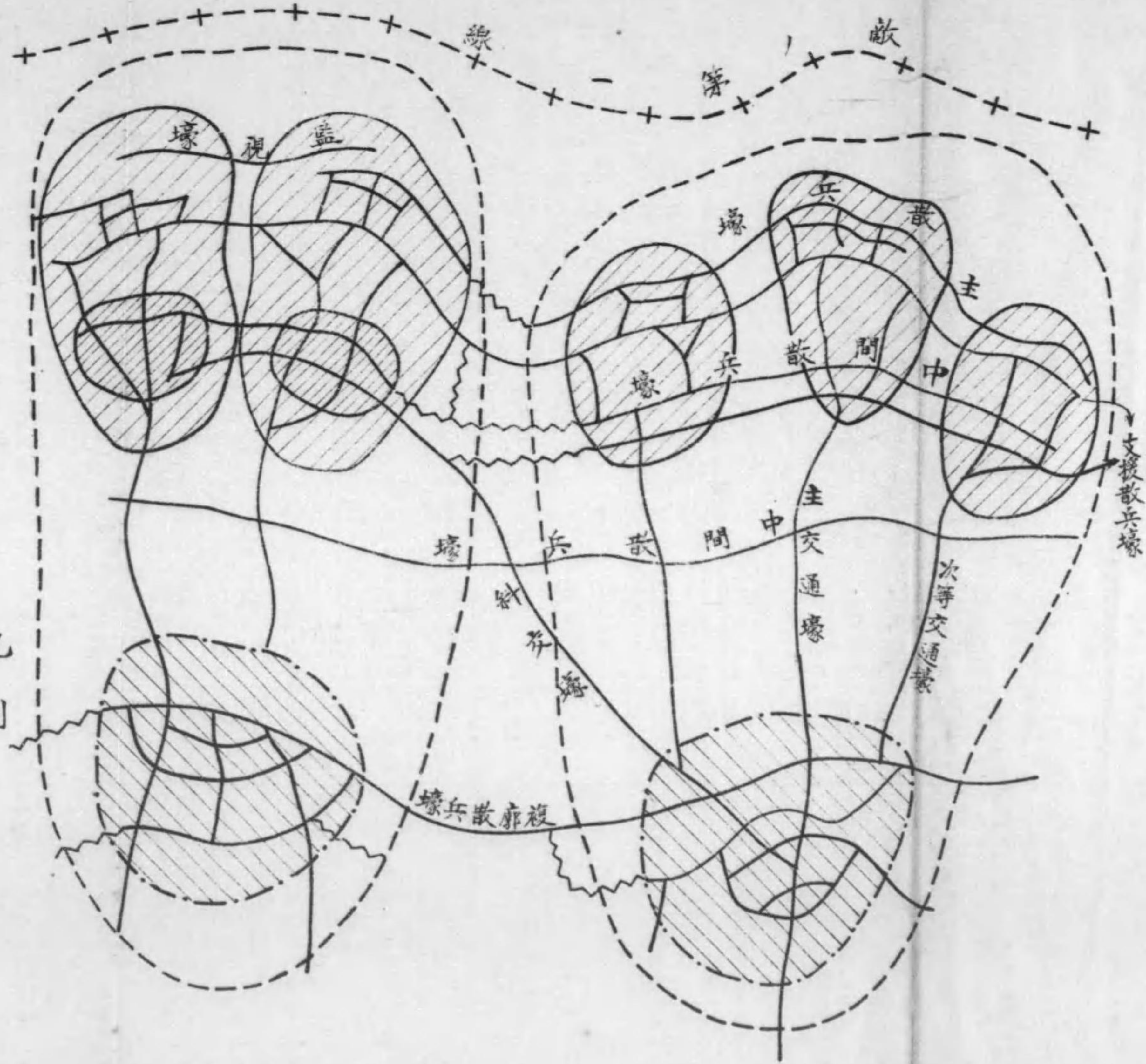
抵抗中樞ノ複部

支撐点

偽散兵壕及偽交通壕

散兵壕及交通壕

凡例





317  
434

大正十一年九月十二日印刷  
大正十一年九月二十三日發行

發行者

東京市麹町區飯田町二丁目五十二番地  
香月 鏞 一

發行所

東京市麹町區飯田町二丁目五十二番地  
借 行 社

印刷者

東京市麹町區畢町四番地  
小林 又 七

印刷所

陸軍省構内  
小林又七印刷所